

本学大学院に関するお問い合わせは、下記の問い合わせ先にお気軽にどうぞ。

事 項	問い合わせ先
・入学試験に関すること ・大学院学生募集要項に関すること	・入試課 TEL: 025-521-3293 E-mail: nyushi@juen.ac.jp
・大学院説明会・入学相談会に関すること	・広報課 TEL: 025-521-3626 E-mail: nyushik@juen.ac.jp
・教育課程（授業科目）に関すること ・教員免許状及び各種資格に関すること ・長期履修学生制度に関すること ・教育職員免許取得プログラムに関すること ・科目等履修生及び研究生に関すること ・修学全般に関すること	・教育支援課 TEL: 025-521-3275 025-521-3278 E-mail: kyosien@juen.ac.jp
・学校実習、教育実習及びボランティアに関すること	・学校実習課 TEL: 025-521-3276 025-521-3277 E-mail: zissyuu@juen.ac.jp
・学生生活全般に関すること	・学生支援課 TEL: 025-521-3283 E-mail: gkikaku@juen.ac.jp
・奨学金、入学金・授業料の免除及び徴収猶予に関すること	・学生支援課 TEL: 025-521-3286 E-mail: syogaku@juen.ac.jp
・学生宿舎に関すること	・学生支援課 TEL: 025-521-3287 E-mail: syukusya@juen.ac.jp
・就職に関すること	・プレースメント プラザ (学生支援課) TEL: 025-521-3597 E-mail: recruit@juen.ac.jp

#### 令和4年度入試日程

前期募集	インターネット出願登録期間	令和3年 9月15日(水)～9月22日(水)
	出願期間	令和3年 9月15日(水)～9月24日(金)
	試験日	令和3年10月30日(土)
中期募集	インターネット出願登録期間	令和3年11月 4日(木)～11月12日(金)
	出願期間	令和3年11月 4日(木)～11月15日(月)
	試験日	令和3年12月11日(土)
後期募集	インターネット出願登録期間	令和4年 1月26日(水)～2月 1日(火)
	出願期間	令和4年 1月26日(水)～2月 3日(木)
	試験日	令和4年 3月 3日(木)

※出願状況によっては、上記の試験日の翌日にも試験を行う場合があります。詳細については、本学ホームページをご覧ください。



#### 2022年度 大学院案内

令和3年7月発行  
編集・発行 / 上越教育大学 広報課  
〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地  
tel.025-521-3626  
https://www.juen.ac.jp/



# 国立大学法人 上越教育大学

学校教育研究科 専門職学位課程 / 修士課程

## 大学院案内 2022



ぜったい先生になりたい人と先生のための大学院  
JOETSU UNIVERSITY OF EDUCATION  
graduate school of education



学長からのメッセージ

令和4年4月, 学び続ける新大学院が始まります。

今, 学校教育は大きな変革の時期を迎えています。基礎的な知識を学ぶということは、昔も今も大切なことだと考えられていますが、現在では、同時に資質・能力を培うことが強く求められ始めています。「内容知」だけでなく「方法知」をも学ぶことが大切だと考えられているのです。

このことは、学び続けることの大切さを強調することにつながります。今は知らなくても、必要なときには、自分で情報を集め、取捨選択し、その情報を自家菜園中のものとし、それに基づいて判断し、行動する能力が求められるのです。とりわけ「教師」という職業には、社会の変化や学問の進歩に応じて、不断に学び続ける姿勢が求められると言えるでしょう。

本学の教員には、学校現場で教員として経験を積んだ者もいれば、それぞれの専門領域で研究者として活躍してきた者もいます。そうした多様なスタッフが、皆さんの学びを支援し、学び続ける力の涵養を目指します。

上越教育大学長  
林 泰成



1 学校実習を主体に現場を学び、専門的な研究を深め現場に活かす  
新教職大学院  
専門職学位課程  
▶ p.03・07・23～

「教育の総合大学」  
上越教育大学大学院  
5つの特色

2 「こころの問題」と向き合い、心理臨床専門職を養成する大学院  
修士課程  
▶ p.04・08・61～

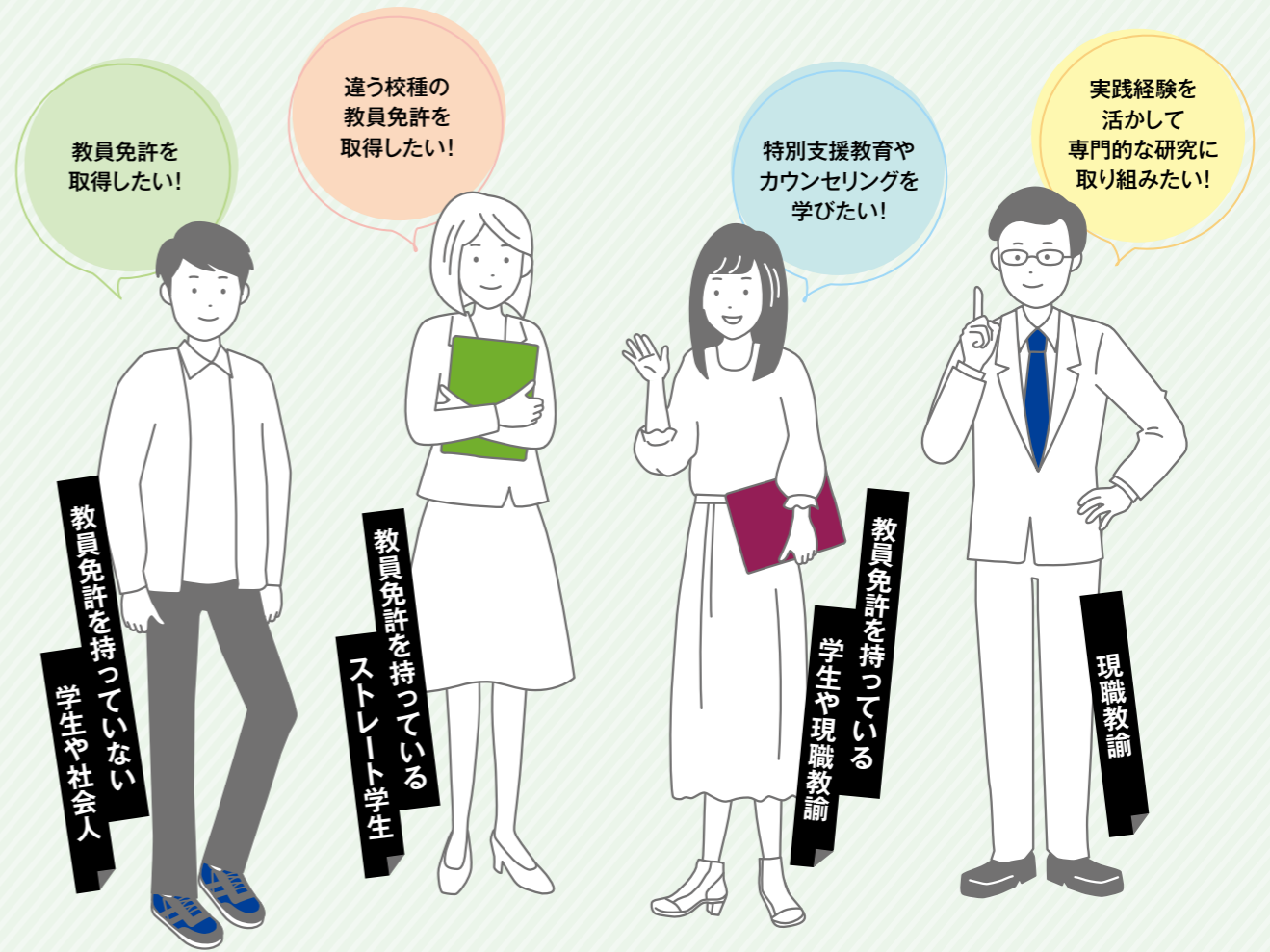
3 これから教員免許状を取得したい学生や社会人のための  
教育職員免許取得プログラム(免P)制度  
▶ p.11

4 多様な学び方を支える  
免除制度や奨学金  
▶ p.17

5 学生生活・修学・就職を支える  
充実したサポート体制  
▶ p.13・19・65

令和4年4月以降の専攻・コース・領域(分野)

専門職学位課程 (教職大学院)	教育実践高度化専攻	学校教育実践研究コース	学校経営・学校心理 学級経営・授業経営 道徳・進路・生徒指導
		教科教育・教科複合実践研究コース	人文・社会(国語、英語、社会) 自然科学(数学、理科、情報) 芸術創造(音楽、美術) 生活・健康(保健体育、技術、家庭) 教科横断・総合学習 (教科横断・探究的学習、グローバル・総合)
		発達支援教育実践研究コース	特別支援教育 幼年教育 学校ヘルスケア
修士課程	教育支援高度化専攻	心理臨床研究コース	心理臨床



# 令和4年4月，学び続ける

# 新大学院がはじまります。

学校現場における即戦力と学校教育の持続可能な発展に貢献できる  
力量を備えた高度専門職業人を養成する

## 新専門職学位課程(教職大学院)

### 教育実践高度化専攻

学校現場における実践に基づき、重要な課題を多面的・総合的に捉え解決する教育実践の新しい知や理論を創出する教育・研究を実施し、学校現場における即戦力と学校教育の持続可能な発展に貢献できる力量を備えた高度専門職業人を養成します。

3コース  
11領域  
13分野



### 学校教育 実践研究コース

学校経営や子どもの成長発達、教科教育と融合した学級経営、道徳・生徒指導・キャリア教育などに関する学校教育の諸課題を取り上げ、教育経営リーダーとしての資質・能力を探究し、いじめ防止や生徒指導に関する諸問題の解決を目指して、児童生徒、家庭、地域との協働活動に関する総合的かつ汎用的専門性を育成します。

学校経営・学校心理領域

学級経営・授業経営領域

道徳・進路・生徒指導領域

### 教科教育・教科複合 実践研究コース

先端技術を取り入れた教材開発や指導法開発を中心とした学校教育における各教科や教育実践上の諸課題について、教科教育と教科専門の融合や教科横断・複合領域的、地域連携等の観点を踏まえたこれからの各教科等の指導の在り方を含め、教育実践研究を通して深く探究し、先進的な教科等の指導や実践を推進するための高度な専門性を育成します。

#### 人文・社会領域

●国語分野 ●英語分野 ●社会分野

#### 自然科学領域

●数学分野 ●理科分野 ●情報分野

#### 芸術創造領域

●音楽分野 ●美術分野

#### 生活・健康領域

●保健体育分野 ●技術分野 ●家庭分野

#### 教科横断・総合学習領域

●教科横断・探究的学習分野 ●グローバル・総合分野

### 発達支援教育 実践研究コース

特別な教育的ニーズのある子ども、発達の初期段階にある子ども、健康・安全・食にかかわる教育支援の対象としての子どもなど、発達支援を必要とする子どもたちの諸問題を専門的知識に基づき的確に把握する能力と、教育臨床的実践研究を通して発達支援を推進するための高度な専門性を育成します。

特別支援教育領域

幼年教育領域

学校ヘルスケア領域

### 心理臨床 研究コース

臨床心理学の知識と研究方法を修得するとともに、人の心の問題に幅広く対応できるカリキュラムを通して、心理臨床に関する諸課題に対して理論と実践をともなって取り組むことができる力を養成します。また、心理臨床に関する実習プログラムによって、教育をはじめ、保健医療、福祉、司法・犯罪、産業・労働などの分野で活躍できる心理臨床専門職としての、公認心理師及び臨床心理士を養成します。

心理臨床領域

1コース  
1領域



## 取得できる学位

専門職学位課程  
(教職大学院)

教職修士(専門職)

修士課程

修士(教育学)

## 取得できる教員免許状と資格

各専攻・コース・領域・分野ごとに所定の単位を修得することによって取得できる教員免許状と資格は次の表のとおりです。

所属するコース・領域・分野以外の授業科目の単位を修得することにより、他の教員免許状を取得することも可能です。

専修免許状を取得する場合には、その免許状にかかる一種免許状を有することが必要です。

取得できる教員免許状	
<b>幼</b> 幼稚園教諭専修免許状	<b>特</b> 特別支援学校教諭専修免許状
<b>小</b> 小学校教諭専修免許状	<b>特1</b> 特別支援学校教諭一種免許状
<b>中</b> 中学校教諭専修免許状	(視)・視覚障害者
<b>高</b> 高等学校教諭専修免許状	(聴)・聴覚障害者
<b>養</b> 養護教諭専修免許状	(知)・知的障害者
<b>栄</b> 栄養教諭専修免許状	(肢)・肢体不自由者
	(病)・病弱者
	に関する教育の領域

課程	専攻	コース	領域/分野	開講科目に対応する教員免許状	追加履修等により取得可能な教員免許状	
専門職学位課程(教職大学院)	教育実践高度化専攻	学校教育実践研究コース	学校経営・学校心理	<b>幼</b> <b>小</b> <b>中</b> (国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 保健, 技術, 家庭, 職業, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教) <b>高</b> (国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 保健, 看護, 家庭, 情報, 農業, 工業, 商業, 水産, 福祉, 商船, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教)	現職教員は、特支2種免(視, 聴, 知, 肢, 病)を取得可能です。 (幼稚園, 小学校, 中学校又は高等学校の教諭の普通免許状を取得した後, 3年以上の教職経験が必要です。)	
			学級経営・授業経営			
			道徳・進路・生徒指導			
		教科教育・教科複合実践研究コース	人文・社会			国語
						英語
						社会
			自然科学			数学
						理科
						情報
			芸術創造			音楽
	美術					
発達支援教育実践研究コース	生活・健康	保健体育				
		技術				
	家庭					
	教科横断・総合学習	教科横断・探究的学習				
	グローバル・総合					
	幼年教育	<b>養</b> <b>栄</b> (※1) <b>幼</b> <b>小</b> <b>中</b> (国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 保健, 技術, 家庭, 職業, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教) <b>高</b> (国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 保健, 看護, 家庭, 情報, 農業, 工業, 商業, 水産, 福祉, 商船, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教)				
	学校ヘルスケア					
	特別支援教育	<b>特</b> (視, 聴, 知, 肢, 病) } (※2) <b>特1</b> (視, 聴, 知, 肢, 病) } (※2)	<b>幼</b> <b>小</b> <b>中</b> (国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 保健, 技術, 家庭, 職業, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教) <b>高</b> (国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 保健, 看護, 家庭, 情報, 農業, 工業, 商業, 水産, 福祉, 商船, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教)			

課程	専攻	コース	領域	開講科目に対応する教員免許状と資格
修士課程	教育支援高度化専攻	心理臨床研究コース	心理臨床	<b>【公認心理師】【臨床心理士】(※3)</b> <b>幼</b> <b>小</b> <b>中</b> (国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 保健, 技術, 家庭, 職業, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教) <b>高</b> (国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 保健, 看護, 家庭, 情報, 農業, 工業, 商業, 水産, 福祉, 商船, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教)

※1) 栄養教諭専修免許状取得には、栄養教諭一種免許及び管理栄養士免許が必要です。 ※2) 特別支援学校教諭免許状を取得する場合は、幼稚園, 小学校, 中学校又は高等学校の教諭の普通免許状を有していなければなりません。 ※3) 各資格の受験資格を得ることができます。

本学大学院の疑問にお答えします!

# 教えて! ジョーキョー先生!

課程の違いって? 実践力はどやって身につける? 免許取得と修了までの道筋は? 教員採用試験の対策はどうすればいい?

上越教育大学大学院にはどんな特色があるのか。入学後の不安や疑問にお答えします。

マナーブ・デ・ジョーキョー先生

上越教育大学の校舎をモチーフとしたキャラクター。未来に向かって飛躍するためのマントをなびかせ、額の大学名を、その志のように光り輝かせています。気品高く、雪に耐える丈夫な体と生涯学び続ける強い意志を持っています。チャームポイントは泣きぼくろ。感動屋で涙もろい性格です。



専門職学位課程(教職大学院)と修士課程の修了要件を教えてください。

▶ p.07



学校実習について具体的に教えてください。

▶ p.09



「教育職員免許取得プログラム(免P)」制度について詳しく教えてください!

▶ p.11



年間カリキュラムや履修スケジュールはどうなっていますか?

▶ p.13



現職教員が進学するメリットは?

▶ p.15



入学料や授業料等の納付金, 免除制度や奨学金, 生活環境について教えてください!

▶ p.17



就職について, どんな支援をしていますか? また, 詳しく相談できる場所はありますか?

▶ p.19

教えて! ジョーキョー先生!

# 専門職学位課程(教職大学院)と修士課程の 修了要件を教えてください。

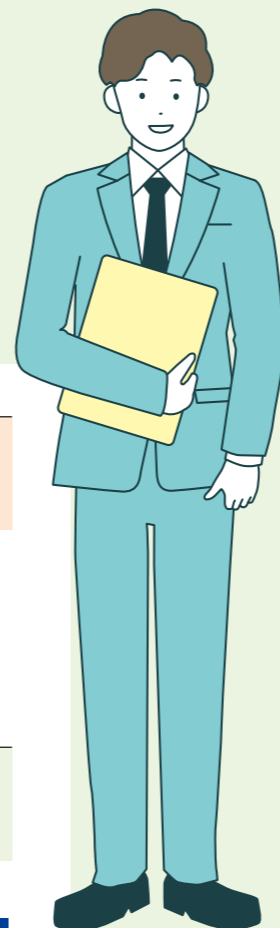
専門職学位課程(教職大学院)では教育実践力を育成するため「学校実習」が課せられます。修士課程では専門的な研究を中心とし、学位論文の執筆が課せられます。

## 専門職学位課程(教職大学院)

### 養成する人材像

1 学校教育に関する高度な専門知識と教育実践力を備え、学校現場における即戦力となるとともに、将来的には学校内での教員のリーダーとして、Society5.0時代に生きる児童生徒の教育の推進において中心的な役割を果たしていくことができる新人教員

2 現職教員学生を対象として、学級経営、授業経営、生徒指導、特別支援教育、外国人児童生徒への対応など、学校現場にみられる重要な諸課題や、Society5.0時代において生じる新たな課題の解決に向けて、学校を牽引することができる高度な専門性を備えたミドルリーダーや管理職となる教員



### 目標・目的

教員能力の一層の深化と充実を図る

### コース・領域(分野)

学校教育 実践研究コース	学校経営・学校心理
	学級経営・授業経営
	道徳・進路・生徒指導

教科教育・教科複合 実践研究コース	人文・社会	国語
		英語
		社会
	自然科学	数学
		理科
		情報
	芸術創造	音楽
		美術
	生活・健康	保健体育
		技術
		家庭
	教科横断・総合学習	教科横断・探究的学習
グローバル・総合		

発達支援教育 実践研究コース	特別支援教育
	幼年教育
	学校ヘルスケア

### 修了要件 単位数:46単位

共通科目 16  
コース・領域(分野)に関わらず、  
全学生が共通に履修する教職の科目

- 教育課程の編成及び実施に関する科目
- 教科等の実践的な指導方法に関する科目
- 生徒指導及び教育相談に関する科目
- 学級経営及び学校経営に関する科目
- 学校教育と教員の在り方に関する科目

コース別  
選択科目 20  
各コース・領域(分野)が扱う専門的  
な内容の科目と、学校実習を検討・  
省察する科目

- プロフェッショナル科目
- 学校支援課題探究リフレクション
- 学校支援課題探究プレゼンテーション

実習科目 10  
学校実習の実践を通して教育現場に  
おいて適切に対応する力を身に付け  
る科目

- 学校支援フィールドワーク(学校実習)  
10単位:150時間×2年  
制度上、教職大学院に義務付けられている実習です。  
※1年制プログラムは異なります。

学校支援プロジェクト科目

学修成果報告書

学位  
教職修士(専門職)

## 修士課程

### 養成する人材像

学校やその周辺領域(保健医療、福祉、司法・犯罪、産業・労働)において、公認心理師や臨床心理士として、児童生徒の心の健康や豊かさを中心とする心理臨床に関する課題に幅広く対応できる高度な専門知識と臨床実践力を備え、学校と協働してその解決にあたることのできる教育支援人材

### 目標・目的

教育活動を支援する人材を養成する

### コース・領域

心理臨床研究コース	心理臨床
-----------	------



### 修了要件 単位数:30単位

専攻科目 30  
心理臨床に関する高度な専門性を  
身に付けるための科目

- 専門科目
- 専門セミナー

+

修士論文

所要の単位を修得することで  
公認心理師 及び 臨床心理士の  
受験資格を得ることができます。

学位  
修士(教育学)

# 学校実習について具体的に教えてください。

## 1 学校実習の構成

学校実習を「学校支援フィールドワーク」とし、実践の省察を行う「学校支援課題探究リフレクション」、成果の還元を行う「学校支援課題探究プレゼンテーション」の2つの科目と組合せ、「学校支援プロジェクト」として実施します。「学校連携(実践)」、「実践の省察」、「成果の還元」という一連の活動を通して、臨床力・協働力を高め、即応力を身に付けるというコンセプトです。

各コースの領域・分野が、それぞれに独自の取組テーマを設定し、多様で専門的な実践を介した学びを得ることが可能です。

学校実習(学校支援プロジェクト)テーマ別取組単位(p.23~60を参照)

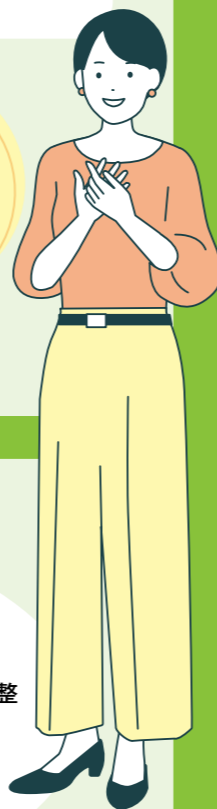


各々の領域・分野の取組例に基づいて学校実習の内容の選択・検討

選択・検討した学校実習の内容と各学校から提出された連携希望書の内容を大学等がマッチング・調整

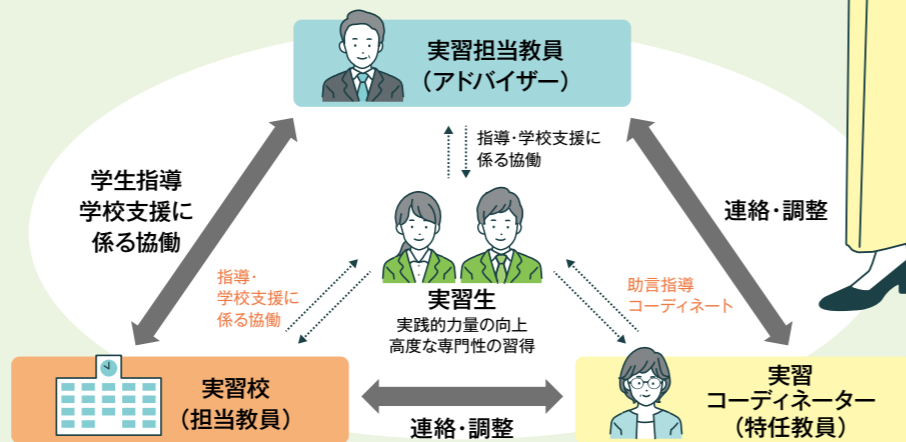
連携協力校における実習

大学のサポート体制が整っているので安心!



## 2 実習生の指導体制

教職大学院では、実習担当教員(専任教員)をアドバイザーと言います。学校実習は、それぞれの学生が選んだアドバイザーの指導のもとに、主に同じアドバイザーが指導する学生でチームを組み、そのチーム単位で実施します。その活動をコーディネーターの特任教員が支えています。

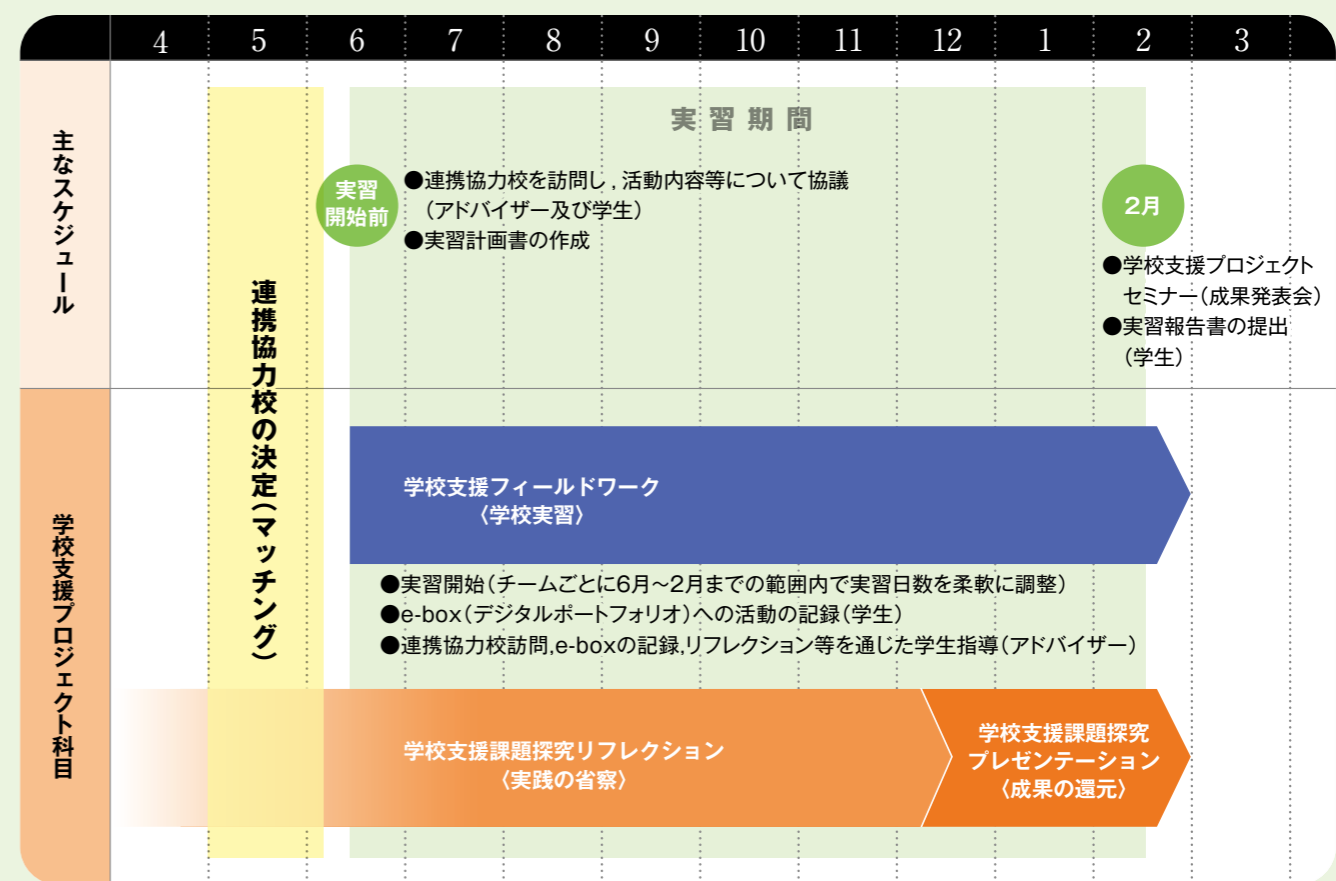


単に学部段階における教育実習の延長ではなく、大学院学生が実践的な指導力を身に付けるため、学校教育全般にわたる諸課題に主体的に取り組むことのできる資質能力を培う高度に専門的な実習です。

## 3 学校支援プロジェクトの流れ

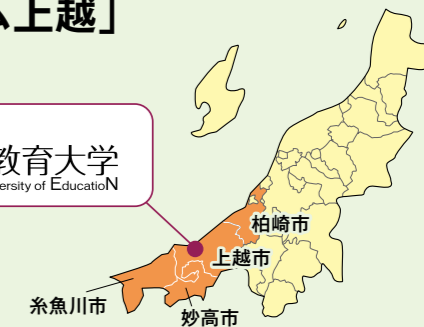
「学校支援プロジェクト」は、学校現場が抱える課題や取り組んでいる主題等の解決を支援するものとして実施しています。このため、各学校から提出された連携希望内容と、各コースの領域・分野の専門性や特性及び学生の希望する追究課題を突き合わせてマッチング作業を行い、各学生の実習校を決定します。

連携協力校には、追究テーマが一致する複数の学生が、学年や学部新卒学生・現職教員学生の別なくチームを組んで1年間で150時間(5単位)の実習として入り、観察や調査等による現状の把握と分析、先行研究の分析検討等に基づき、アドバイザーの指導助言を得ながら改善案を検討します。活動の成果は最終的に「学校支援プロジェクト実践研究」にまとめて連携協力校に報告するとともに、発表の場として「学校支援プロジェクトセミナー」を開催し、広く地域に公開します。



## 4 学校実習を支える「学校実習コンソーシアム上越」

多くの大学院学生(最大約380名)が学校現場に入ることから、学校実習を円滑に実施するために、本学と上越市、柏崎市、糸魚川市、妙高市の教育委員会及び校長会が協働して学校実習コンソーシアム上越を構成し、4市にある全ての小学校、中学校、特別支援学校及び教育委員会を連携協力校とできる体制を確立し、この学校等での実習を原則としています。



教えて! ジョーキョー先生!

# 「教育職員免許取得プログラム(免P)」制度について詳しく教えてください!

これから教員免許状を取得したい学生や社会人等の方が、大学院2年分の授業料で3年間、大学院及び学部で学び、学位取得と教育職員免許状の取得を可能にするプログラムです。

## 1 「教育職員免許取得プログラム(免P)」制度とは

このプログラムは、長期履修学生制度に基づき3年間で大学院専門職学位課程(教職大学院)の教育課程と学部の教育課程を併せて履修することにより、教職に関する高度な専門知識を修得するとともに、得意分野を持った小学校教員や中学校教員等の養成を目指すものです。学部の教員養成カリキュラムを履修し、単位を修得することにより、教育職員免許状取得の所要資格を得ることができます。

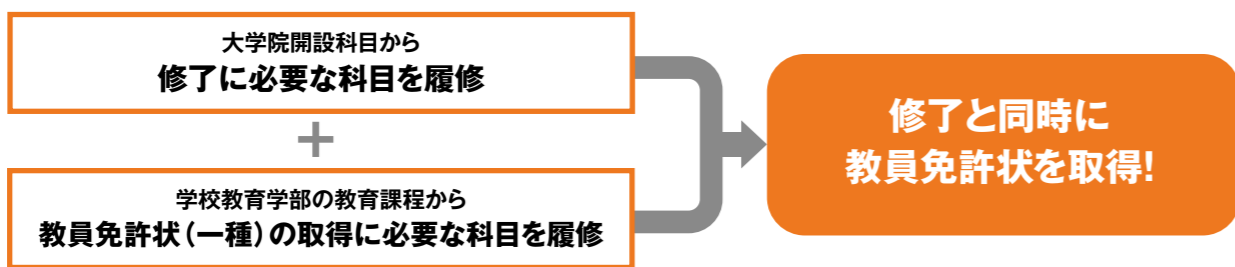
### ■対象者

専門職学位課程(教職大学院)	本プログラムを申請した方で、大学院の入学試験に合格した方
----------------	------------------------------

※修士課程の心理臨床研究コースや在留資格が「留学」である外国人の学生等は、本プログラムを申請することができません。

### ■免P制度の概要

標準修業年限(2年)+1年=3年間



■募集人員 100人程度

### ■これまでの受講者数

平成28年度 入学者	平成29年度 入学者	平成30年度 入学者	平成31年度 入学者	令和2年度 入学者
94人	128人	99人	106人	106人

■受講者の教員就職状況 (各修了年の9月30日現在)

修了年月	受講修了者数	教員就職者	教員就職率
平成30年3月修了生	92人	81人(42人)	88.0%
平成31年3月修了生	103人	95人(37人)	92.2%
令和2年3月修了生	117人	101人(21人)	86.3%

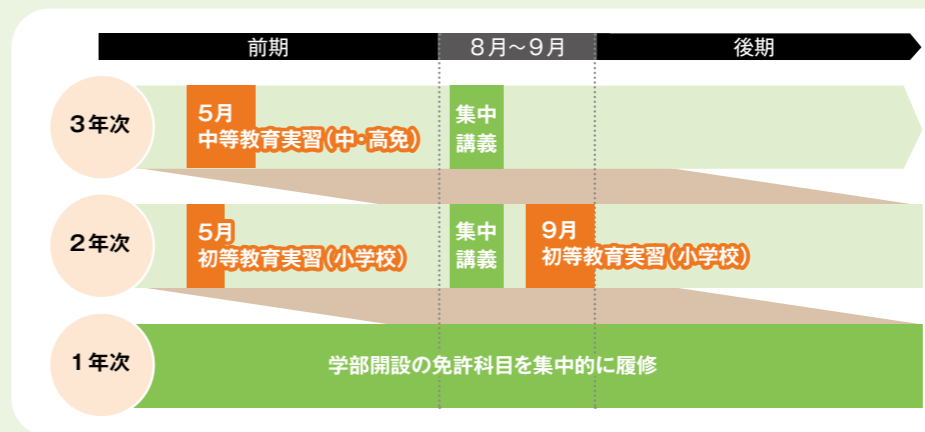
「教員就職者」の( )内の数は、期限付き教員として採用された人数で内数。

### ■授業料

本学が定めた授業料年額×標準修業年限(2年)÷長期履修期間(3年) ※通常の学生2年分の授業料を3年間で分割納付することになります。

つまり、3年間学べて、学費は2年分!  $535,800円 \times 2年 \div 3年 = 357,200円$  (年額)

## 2 免P生の免許科目履修イメージ



左図は、免P制度により小・中・高等学校教諭免許状を取得する場合の免許科目の履修イメージを示しています。

1年次は、免許取得のための授業が多く、8~9割、学部開設の免許科目を集中的に履修します。2年次、3年次は、教育実習を中心に取り組みます。

## 3 取得する免許状に必要な単位数 (令和2年度入学者プログラムによる)

所有する免許状	取得する免許状			
	小学校教諭一種	中学校教諭一種	高等学校教諭一種	幼稚園教諭一種
免許状なし	76	74	76	63
小一種免許状所有	—	56	58	45
中一種免許状所有	56	(他教科)36以上 (他教科)28(※)	58	45
高一種免許状所有	56	56	(他教科)40以上 (他教科)24(※)	45
幼一種免許状所有	56	56	58	—

上記の単位数は、卒業学部の既修得単位、複数免許を取得する際の教科・履修方法等により異なる場合があります。

(※)教育委員会が実施する教育職員検定による場合

所有する免許状がなくても、76単位修得することにより、小学校教諭一種免許状を取得することができます。

また、取得する免許・教科によって違いはありますが、最小では上記に加え35単位程度を追加することにより中学校一種・高等学校一種の免許状を取得することも可能です。

## 4 教育実習の履修

大学と周辺自治体が連携して実施!

教育実習はすべて、附属学校・園と周辺自治体の幼小中学校で実施します。上越・妙高・糸魚川・柏崎4市と連携協力体制をとっています。

### 母校実習とくらべて……

- 資料探しに大学附属図書館が利用可能
- 困ったときは学校実習・ボランティア支援室がサポート
- 大学と実習校とが緊密に連絡をとりあえる

### 長期履修学生制度があります

#### 長期履修学生制度とは

この制度は、大学院の専門職学位課程(教職大学院)の通常の標準修業年限2年を超えて3年間にわたり計画的に教育課程を履修することを認める制度です。

本長期履修学生制度を申請した方で、大学院の入学試験に合格し、併せて本長期履修学生制度の申請を許可された方がこの制度の対象となります。

#### 長期履修を申請できる方

本学大学院の専門職学位課程(教職大学院)への出願者のうち、主たる生計を維持するため職業に就いている方や疾病等のため、毎日の通学が困難な方です。

#### 授業料

通常の学生の2年分の授業料を3年間で分割納付することになります。

「教育職員免許取得プログラム(免P)」制度では、入学者の目的に応じて様々な免許状を取得するための履修計画を立てることができます。

例えば、中学校・高等学校の免許状を持っている方が、小学校や幼稚園の免許状を取得する場合や、同一校種で他教科の免許を取得する場合にも、本プログラムの利用が可能です。

出身大学で教職課程の単位を修得している場合には、その単

位と本プログラムで修得した単位を合算して免許申請をすることができます。

教育職員免許取得プログラム受講者が希望する免許を取得できるよう、免許取得のための修学指導については教育支援課が、教育実習については学校実習課が問い合わせ等に応じています。また、学生生活については学生支援課が、就職についてはプレイメントプラザが親身に支援する体制を整えています。

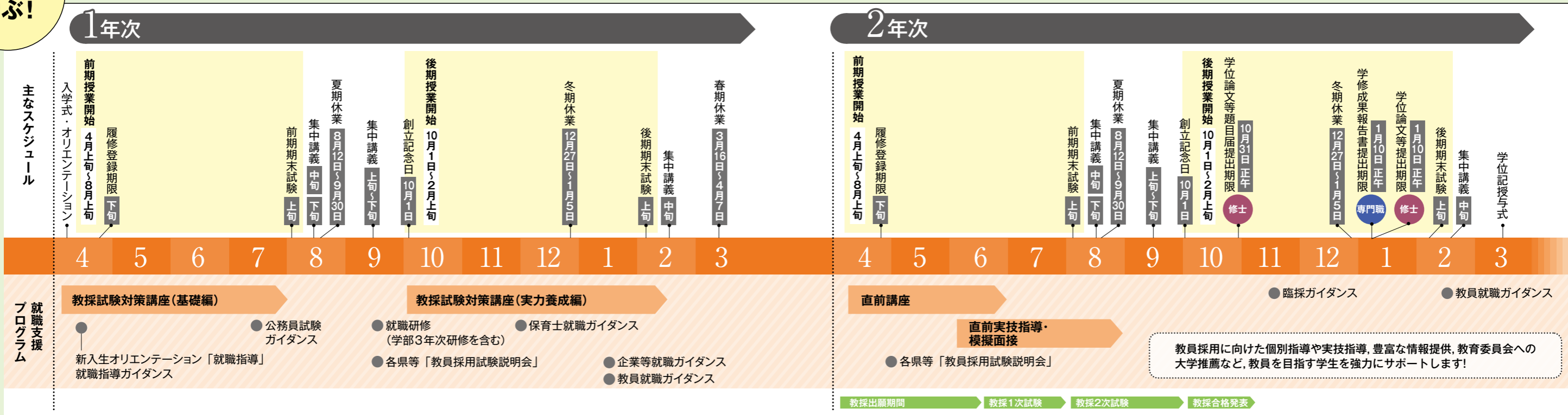
教えて! ジョーキョー先生!

# 年間カリキュラムや履修スケジュールは どうなっていますか?

2年間で修了する場合と、免Pで3年間在籍する場合とで異なります。  
大学院進学目的別に、個々の学生に応じて時間割をカスタマイズしていきます。

## 2年間で学ぶ! 主な履修スケジュール

※このスケジュールとは別に、専門職学位課程(教職大学院)では「学校支援フィールドワーク」として学校実習が実施されます。



## 免Pで3年間学ぶ! 教育職員免許取得プログラム受講者の主な履修スケジュール

【小・中学校教諭一種免許状を取得する場合の例】



※介護等の体験(1年次:特別支援学校2日間, 2年次:社会福祉施設等5日間)は、該当者のみ行います。  
※教育実習は、上越市、妙高市、糸魚川市及び柏崎市等の公立学校及び附属学校・園で実施します。  
※このスケジュールとは別に、2年次から3年次にかけて、「学校支援フィールドワーク」として学校実習が実施されます。

### 学期(授業期間)・授業時間

学年を前期(4月1日から9月30日まで)及び後期(10月1日から翌年3月31日まで)の2学期に区分しています。

授業時間は、原則として月曜日から金曜日までの各5時限(8時40分~17時50分)です。

なお、教育職員免許取得プログラム受講者に係る一部の授業科目に限り、第6時限(18時~19時30分)に実施しています。

### ■時間割

時限	授業時間
第1時限	8時40分 ~ 10時10分
第2時限	10時20分 ~ 11時50分
第3時限	13時00分 ~ 14時30分
第4時限	14時40分 ~ 16時10分
第5時限	16時20分 ~ 17時50分
第6時限	18時00分 ~ 19時30分

### 修了及び教員免許取得に関するサポート体制

教育支援課では学生の履修計画や必要単位について、随時相談することができます。履修については、学務情報システムにログインして登録することにより、修了や希望する免許に必要な科目を把握できます。アドバイザーおよび教育支援課で個々の学生に必要な科目について共有することにより、単位や免許の取得と修了までの履修計画を滞り無く実施することが可能となっています。



# 現職教員が進学するメリットは?

## 1 大幅に拡充された専門職学位課程と臨床心理の修士課程

専門職学位課程には学校教育における総合的かつ汎用的専門性の育成に加え、先進的な教科等の指導や実践、または発達支援を推進するための高度な専門職を育成する19の領域・分野を設置しています。また、修士課程には臨床心理学に関する研究課題や実習プログラムを扱う領域を設置しています。

在籍中あるいは修了した現職教員学生は、「自分の実践を理論的に、新しい専門知識で裏付けることができる」「学位や資格、免許等を取ってキャリアアップに繋げられる」「今までと異なる視点を獲得し、ゆったりと学校教育を見つめ直せる」「学部新卒学生と一緒に学ぶことで、若い世代との交流等により刺激を受けられる」など、進学したことによる複数のメリットをあげています。



# 令和4年度から教職大学院が拡充され、幅広くより高度な実践研究が可能となりました。

一部の領域では1年で修了するプログラムを設定しています。

### ■1年制プログラムとは

本学大学院専門職学位課程教育実践高度化専攻において、現職教員としての経験年数や資質を考慮し、入学前の教員としての実務経験等に相当する業績を有する者について、実習により修得する単位の一部を免除することにより、1年間で修了することを可能とするものです。

### ■1年制プログラムの種類及び目的

教育経営プロフェッショナル育成プログラム	様々な教育課題に直面している教育経営に関係する学校管理職や教育行政職等のプロフェッショナルの育成
教育実践プロフェッショナル育成プログラム	各領域の特色を生かした学校・地域の教育力を向上する指導的ミドルリーダーの育成

### ■コース(領域)が実施するプログラム及び育成する人材

プログラム名	コース(領域)名	育成する人材
教育経営プロフェッショナル育成プログラム	学校教育実践研究コース(学校経営・学校心理)	教育改革動向や組織マネジメント、リーダーシップ論などを学び、変動し続ける社会の中で、学校教育を多面的にとらえ、学校内外の連携・協働をつくりだせる教育経営プロフェッショナルを育成する。
教育実践プロフェッショナル育成プログラム	学校教育実践研究コース(学級経営・授業経営)	カリキュラム・マネジメントの3側面についての理論と方法論を学び、教科教育と学級経営を主軸とした教育課程を編成・実施・評価・改善できるリーダーを育成する。
	教科教育・教科複合実践研究コース(自然科学)	科学領域を中心とする専門的内容とその教育に関する質的・量的研究方法論を実践的に学び、エビデンス・ベースの学校の教育改革を後押しする人材、特に「主体的・対話的で深い学び」、「理数教育の充実」を中心とする教育改革をエビデンス・ベースで推進できるリーダーを育成する。
	教科教育・教科複合実践研究コース(教科横断・総合学習)	①持続可能な社会の創り手の育成に向け、学習過程の創造、ICTを活用した教材・カリキュラム開発、カリキュラム・マネジメントの理論と実践を学ぶ。 ②SDGs(ESD)を手掛かりに、内容知と方法知を融合して創造的に課題解決する教科横断的な学習、総合学習等を編成、実施、評価、再編成(改善)できるリーダーを育成する。

### ■申請資格

学生募集要項をご覧ください。※申請資格に必要な実務の経験年数が、各プログラムのコース(領域)毎に異なりますので、ご注意ください。

## 2 現職教員が利用可能な各種サポート

本学大学院を受験し進学する際には、教育委員会、文部科学省、人事院が定める各種制度に加え、本学独自の制度により様々なサポートを得ることができます。

### 筆記試験の免除

※対象となる課程・専攻・コース等は、学生募集要項でご確認ください。

### 大学院修学休業制度・自己啓発等休業制度を利用できます

### 授業料の免除

「大学院修学休業制度」又は「自己啓発等休業制度」を利用して本学大学院に入学された現職教員の方に対し、申請により授業料の全額を免除する制度があります。

※大学院修学休業制度▼  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kyuugyou/catch.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyuugyou/catch.htm)  
自己啓発等休業制度▼  
<https://www.jinji.go.jp/jikokeihatu/jikokeihatu.html>

## Q&A 生活環境(住居、通学、家族)はどうなりますか?

子どもがいるのですが、近くに幼稚園や学校、病院はありますか?

世帯用学生宿舎の近くに本学の附属幼稚園があります。緑豊かな自然に囲まれ、幼児の主体的な遊びを大切にされた教育を推進しています。本学大学院生のお子さんも入園されています。預かり保育も実施しています。(詳細は附属幼稚園にお問い合わせください。)また、大学から約5km離れた場所に本学の附属小学校と中学校があり、2~4kmの範囲に公私立の幼稚園・保育園、公立の小・中学校、1~4kmの範囲に総合病院や各種専門病院、休日診療所があります。



家族と同居する方のための宿舎です。現職教員の方は単身者でも入居が可能です。

教えて! ジョーキョー先生!

# 入学料や授業料等の納付金, 免除制度や奨学金, 生活環境について教えてください!

お金に関すること, お答えします!

## 1 納付金

入学料・授業料は以下のとおりです。

入学料	282,000円
-----	----------

※入学手続き時に納付

区分	年額
一般学生(2年)	535,800円
長期履修学生制度許可者(3年間) (教育職員免許取得プログラム受講者を含む)	357,200円

※年額を前期と後期に分けて納入する分割納入ができます。  
※授業料免除を申請する場合は、分割納入としてください。

## 2 入学料・授業料の免除等

### ■入学料の免除・徴収猶予

大学院の研究科に入学する方で、経済的理由により、納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合又は入学前1年以内に学資負担者の死亡などのため、納付が著しく困難であると認められる場合に、願い出により、選考の上、全額若しくは半額の免除又は徴収を猶予する制度があります。

### ■授業料の免除・徴収猶予

経済的理由及び特別な事情による免除	経済的理由により、納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合又は入学前1年以内に学資負担者の死亡などのため、納付が著しく困難であると認められる場合に、願い出により、選考の上、全額若しくは半額の免除又は徴収を猶予する制度があります。
大学院修学休業制度・自己啓発等休業制度等を利用して修学する方の免除	教育公務員特例法第26条の規定による「大学院修学休業制度」、国家公務員の自己啓発等休業に関する法律及び地方公務員法第26条の5の規定による「自己啓発等休業制度」、又はそれらに準ずると学長が特に認めた制度を利用して修学する方を対象に、全額を免除する制度があります。
教員採用候補者名簿登載期間延長制度を利用して修学する方への免除	教員採用候補者名簿登載期間延長等の特例措置を利用して修学する方を対象に、全額又は半額を免除する制度があります。
社会経験者への修学(学び直し)支援	大学卒業後5年以上の社会経験(会社勤務、アルバイト、子育て、留学、大学院修学等)を有する教員免許状所有者で、入学時における年齢が50歳未満の方を対象に(派遣教員は対象としない。)入学初年度のみ半額を免除する制度があります。また、世帯用学生宿舎を優先的に貸与します。

### ■大規模災害の被災者への支援を行っています

大規模災害\*により被災した方への支援として、検定料の全額を免除する制度、入学料及び授業料の全額又は半額を免除する制度があります。  
\*東日本大震災、熊本地震、平成30年7月豪雨、平成30年北海道胆振東部地震、令和元年台風第19号等、令和2年7月豪雨、長野県北部地震、福島第一原子力発電所の事故

## 3 奨学金 日本学生支援機構/上越教育大学くびきの奨学金

### 日本学生支援機構

学業、人物がともに優秀で健康でありながら、経済的な理由のため修学が困難であると認められる方に学資を貸与して、修学を援助することを目的としています。

#### ■申請手続

##### 予約採用

大学院入学前に奨学金の申請を行うことができます。詳しくはHPをご確認ください。

##### 定期採用

大学院入学後に申請を行うことができます。入学直後に説明会を開催します。

#### ■奨学金の種類

第一種奨学金(無利子)	50,000円・88,000円から選択
第二種奨学金(有利子)	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円から選択

※第一種奨学金については、貸与終了時に優れた研究業績等が認められた場合、奨学金の返還が全額または半額免除される制度があります。

### 上越教育大学くびきの奨学金

経済的理由により修学が困難でかつ成績が優秀と認められる方に、上越教育大学が返還不要の奨学金を支給します。

#### ■申請手続

前期、後期毎に申請する授業料免除申請の際、同時に申請します。

#### ■奨学金の金額

大学院学生(修学期間2年)・学部学生	前期・後期 各80,000円
免P学生・長期履修学生(修学期間3年)	前期・後期 各50,000円

#### ■受給者の選考

授業料免除申請者で、免除選考基準該当者の中から、「授業料免除を許可されなかった者」「授業料半額免除許可された者」の順にそれぞれ困窮度の高い順に選考されます。

## キャンパスライフ 耳より情報

### 学生宿舎

キャンパス内には600人以上が生活できる学生宿舎があります。(▶ p.65)

大学院生の住居は、学生宿舎(単身用、世帯用、国際)への入居と近隣アパートへの入居がほぼ半々くらいです。単身用学生宿舎に入居すると寄宿料、共益費、電気・ガス料金を合わせて月額約1~2万円程度の支出で済みます。各階の補食室で自炊ができて、無料の駐車場もあるので生活費をかなり抑えることができます。

### アルバイト

大学院学生の約半数の方がアルバイトをしていて、アルバイト先は家庭教師・塾講師が一番多く、次にレストラン等の飲食店となっています。学内でアルバイトができる学内ワークスタディ(附属図書館、附属幼稚園等)のほか、学外でのアルバイトについては、学生支援課・プレイスメントプラザで相談を受けています。

### アパート

大学周辺の徒歩圏内にたくさんのアパートがあります。大学院学生でアパートに入居している方の約1割の方が家賃3万円未満、約4割の方が家賃3万円から5万円のアパートに入居しています。学生宿舎を含む住居に関するについては、学生支援課で相談を受けています。

### 生活費

上越市は、海と山に囲まれた自然豊かな環境にあり、食べ物は新鮮・安価で東京などと比べると物価が安く暮らしやすい地域です。大学院学生の約半数の方が1か月5万円以内、約2割の方が5万円から7万円を生活費としているようです。

入学料・授業料について  
もっと詳しく!

Q 入学料・授業料の免除申請時期はいつごろですか?

A 入学料免除は、入学手続きの際に、申請書を提出していただきます。

授業料免除については、新生は、入学手続きの書類一式の中に要項が同封されるので必要書類を準備していたら、入学後すぐに申請することになります。

奨学金のこと、もっと教えて!

Q 奨学金を受給している人はどれくらいいますか?

A 大学院生の約3割の方が、日本学生支援機構の第一種・第二種等ならぬ奨学金の貸与を受けています。奨学金は、入学前でも申請することができますのでホームページでご確認ください。

くびきの奨学金は本学独自の返済不要の奨学金です。授業料免除を申請した方の中から困窮度の高い順に支給されます。



教えて! ジョーキョー先生!

就職について、どんな支援をしていますか?  
また、詳しく相談できる場所はありますか?

さまざまな就職支援を行っています!  
まずはPプラにお越しく下さい!

## 1 プレイメントプラザ(Pプラ)の利用

### ■プレイメントプラザ(Pプラ)とは

Pプラは、就職や進路に関する相談や情報提供を行います。就職に関する各種ガイダンスのほか、「教員採用試験対策講座」などを開講し、教員を目指す学生を強力にサポートします。

Pプラには、就職・進路に関する豊富な資料や教材がそろっており、様々な情報を得ることができます。

キャリアコーディネーター(公立学校の校長職経験者)が、教員就職やその他の就職・進路に関する幅広い相談に応じますので、気軽に利用してください。

就職・進路に関する  
各種資料を自由に閲覧し、  
学習できます

- 教員採用関係
- 公務員・保育士関係
- 企業就職関係
- その他

大学院1年次から  
教員採用試験直前までの  
一貫した連続性を考慮した  
就職ガイダンスの実施

- 就職活動ガイダンス
- 教員就職ガイダンス
- 公務員試験ガイダンスなど

キャリアコーディネーターに  
よる個別相談・指導

- 就職・進路に関する相談
- 小論文・自己PR文の添削指導
- 模擬面接(個人・集団面接、集団討論等)の指導
- その他、教員就職や就職試験に関する相談・指導など

充実した  
就職支援プログラム

- 教員採用試験対策講座
- 学内模擬試験
- 合格者体験発表会
- 教育委員会による教員採用説明会 など

詳しくは次ページの2へ!

1年生からPプラを利用する学生は、Pプラの利用開始が遅かった学生より、教員採用試験の合格率が高いことがわかっています。早い時期から定期的にPプラを活用しましょう!

幅広い相談・指導に対応する  
キャリアコーディネーター

Pプラには、就職・進路相談や就職指導を担当するキャリアコーディネーター(公立学校の校長職経験者)がいます。経験豊かな学校教員の立場から、論作文・自己PR文の添削指導や模擬面接(個人・集団面接、集団討論等)の指導など、学生一人ひとりに合わせた個別指導により就職試験対策をサポートします。

1回30分。予約制です。

Q & A

教員就職率はどれくらい?

Q 修了者の就職状況を詳しく教えて下さい!

A 本学では、教職大学院修了者のほぼ全員が教員として就職しています。



令和2(2020)年3月修了者の就職状況(現職教員を除く)

令和2(2020)年9月30日現在(人)

課程	教員就職者									保育士	官公庁	企業等	進学	その他	合計	教員就職率 (※)
	小学校	義務教育学校	中学校	中等教育学校	高等学校	特別支援学校	幼稚園	その他	計							
専門職学位課程(教職大学院)	30 (4)	-	13 (3)	1	4 (1)	2	1	-	51 (8)	-	1	-	-	-	52	98.1%

「教員就職者」の( )内の数は、期限付き教員として採用された人数で内数です。「官公庁」「企業等」欄には臨時採用の者を含みます。  
※ 教員就職率は、修了者数から進学者と外国人留学生を除いた数を母数とした教員就職者の割合を示します。

## 2 各種就職支援プログラムの活用

就職試験や就職活動のためには、Pプラやインターネットを活用し、自らが主体的に志望先に関する情報を集める必要があります。Pプラを利用し、各種ガイダンス・講座、教員採用試験学習支援システムなどを積極的に活用しましょう!

教員採用試験  
対策講座

学内外の専門講師による講座を開講

学内模擬試験

年6回程度実施

合格者体験  
発表会

就職ガイダンスの中で、年3回程度実施

教育委員会による  
教員採用説明会

教育委員会担当者による説明会を実施

教員採用試験学習  
支援システム

各種資料、求人情報、動画配信などのサービスを実施\*

※「教員採用試験学習支援システム」をインターネット上で利用し、教員採用試験関連資料、臨床心理士・幼稚園教諭・保育士の求人関連資料、教員採用試験対策講座の動画配信などのサービスを受けることができます。

## 3 教員採用試験における試験の一部免除等の制度

教員採用試験において大学推薦制度を利用すると、試験の一部が免除されます。また、多くの都道府県・指定都市教育委員会では、大学院在学者・進学者に対する教員採用試験の一部免除等の制度(採用候補者名簿登載期間の延長、次年度以降の一部試験免除など)を設けています。以下に掲載している情報は、令和2年度に実施した募集要項から抜粋しています。

### 1 大学推薦

本学から各教育委員会へ推薦する制度で、試験の一部が免除されます。学内選考があります。

これまで推薦実績のある教育委員会

埼玉県、さいたま市、千葉県・千葉市、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、新潟県、新潟市 ほか

### 2 採用候補者名簿登載期間の延長・採用の延長

教員採用試験に合格しても、修了まで採用を延長してもらえる制度です。この制度を利用して修学すると授業料は半額免除。

実施している教育委員会

埼玉県、さいたま市、千葉県・千葉市、東京都、横浜市、川崎市、新潟市、富山県、山梨県、長野県、静岡県、静岡市 ほか

### 3 次年度以降の採用選考試験における特別の選考

採用を辞退し、大学院に在学又は進学する場合には、次年度以降の採用試験において、試験の一部免除などが受けられます。

実施している教育委員会

福井県、愛知県、名古屋市、大阪府、堺市 ほか

### 4 加点措置

複数の教員免許状を持っていると、加点措置などの特別の選考が受けられます。

実施している教育委員会

埼玉県、新潟県、新潟市、富山県、石川県、山梨県、長野県、静岡県、静岡市 ほか

教員を志望する学生のために、大学院1年次から教員採用試験直前まで、一貫した就職支援を行っています。

年間を通して実施している就職ガイダンスや、教員採用試験対策講座、学内模擬試験、合格者体験発表会、各県・市教育委員会による教員採用説明会等の各種就職支援プログラムへの参加は自由で学内模擬試験を除き費用はかかりません。

教員採用試験対策講座では、主に水曜日の午後(不定期)、

学内外の専門講師を招き、試験対策の必須事項や学習法など教員採用試験対策全般について指導を受けることができます。

Pプラには、学習・資料閲覧スペースがあり、就職・進路に関する資料を自由に閲覧し学習する学生でいつも賑わっています。

教員採用試験に向けた個別指導や実技指導、豊富な情報提供、教育委員会への大学推薦などにより、教員を目指す学生を強力にサポートします。

# Voice! 在学生・修了生の声



## 岩城 拓郎さん

令和2年度修了  
新潟県公立小学校教諭

ストレート  
免P生

免Pで小一免  
取得

私は、専攻してきた体育について、「誰にとっても学びのある体育授業」という視点から専門性を高めたいと思い、入学しました。支援プロジェクトでは、小学校において、「かわり合い」をキーワードに体育科の本質に迫ることを目指した授業の提案や実践を行いました。本学は免P制度をはじめ、豊富な実習や充実した進路指導体制など、教師を志す学生にとってこの上ない環境があります。この2年間の学びは今後の自分を支える大きな柱になってくれると確信しています。



## 土屋 樹菜さん

令和2年度修了  
東京都公立小学校教諭

ストレート  
免P生

免Pで中一免(国語)  
取得

「皆さんは筆順指導を小学校で徹底する理由を知っていますか?」私は、免P制度を利用した国語の授業で知りました。私は小学校教諭の免許を学部時代に取得していました。しかし教科に関する専門性がないことに不安を覚え免P制度がある上越教育大学大学院へ進学しました。

専門性を極めることは自分の足りないところに気づく機会も多く自分に嫌気がさすこともありましたが、その自分の弱さに正面から向き合う大切さにも気づくことができました。



## 網代 涼佑さん

令和2年度修了  
和歌山県公立高等学校教諭

現職教員

和歌山県派遣

和歌山県から現職派遣院生として上越教育大学教職大学院に入学しました。自身の実践の悩みを解決し、未来の教育について考えたいと思い派遣を希望しました。2年間という期間の中で理論と実践を往還させることの重要性を学びました。教育に限らず多くの分野を学ぶことで、視座を高くし長期的に物事を考え、思考していくことの大切さを実感しました。現場に戻ってからも学びを止めることなく、前向きに学び続けていける自信ができました。



## 植木 清華さん

令和2年度入学  
新潟県公立小学校教諭

現職教員

新潟県派遣

私は、令和2年度から小学校で本格実施となった外国語を学ぶために教職大学院に入学しました。学問知と実践とを結びつけながら、多くの仲間と共に学んでいくことができるのが、教職大学院の魅力の一つです。学校支援プロジェクトでは、連携協力校の課題解決のために、外国語における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組みました。現場では教える立場でしたが、大学院に来て新しい知識を獲得するたびに学ぶ喜びを改めて感じています。



## 秋山 佳樹さん

令和2年度修了  
長野県公立小学校教諭

ストレート

名簿登録期間  
延長制度利用

本学大学院に入学し、教員採用試験に合格した後、名簿登録期間延長制度を利用し学びを続けました。そして、プログラミング教育やICTを活用した授業デザインについて複数の研究をし、論文の執筆と投稿を行いました。理論と実践を結び付けながら教育現場に貢献することができます。また、幅広い年齢層とつながり、協働できるのも本学大学院の魅力の一つです。子どもの未来のみならず、自らのキャリアプランにも向き合うきっかけになりました。



## 行方 アリスさん

令和2年度修了  
東京都公立小学校教諭

ストレート  
免P生

免Pで小一免  
取得

私は、学部時代に中高保健体育の免許を取得し、本学大学院の免P制度で小学校の免許を取得しました。体育系大学出身でこれまでは運動中心の大学生活だったため、大学院の授業では苦労しましたが、先生方や周りの仲間にも助けられ、教員採用試験との両立も自分のペースで進めることができました。また、学校支援プロジェクトでは、実際の学校現場に入り、先生方の声や子供達の姿から、現場で必要とされている様々なことを学ぶことができました。

# 各専攻・コース・領域・分野の紹介

上越教育大学 大学院 学校教育研究科	専門職学位課程(教職大学院)	教育実践高度化専攻	学校教育実践研究コース	学校経営・学校心理	p.23
				学級経営・授業経営	p.25
				道徳・進路・生徒指導	p.27
			人文・社会	国語	p.29
				英語	p.31
				社会	p.33
			自然科学	数学	p.35
				理科	p.37
				情報	p.39
			芸術創造	音楽	p.41
美術	p.43				
生活・健康	保健体育	p.45			
	技術	p.47			
	家庭	p.49			
教科横断・総合学習	教科横断・探究的学習	p.51			
	グローバル・総合	p.53			
発達支援教育実践研究コース	特別支援教育	p.55			
	幼年教育	p.57			
	学校ヘルスケア	p.59			
修士課程	教育支援高度化専攻	心理臨床研究コース	心理臨床	p.61	
		兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究所 博士課程	学校教育実践学専攻 先端課題実践開発専攻 教科教育実践学専攻	博士課程への進学 本学は、「兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究所(博士課程)」の構成大学となっており、専門職学位課程(教職大学院)及び修士課程からの進学も可能です。	

次ページ以降に掲載されている大学院担当教員は、令和4年4月からの新しい教育研究組織での大学院担当教員を掲載しています。大学院担当教員の詳細は、本学ホームページ「上教大で教える先生」で公開しています。

# 学校経営・学校心理

## 学校経営・学校心理領域の目的

学校の様々な教育活動と、教師と子どもの学校生活、地域社会との連携協働などについて、教育学や心理学の立場から専門的に探究し、教育実践の在り方を展望します。あわせて、学校教育と子どもの成長を俯瞰できる広い学識と深い理解に基づいた、経営を学校教育の枠にとらわれない視点から見渡すことのできる高度な実践的力量を備えた教育者を育成します。



## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

- 主体的に学習や諸活動に取り組む生徒の育成
- 一人ひとりの教師が活躍することのできる校内連携の在り方
- 地域と共に歩む学校づくり—学校運営協議会とともに取り組むカリキュラム・マネジメントの模索—
- 共感的な人間関係の育成
- コミュニケーションスキルの獲得
- 授業支援・学習支援を通じた学級集団形成過程の考察
- 適応に困難を示す子どもの支援と教育経営
- 生徒一人ひとりが抱える課題に配慮した学習支援の在り方
- 子どもが主体的に学ぶ防犯教育の授業づくり
- 地域とつくる教育課程の現状と課題—社会に開かれた教育課程の視点から—

- ユネスコ・スクールにおける学校運営協議会の意義と課題—地域資源を生かした持続可能な教育活動の評価サイクル提案に向けて—
- 糸魚川市「0歳から18歳までの子ども一貫教育」のより良い推進に向けて—フィールドワークと子ども一貫教育現状調査アンケート結果からの考察—
- 集団を形成することの意味—私立通信制高校における仲間集団に着目して—
- 児童自立支援施設と連携した小・中学校における教育実践

## 開設授業科目例

### 子どもの認知発達論

児童の学習や教授内容・方法の基盤にある認知・社会的発達を理解するために、指定図書の講読を行います。とくに注意や抑制機能、読み、計算などの諸能力に焦点を当てながら乳幼児期から児童・青年期にいたる発達を俯瞰的に理解します。

### 発達と教育の評価

発達心理学・教育心理学領域の論文を読みながら、児童生徒の学習・発達の評価・分析・考察方法を理解することを目指します。さらに、実際にデータを収集し、分析・考察することを通して評価方法の獲得を目指します。

### 教師と子どもの社会心理学

学校・学級内の児童生徒間、教師と児童生徒間などさまざまな人間関係や対人行動について、成立機制を社会心理学の理論から理解し、具体的事例について討議することを通して、より深い児童生徒理解と働きかけの観点を学びます。

### 構造変動の教育社会学

「変化する社会の中の人間発達と教育連携—学校・家庭・地域・職業社会のネットワークづくり」をテーマとし、教育社会学の「社会化」と「選抜・配分」の観点から、今日の子どもたちを取り巻く社会的な諸問題と支援策について議論します。

### 学校危機管理論

学校での事故や災害、事件等に対する危機管理の理論的知識の修得を目指します。また、具体的な学校事故事例をもとに、危機の所在、管理上の法的責任、発生時の対応、未然防止策などについて検討し、実践的知識の修得を目指します。

### 現代の教育改革とビジョン

現代教育改革の経緯・背景・内容について正確な理解を得るとともに、組織学習論の知見に学びながら組織行動の変革を促すための実践的課題を探り、今後の教育経営の在り方について各自が明確なビジョンを描くことを目指します。

### 学校改善とカリキュラム・マネジメント

教職等の多様な経験や学校実習を振り返り、理論の検討を通して学校・教師と子ども・家庭・地域社会等との関係をとらえ直し、これからの学校の在り方について考え、学校改善とカリキュラム・マネジメントとの対応関係等について議論します。

### 教育経営総合演習I・II

スクールリーダーに必要な教育経営の俯瞰的視点を身につけた上で、個々の研究課題を設定し、フィールドワーク等を通して明らかになってきたことを共同で検討し、これからの教育経営の課題は何かを考え、課題解決のための道筋を構想します。

### 排除と包摂の教育社会学

現代社会の下にある様々な利害対立に目を向け、その歴史的・社会的な文脈についての理解を深めながら、教育実践・教育経営や社会のあり方を反省的に捉え返すとともに、別の構想について議論する機会を提供します。

### 教育環境の条件整備とデザイン

様々な教育課題に加え、少子高齢化や財政難に代表されるような社会問題も含めて、ひろく教育環境をとらえた上で、自らの教育実践や学校運営または地域の教育経営をデザインすることについて、議論を通して考察を深めます。

### 教育法規の理解と学校における実践

学校事故、いじめ問題や校則、行き過ぎた指導、教職員の労働問題等をめぐる教育裁判事例を題材に、法的視点や教育的視点等から学校現場の問題点を多角的に検討し、教育実践のあり方について議論します。

### 学校組織連携論

学校内外の連携・協働をめぐる課題とその克服の方途を検討し、自分なりに今後の学校の連携ビジョンをデザインできるようになることを目標とします。特に、組織学習を促進するミドルリーダーへの発達をテーマとしてとりあげ、探究します。

## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等



【教授】  
**安藤 知子**  
(あんどう ともこ)  
tomoko@juen.ac.jp

学校経営学（学校組織のあり方や教師の職能発達に関する研究）が専門。教師の意識や行為を、制度的・組織的枠組みの中での相互作用として読み解く研究に取り組んでいる。特に近年は、多様な外部諸機関との関係によって構成される学校の組織的条件に着目している。『学級の社会学』（編著、ナカニシヤ出版）等。



【教授】  
**大前 敦巳**  
(おおまえ あつみ)  
ohmae@juen.ac.jp

専門分野：教育社会学、社会構造・変動論、プラティック（慣習行動）論。教育と社会のマクロな構造変動に関する調査分析と、社会の中の人間発達と子ども支援に関する研究。学校・家庭・地域・職場の関わりを視野に入れた社会性形成、生涯学習、教養教育、文化伝達、選抜と就職などの問題に関心あり、フランス社会との国際比較にも取り組んでいる。



【教授】  
**越 良子**  
(こし りょうこ)  
koshi@juen.ac.jp

教室の社会心理学。教師の働きかけや教師—子ども関係あるいは子ども同士の相互作用が学級集団の成立と発展、子どもの適応や「自己」の育ちにいかに関与するかを研究課題としている。『ネットワーク論からみる新しい学級経営』（編著、ナカニシヤ出版）等。



【教授】  
**菅原 至**  
(すがわら いたる)  
sugawara@juen.ac.jp

スクールリーダーには教職員、保護者、教育委員会、地域との関係を創造的なものとし、子どもの学びを充実させる取組が求められる。子どもの学びとカリキュラムの関係や学校の経営と地域社会との関係等について研究している。共著『学習社会としての学校』（教育出版）等。



【教授】  
**内藤 美加**  
(ないとう みか)  
mikan@juen.ac.jp

認知発達心理学・教育心理学。子どもの知的活動のプロセスや働きについて研究している。特に子どもの記憶、足し算などの問題解決能力、生物や数の概念、言語、ならびに人の心を理解したり推測する社会的認知の発達を主な研究課題としている。



【准教授】  
**角谷 詩織**  
(すみや しおり)  
sumiya@juen.ac.jp

専門分野：発達心理学、教育心理学。子どもの発達を中心に据え教育環境の意義を実践の場にかかわりながら検討する。ギフティッドの理解と支援、中学校部活動等。訳書：『ギフティッドその誤診と重複診断』『わが子がギフティッドかもしれないと思ったら』など。



【准教授】  
**辻村 貴洋**  
(つじむら たかひろ)  
tujimura@juen.ac.jp

専門は教育行政学。個別の学校課題にとどまらず、地域の教育ビジョンを描き出す力量の形成をいかに図っていくべきかが主な研究テーマ。また、教育現場を訪問しながら現代の自治体教育政策に関連して、住民参加や教育ガバナンスの調査研究も行って。『教育行政学—子ども・若者の未来を拓く』（共著、八千代出版）等。



【准教授】  
**野澤 有希**  
(のざわ ゆき)  
nozawa@juen.ac.jp

専門分野：教育課程論、カリキュラム開発と評価の方法論、学校改善のためのカリキュラムマネジメント。特に学校のカリキュラムデザインの作成、カリキュラムマネジメントの実質化を中心に研究を行っている。著書：『教育課程論—カリキュラムマネジメント入門—』（共著、大学図書出版）。



【准教授】  
**蜂須賀 洋一**  
(はちすが よういち)  
yoichi@juen.ac.jp

法に基づいた、平和で穏やかな学校・学級づくりがテーマ。学校危機管理論などを担当。具体的には、学校事故、学校関連裁判例を分析し、生徒指導や人権教育、安全教育等に生かす教材開発・授業プログラム開発の研究に取り組んでいる。また、法に基づいた教師の危機管理意識の向上に関する研修プログラムの研究も進めている。



【准教授】  
**堀 健志**  
(ほり たけし)  
thori@juen.ac.jp

専門は教育社会学（学校から職業への移行、ジェンダー、痛みと哀しみをめぐる学校エスノグラフィ）。社会や教育について「どうあるべきか・どうしたらよいか」を考えるに先立って、「実際のところ、どうなっているのか」という地点まで遡ります。共編著に『教育改革の社会学』（岩波書店）、『震災と学校のエスノグラフィ』（勁草書房）など。



# 学級経営・授業経営

## 学級経営・授業経営領域の目的

教科教育と融合した学級経営を専門領域とし、理論と実践の架橋・往還・融合を通して、学校現場の実践を支える生きた理論を学びます。同時に、そのような理論に基づきながら、学校現場に求められる即時性に対応できる実践的能力を培います。そして、理論知と実践知を融合させた高度な専門性を有する即戦力となる新人教員及び指導的立場から方向性を示すことのできる教員を養成します。



## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

- 受容と共感によるあたたかなつながりを育む予防的アプローチ
- 子どもの「考えたい」「やりたい」を目指した授業・学級づくり  
—「目標と学習と評価の一体化」やUD化した授業にもとづいて—
- 子どものよさを引き出すためのポジティブな生徒指導の充実
- 持続可能な社会の形成を担う職業人の育成—SDGsとシティズンシップの視点より—
- 授業参加が困難な生徒に対する支援とユニバーサルデザインの考案
- GIGA スクールを見据え、共に繋がり合う学習—創ろう未来の柏崎—
- 教科等の授業におけるICTの活用
- 考えを広げ、深める子どもの育成—みんなで作る、主体的・対話的に学ぶ授業の創造—

- 複数校による異学年学習における『学び合い』の可能性
- 道徳的諸価値の理解と自己のあり方についての考えを深める「かわり」の創造
- 協働的な対話を通じた実践者の確かな見取りの追求
- 相手を認め、思いや考えを伝え合う子供の育成—授業の振り返りで学びを自覚する授業改善を目指して—
- 認め合い、学び合う子の育成～ステーション授業構想による集団づくり
- 考えの形成と共有による学習への深いアプローチ—新しい生活様式に対応できる学習形態の考察—
- 各教科等において子どもたちが見方・考え方を働かせ、「考えを深める」学習デザインの実践的アプローチ
- 『学び合い』を通じた人間関係作り及び授業改善



## 開設授業科目例

### 授業分析の理論と実践

授業を見る力の養成と授業の分析をするために、学校現場の生の授業を題材に参加者が学び合う授業です。この授業を通して、省察的実践家としての教師の授業力形成と向上から、子どもの学びに寄り添える教師をめざし実施します。

### 言語力・リテラシーのための学習デザイン

言語に関わる資質・能力の育成にかかわって、現在の教育課題とその課題に直結する理論のもとに、言語活動を中核とした学習デザインの方法、授業の方法、授業の質的分析の方法について考察し、学習デザイン・カリキュラムデザインの実践的力を養います。

### ICTを活用した社会科授業論

社会科において、アクティブ・ラーニングを実現するための一人一台のタブレット型端末やCSCL、その他ICT機器の操作方法と効果的な授業デザインを学びます。そして、ICTを活用した授業設計を行い、模擬授業を通して実践できる能力を習得します。

### 道徳教育の理論と実際

道徳科の授業を適切に展開できますか？道徳に、不安や課題を抱えていませんか！？本科目は、道徳科や道徳教育の基礎を学ぶことはもちろんのこと、道徳科の授業づくりについて、指導方法を含めて具体的に体験的かつ専門的に学びます。

### 資質能力ベースのカリキュラムデザイン

育成を目指す資質能力とは何かを理解することからはじめます。どのような学びを通して育成するのかを考え、育まれた資質能力をどのように見取ることができるのか。「指導と評価の一体化」を実現する授業づくりを学びます。

### 協働的な学習実践論

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を日常的に推進していくため、協働的に学んでいくあり方、考え方、進め方の習得が必要です。これらをワークショップや演習を通して実践的に、体験的に学んでいきます。

### 中学校高等学校国語科授業づくり演習

主体的・対話的で深い学びが発生する国語科授業デザインについて、対話的に作り上げます。扱う題材は、現代文、古典、散文、韻文と多岐に渡ります。学びの「核」となる言語の見方・考え方に迫る課題を考え、それをもとに模擬授業も行います。

### 持続可能な教員研修論

学び続ける教師であることを目指し、先行研究に基づいた教師のリフレクションの理論と手法、授業研究における授業観察・分析の理論と手法について学修します。理論を学ぶ講義と演習・分析、そしてその演習を振り返る評価を行います。

### 国語科学習デザイン論

①カリキュラムデザインの考え方②教材研究と学習過程デザインの関係③教育研究の在り方と方法④学習過程のデザインと学習者研究の在り方⑤授業分析とカリキュラムへのフィードバックの在り方、などについて、具体的な教材や授業実践から検討します。



## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等



【教授】  
**赤坂 真二**  
(あかさか しんじ)  
akasaka@juen.ac.jp

元小学校教師。学級経営、協働的な学びを中心とした教科指導、生徒指導、教育相談。研究テーマは、学級経営、授業・学級経営のユニバーサルデザイン化、教師の指導力向上、学級経営を基盤としたカリキュラム・マネジメント及び学校経営。学校心理士・日本学級経営学会共同代表理事・日本授業UD学会理事、修士（教育学）。



【教授】  
**阿部 隆幸**  
(あべ たかゆき)  
abetaka@juen.ac.jp

元小学校教師。「授業づくり」と「学級づくり」、そしてその双方の関係性に興味をもち実践研究を重ねている。今後の社会を想定し学習者目線を大切にしたい研究を進めたい。日本学級経営学会共同代表理事。NPO法人授業づくりネットワーク副代表。研究分野は学級経営、臨床教科教育学、社会科教育。修士（教育学）。



【教授】  
**片桐 史裕**  
(かたぎり ふみひろ)  
katagiri@juen.ac.jp

元高等学校教師。国語科教育、主に高校での学級経営、アクティブ・ラーニングの発生する授業づくり、学習者のつまずき発生過程、教科の見方・考え方が身につく授業デザインなどが専門。授業への音声言語表現活動（群読、ディベート、スピーチなど）の導入、文章内容の映像化による学習効果などを研究。修士（教育学）。



【教授】  
**桐生 徹**  
(きりゅう とおる)  
kiryu@juen.ac.jp

元中学校教師・指導主事。理科教育を窓口に、プログラミング教育、子どもの学びや教師の力量形成の研究。また、異年齢形態の学習等による子どもの育ちから、小中一貫教育の運営や経営を研究している。理科教育学、教師教育学、臨床教科教育学、臨床教科教育学会副会長、博士課程講義担当教授、博士（学校教育学）。



【教授】  
**佐藤 多佳子**  
(さとう たかこ)  
takako@juen.ac.jp

元小学校教師。国語科の学習デザイン研究。①教材の本質を穿つ分析・研究②学習者に寄り添う明確な目標をもつ学習活動③実の場の学習活動と評価。キーワードは、文学の「読みの交流」、論理・思考・ことばと言語活動。発話分析等による学習者の学びのプロセスを重視した質的研究。博士課程講義担当。博士（学校教育学）。



【教授】  
**西川 純**  
(にしかわ じゅん)  
jun@iamjun.com

元高等学校教師。『学び合い』、アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、教科学習を軸とした学級経営・学校運営に関する研究・教育を担当。業績は上のQRコード。前臨床教科教育学会会長。アクティブ・ラーニング協会顧問。博士課程研究指導担当教授。博士（学校教育学）。



【教授】  
**早川 裕隆**  
(はやかわ ひろたか)  
hayakawa@juen.ac.jp

元小学校教師・児童相談所児童福祉司・小学校教頭。主に、道徳教育論、道徳科指導法（特に役割演技）に関する研究を行っている。文部科学省教科用図書検定調査審議会臨時委員（2015年～）、博士課程講義担当教授、上越教育大学上廣道徳教育アカデミー所長（兼務）。修士（教育学）。



【教授】  
**水落 芳明**  
(みずおち よしあき)  
mizuochi@juen.ac.jp

元小学校教師・中学校教師（1988年～2008年）。学術研究に基づく授業づくりを研究。文部科学省有識者会議委員（2016年～2017年）。中央教育審議会専門委員（初等中等教育分科会）（2019年～2021年）。博士課程研究指導担当教授。博士（学校教育学）。



【准教授】  
**大島 崇行**  
(おおしま たかゆき)  
oshima@juen.ac.jp

元小学校・中学校教師。子どもたちの多様な学びの姿を見取り授業を設計する臨床研究を通じ、日々の授業の充実を目指している。協働的な授業の設計・ICT教育・社会科に関する研究・授業リフレクション・教師教育。臨床教科教育学会理事。NPO法人授業づくりネットワーク理事。博士（学校教育学）。



【准教授】  
**河野 麻沙美**  
(かわの まさみ)  
masami@juen.ac.jp

専門分野：教育方法学、授業研究、学習科学。授業分析と学校の「授業研究」の国際比較研究等を遂行。国際的な教育課程改革の動向や「総合的な学習の時間」を核とした探究の授業・カリキュラムを政策から実践レベルで研究。著書：単著『算数授業における協働的な学習過程の検討』他。博士（教育学）。



【准教授】  
**榎原 範久**  
(さかきばら のりひさ)  
norihisa@juen.ac.jp

元小学校・中学校・日本人学校教師。初等教科教育・社会科教育・ICT教育に関する研究や教育を担当。臨床的な研究を通して、学習者の批判的思考のメカニズムの解明、思考ツールの開発、理想的な学習環境のあり方を中心に研究し、実践の場で生きる教育研究、学術研究に取り組んでいる。博士（学校教育学）。

# 道徳・進路・生徒指導

## 道徳・進路・生徒指導領域の目的

臨床的・実践的な教育研究活動を通して、規範意識や道徳性の育成をはじめ、生徒指導上の今日的課題である不登校やいじめ問題等の予防及び対応と良好な人間関係づくり、望ましい集団活動や教育相談による発達支援、児童生徒個々人のキャリア形成や生き方・在り方を考えるための指導や援助の方法などを探究し、専門的職業人として活躍できる教員を養成します。



## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

- 道徳科の授業力向上を図る職員連携の在り方
- 道徳科の授業力向上を目指した校内研修～「論議が深まる指導法の研究」の取組～
- 教育活動の意義付けによる教育的支援 —キャリア教育の視点から—
- 地域教材を中核としたカリキュラムマネジメント—キャリア教育の視点から—
- 学級の集団作りを目的とした教育的支援—キャリア教育の視点から—
- 小学校における集団心理教育（SGE）の実践
- 中学校における集団心理教育（SGE）の実践
- 良好な関係性形成と学校教育相談（教育カウンセリング）の充実
- 学級における個別支援と全体指導の充実
- 指導行動の分析に基づく教師の意識変容に関する検討
- 未来を生き抜く子どもに育てるための特色ある学習活動への教育的支援
- 「望ましい人間関係を築く子」の育成を図る道徳授業の創造

## 開設授業科目例

### 教科内容構成「道徳」の理論と実践

「道徳教育理解の深化」をテーマに、道徳教育の基礎基本を深く理解し、教材を開発できること、開発教材を用いて授業を実施できること、模擬授業を通して学習者の学びの姿を評価できることをめざし新しい道徳授業について検討します。

### 道徳教育の理論と実践

道徳教育の現状を理解し、「特別の教科道徳」の授業における道徳教育と学校の教育活動全体を通じての道徳教育との関連について説明し、グループ討議や役割演技、模擬授業等によって、新しい道徳授業について検討します。

### キャリア教育の理論

情報化や機械化、人口知能の発達など急速に変化をとげる現代社会の現状と照らし合わせ、キャリア教育の理論について理解を深め、効果と指導法について論議します。そして、キャリア教育研究の進め方を習得するとともに、学校現場に生かせる専門的知識と技術を身につけます。

### キャリア教育の実践

キャリア教育に関わる教育実践について、ガイダンス機能とカウンセリング機能の視点から理解を深め、コミュニケーションスキルトレーニングや演習（アクティブラーニング）を通して、学校現場に生かせるキャリア・ガイダンス及びキャリア・カウンセリングの専門知識と態度、技術・技能を身につけます。

### 生徒指導の理論と実践 A

学際的色合いをもつ生徒指導を、特別活動・キャリア教育・学校教育相談の視点から、オムニバス形式で行う講義です。生徒指導の目的と指導原理を基に、事例を通して予防的・開発的な生徒指導を構想します。

### 生徒指導の理論と実践 B

いじめの防止をテーマに各スタッフがそれぞれの専門の立場から、オムニバス形式で行う講義です。いじめ問題やその周辺にある生徒指導上の課題に関わる理論について論議する中で専門性を高め、学校現場で生かせる技能を身につけます。

### 特別活動の理論

特別活動の中核である学級活動を中心にテーマを設定し議論を通して理解を深めていきます。さらに、今日的課題をサブテーマに設定し講義と議論を通じて特別活動の在り方を追求します。

### 特別活動の実践

生活上の問題（いじめ等の諸問題）に取り組む活動づくり（指導案作成等）、集団決定の実践化、特別活動の評価方法について演習し、特別活動を活用した集団づくりのあり方について、実践的な方法論を構築していきます。

### 学校教育相談の理論

教育相談の概要、理論、近接領域との異同、カウンセリングマインド、手法、連携、評価などについてのディスカッションや演習を行うことを通して、教育相談について、自分の言葉で説明できる力を身につけます。

### 学校教育相談の実践

構成的グループエンカウンター等の集団心理教育の手法を用い、学校教育相談をする際に不可欠な「自己開示、自己理解、自己受容、他者理解、他者受容、グループコンセンサス」に関わる体験学習を行い、説明できる力を身につけます。

### 現代教育課題研究プレゼンテーションI・II（道徳・進路・生徒指導）

学校支援フィールドワークやリフレクション科目、個々の興味と関心にもとづく探求課題等を批判的・反省的に意味づけ、課題への対処の方法や意図などについて、臨床的視点から整理し、プレゼンテーションをすることを通して、学校支援フィールドワークや現代教育課題研究リフレクション、連携協力校等に還元し、課題解決を図ります。

### 現代教育課題研究リフレクションI・II（道徳・進路・生徒指導）

学校支援フィールドワークや個々の興味と関心にもとづく探求課題等に主体的に取り組み解決する即応力を培うために、計画の立案や情報収集、学校実習での経験等を批判的・反省的に意味づけ、「教科指導」「特別活動」及び「生徒指導・進路指導」「教育相談」場面における実践的指導力の向上を図ります。

## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等

**【教授】**  
**稲垣 応顕**  
(いながき まさあき)  
inagaki@juen.ac.jp

学校教育相談関連の科目等を担当。元高等学校教員。育てる生徒指導やカウンセリング、良好な関係性形成を研究している。著書：生徒指導論、教育カウンセリングと臨床心理学の対話、集団を育むピア・カウンセリング（文化書房博文社）。学際型現代学校教育概論、スクールカウンセラーのピリフとアクティビティ（金子書房）。

**【教授】**  
**高橋 知己**  
(たかはし ともみ)  
tomomi@juen.ac.jp

特別活動関連の科目等を担当。元小学校教員。集団と個人の活動のあり方や心の発達、生徒指導、学級経営、集団づくり、いじめの防止について研究を行っている。著書：「自己組織化する学級」（誠信書房）、「創発学級のすすめ」「学校での子どもの危機への介入」（ナカニシヤ出版）、「いじめから子どもを守る学校づくり」（図書文化社）。

**【教授】**  
**山田 智之**  
(やまだ ともゆき)  
tomoyuki@juen.ac.jp

キャリア教育関連の科目等を担当。元中学校副校長。キャリア発達、キャリアデザイン研究を専門とし、学校・家庭・社会等で進める生徒指導、キャリア教育の在り方について研究を進めている。著書：単著『教職員のための職場体験学習ハンドブック』（実業之日本社）、共著『教職シリーズ7 進路指導』（培風館）。博士（総合社会文化）。



# 人文・社会／国語

## 人文・社会領域の目的

教科教育と教科専門の基礎を習得することを通して、教育の現場における臨床的な授業実践のあり方を精緻に検討することを目的とします。同時に、人文・社会に関する領域の研究を通して、高度な教科指導力を備えた国語科・英語科・社会科の専門的資質を有する教員を養成します。



## 国語分野の目的

国語科教育学、国文学、漢文学、国語学、書写における専門的な理論と知識を基盤とし、教室における授業運営を見通した実践的能力を培うとともに、高度な教科指導力を備えた教員を養成します。

## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

**キーワード①「文学教材の読解や教え方、学力向上、深い学び、郷土教材」**

文学教材の読み方や教え方について、国語を専門とする教員や大学院生が、児童生徒一人一人の学力向上に寄与するよう、学校現場と連携しつつ提案します。研究授業や国語に関する学校課題への対応も図ります。社会に対し、児童生徒が主体的に向き合える深い学びの支援を行います。

**キーワード②「言葉の興味を広げる学習の支援活動」**

日本語の成り立ちや規則について、児童・生徒が興味を持てる事例を用意し、楽しみながら言葉を理解できるような支援を行います。

方言や古典の学習に利用可能な音声教材や、語彙・文法の学習に使えるカードゲームなど、様々な資料を提供しながら、日本語の面白さを体験できる学習支援を行います。

**キーワード③「漢字学習や書写実技指導などの支援」**

漢字学習、硬筆・毛筆による書写の実技指導など、文字と文字を手書きすることに関して支援します。成り立ちを踏まえた漢字の学び、子どもたちの字を生かす字形学習、速く書いても読みやすさを維持するコツなど、授業補助や教材作成の支援、デジタル教材の活用補助等にも対応します。

## 開設授業科目例

### 文学教材の読解と開発の理論と実践

文学教育の意義や読解の種々の方法を理解し、具体のテキストを解釈することで、受講者が文学教材の読み方や教え方の能力を養い、教育現場で実際に活かせるようになります。汎用的能力を養うための具体的手立てや歴史・文化と関連つけた教科横断的な学びの実践手法等の修得も目指します。

### 書写指導と文字を書くことの理論と実践

書写および文字の学習において求められる資質・能力を、情報機器が普及した時代に適した形で踏まえ、授業デザインについて検討します。さらになぜ筆順を学ぶのか、どうしたら整った字形になるのかなど、持ち方・点画・書字速度など教科内容の理論を明らかにすることで実践力とします。

### 国語科教育実践研究

教科教育としての理論を専門的に学ぶことにより、国語科における学習指導のあり方について検討を加えます。教育研究の進め方、研究の主題・対象・方法の設定についての概説を行い、話す・聞く、書く、読むの各言語活動に即した事例研究、授業研究のあり方や方法論について検討します。

### 語彙・文法の授業における理論と教材化

中等教育で学ぶ日本語の構造的側面に関する理解を深めながら、その知識を現実の言語使用の場に応用する方法について学びます。それにより、日本語の語彙・文法を身近な言語事象の中から見出す力を養います。併せて、語彙・文法の効果的・実践的な授業法を具体的に構想することを目指します。

### 日本古典文学の読解と教材研究

中古・中世の代表的な3つの古典作品を取り上げ、その表現・内容・文学的価値等を多角度から分析し、精細な読みを可能にする技術を身につけるとともに、それらの作品を国語科教材としてどのように扱うか、そしてどのようにより高度な古典の授業を展開するかを学びます。

### 文学教材及び説明文教材読解の理論と方法

小・中・高等学校の国語科教材文を実際に用いながら、どのような観点から読解を試みれば、児童・生徒がわかりやすく納得できる授業展開に結び付くのかを具体的に学びます。テキストは教科書各社の教材文を用いるので、特定の会社や教材だけに頼らない読解力を培うことを目指しています。



## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等



【教授】  
**押木 秀樹**  
(おしき ひでき)  
oshiki@juen.ac.jp

書写教育を担当。書写指導の内容論とその基礎としての、手書き文字及び書字行為の研究を専門とし、筆記具の持ち方・筆順・字形等の諸相および書字動作の分析的研究などに関する研究を主とする。「漢字教育を書写指導の視点から考える—より良い字形と多様性—」(『教育委員会月報』2017.06)他。



【教授】  
**小埜 裕二**  
(おの ゆうじ)  
yuji@juen.ac.jp

国文学、主として近・現代文学の分野を担当。小川未明や宮沢賢治等の郷土作家や童話作家を中心に、文学作品及び教材の読み方や教え方について研究を行う。「童話論宮沢賢治」(単著)、「人物書誌大系小川未明全童話」(単著)、「小川未明に親しむ」(単著)、「文学の体験1〜5」(編)他。



【教授】  
**迎 勝彦**  
(むかえ かつひこ)  
mukae@juen.ac.jp

国語科教育を担当。話しことは教育研究、授業研究を専門領域とし、主として「話し合い」活動を対象とした研究を行っている。教室における談話の構造及び聴解過程の解明を中心テーマとし、学習者に応じた指導法の考案、教材の開発について考察を進めている。



【教授】  
**渡部 洋一郎**  
(わたなべ よういちろう)  
wyouichi@juen.ac.jp

国語科教育、主として国語教育史、教師の意思決定研究の分野を担当。大正期の作文教授理論を中心とした指導過程の比較研究及び授業における教師の即時的な判断について、特に予想外の応答場面を中心に児童との相互作用の観点からそれら进行分析することを専門領域とする。



【講師】  
**鯨井 綾希**  
(くじらい あやき)  
kujirai@juen.ac.jp

国語学、主として言語教育に関わる語彙論、文法論、談話論の分野を担当。日本語の計量分析を専門とし、文章をはじめとした現実の言語使用の場に現れる語や文の量的な分布・構造の解明に関心がある。「形容動詞に属する語彙の分布と分類」(『上越教育大学国語研究』第32号)他。



【助教】  
**船城 梓**  
(ふなぎ あづさ)  
azusa@juen.ac.jp

国文学、主として古典文学の分野を担当。「今昔物語集」・「続古事談」を中心として、院政期から中世にかけての説話文学・仏教文学研究を専門領域とする。併せて古典を含む日本の伝統文化教育についての研究も行っている。





# 人文・社会／英語

## 人文・社会領域の目的

教科教育と教科専門の基礎を習得することを通して、教育の現場における臨床的な授業実践のあり方を精緻に検討することを目的とします。同時に、人文・社会に関する領域の研究を通して、高度な教科指導力を備えた国語科・英語科・社会科の専門的資質を有する教員を養成します。



## 英語分野の目的

英語教育学、英語学及び異文化コミュニケーションに関する理論的・実践的研究の成果に基づき、英語教育の現代的な諸課題の的確な把握と臨床的な教育実践を通して、高度な教科指導力を備えた教員を養成します。

## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

### キーワード①「協同学習、ファシリテーション、バックワードデザイン、指導と評価の一体化」

外国語活動・外国語（英語）において、協同学習やファシリテーションに基づき、お互いを尊重し良好な人間関係の中で展開される英語授業の設計、および単元の最後にパフォーマンス課題を設定したバックワードデザインによる指導と評価の一体化を目指した単元づくりを支援します。

### キーワード②「主体的・対話的で深い学び、タスク、発表、やり取り」

外国語活動・外国語（英語）において、お互いの考えや気持ちなどを英語で即興的に伝え合う、自律的・協同的な発表や対話（やり

取り）を具現化するタスクや教材を開発し、思考力・判断力・表現力等の向上を支援します。

### キーワード③「見方・考え方、語彙、発音、文法」

外国語活動・外国語（英語）における見方・考え方に基づき、文化や表現方法の共通点や相違点に気づいたり、学んだ語彙や表現などを、実際に使用する場面や目的に応じて活用する言語活動の充実を支援します。

## 開設授業科目例

### 英語授業と協同学習

児童・生徒が外国語（英語）を学ぶ過程において、お互いに尊重し、協力して学び続けるための協同学習の原理と技法に基づく英語授業デザインと評価方法を学びます。英語学習を通して心豊かな児童・生徒の育成を目指します。

### 英語授業とファシリテーション技術

ファシリテーションに基づく学習者の立場に立った外国語（英語）授業の設計とその実践方法を学びます。ファシリテーションの考え方と技術に基づいた児童・生徒の英語の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指します。

### 英語科教材分析の理論と実践

教材分析に必要な理論を学ぶとともに、最新の研究成果に基づいて英語教材を分析し、英語教師としての臨床力を高めます。受講者が英文を持ち寄り、各教材の特性を踏まえた指導と評価の在り方を考えます。

### 英文法指導の理論と実践

第二言語英語の発達とその指導について理解を深めます。コミュニケーションを支える英文法の指導と評価について、学校現場の諸課題に適切に対応できるように、4技能という側面も意識しながら実践力の向上を図ります。

### 英語音声指導の理論と実践

英語の発音・音体系について学びます。英語の発音を学術的・体系的に理解したうえで、教育現場の状況を分析し発音指導の実践を展開する能力を養います。学習者の実態を把握し、個々の発音の特性について検討を行います。

### 英語インタラクション指導の理論と実践

異文化間コミュニケーションの共通語として英語を会話で利用する際（授業内でのやり取りも含め）、実際の録音・録画データを活用し、やり取りの仕組み・方略・「コツ」等について理論と実践を統合し学びます。

### 教科内容構成特論「英語」理論と実践

学習指導要領に示された「英語」の目標や指導内容を吟味し、児童・生徒の発達段階を考慮した授業実践を積み重ねられるよう専門的知識を養います。また学校現場の実態に応じて授業が展開できるよう基礎的実践能力を養います。



## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等



【教授】  
**大場 浩正**  
(おおば ひろまさ)  
hohba@juen.ac.jp

英語教育学を担当。英語科における「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指した指導と評価の開発において、逆向き設計、協同学習及びファシリテーションに基づく授業をデザインし、その実践を行っている。また、探索的実践やプロジェクト学習に基づく英語教員養成も実践・研究している。元高等学校英語教員・本学附属小学校長。



【教授】  
**野地 美幸**  
(のち みゆき)  
miyuki@juen.ac.jp

英語学、第二言語習得を担当。近年は第二言語学習者の機能範疇やwh疑問文の習得を研究している。大学院の授業では、主として英文法指導、英語の教科内容とテスト問題作成に関わる部分に関心をもち取り組んでいる。『英語正誤辞典』(研究社)の分担執筆等。



【准教授】  
**長谷川 佑介**  
(はせがわ ゆうすけ)  
yhase@juen.ac.jp

英語教育学を担当。特に語彙指導とリーディング指導を専門とし、英語教材の性質と学習効果の関連性について教育実践上の観点から検討している。文脈の読みと語彙学習を融合させた指導法としてThe Context-Retrieval Instructionを提案するなど(ARELE, 32号掲載)、研究成果の発信にも努めている。



【准教授】  
**BROWN, Ivan B.**  
(ブラウン、アイヴァン)  
brown@juen.ac.jp

異文化間コミュニケーション能力の育成に焦点をあてた英語教育を担当。日英米豪の大学・学校間の異文化交流教育活動での指導経験を活かし、教室内外におけるインタラクションの検証を通して、英語コミュニケーションにおける「主体的・対話的で深い学び」の観点からの実践の指導を行う。



【講師】  
**渡邊 政寿**  
(わたなべ まさとし)  
masatosi@juen.ac.jp

英語教育学を担当。高校生の教室内英語多読が、作文力へ及ぼす効果を量的、及び質的に検証している。読解、多読、及び作文のプロセスがどのようなものであるのか、それらがどのように融合して、成果をもたらしているのかの仮説を立て、その検証を試みている。元高等学校英語教員。



【助教】  
**瀧澤 典子**  
(たきざわ のりこ)  
tnoriko@juen.ac.jp

英語教育学を担当。多様な学習者と教育環境に柔軟に対応し、楽しい学びの空間を創り出すことのできる英語教員養成を目指している。その鍵となる確かな理論に基づく教育的実践の検証として、特にスピーキング能力の伸長を目指したコースデザインの研究をしている。元高等学校英語教員。



【助教】  
**橋本 大樹**  
(はしもと だいき)  
daiki@juen.ac.jp

英語音声学、英語学を担当。海外で習得した音響分析、統計分析、機械学習を用いて、どの様に人間が発音を記憶・計算しているかを研究している。大学院の授業では英語の音声体系・発音の仕組みについて理論と実践を交えた授業を行う。また学校現場における発音指導について検討を行う。



# 人文・社会 / 社会

## 人文・社会領域の目的

教科教育と教科専門の基礎を習得することを通して、教育の現場における臨床的な授業実践のあり方を精緻に検討することを目的とします。同時に、人文・社会に関する領域の研究を通して、高度な教科指導力を備えた国語科・英語科・社会科の専門的資質を有する教員を養成します。



## 社会分野の目的

社会科教育学と社会科（地理歴史科・公民科）に関する人文科学・社会科学・自然科学について、総合的・専門的な研究・教育を行い、それらを教育実践に有機的に関連づけることで先進的で高度な教科指導力を備えた教員を養成します。



## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

### キーワード①「社会科（地理・歴史・公民）に関する幅広い支援」

社会科を中心とした諸教科・領域の授業づくり、授業実践補助、課題整理、放課後学習指導などを幅広く支援します。

### キーワード②「地域学習、総合的な学習、校外学習」

地域学習、総合的な学習、校外学習で使用する学区の白地図等をはじめとした教材資料作成、校外学習時の補助などを支援します。

### キーワード③「防災・安全教育、環境教育、ESD、SDGs、教科

### 横断的な学習

教科横断的な多様な教育・学習を、多文化共生、まちづくり、ゲーム活動、防災・安全マップ作成等から支援します。

### これまでのテーマ例

【小学校】社会科教育的実践を活かした教科横断的な防災教育・地域学習活動の支援、社会科教育的実践を活かした地域学習・校外学習・教科横断的学習の支援

【中学校】地域学習・ICT学習・社会科教育全般への支援



## 開設授業科目例

### 社会系教科内容学（地理 A,B,C）

地理に関わる教科内容について学修し、教材として活用する能力を身につけます。地理的事象の特徴を読み取り、分析し、考えるための力を身につけ、実践することを通して、地理的な見方・考え方について理解します。

### 社会系教科内容学（歴史 A,B,C）

社会科（歴史分野）を教えるための教科内容を習得します。歴史学の最新の研究成果を踏まえ従来の教科内容を見直し、近現代史中心の歴史総合的アプローチ、専門的な調査分析方法、教員と受講者の対話、受講者の主体的学びを重視します。

### 社会系教科内容学（公民 A,B,C,D,E,F）

社会科の教科内容の背後にある法律学・政治学・経済学・社会学・倫理学・宗教学等の知見や研究成果を踏まえ、主体的対話的考察を通じ、社会科に関する教育の在り方をメタ視点から分析する視点と授業改善の手法を身につけます。

### 地域研究フィールドワーク

野外へ出て、観察・計測・聞き取り等の調査を行うことで地域の実態に触れ、特徴を理解します。受講生や担当教員との議論を重ね、成果をまとめるという一連の作業を通して社会科教育に必要な地域研究フィールドワークの手法を体得します。

### 社会系授業づくりの理論と実践

社会系（社会科・地理歴史科・公民科）授業づくりに関わる教科教育学の基本的な考え方を踏まえ、各種の授業づくりについて地理・歴史・公民の各授業の観点から理論と実践に対する検討と考察を進め、社会系授業構築の能力向上を図ります。

### 主権者・シチズンシップ教育の理論と実践

社会系教育実践の現代的課題である主権者・シチズンシップ教育について、地理教育・歴史教育・公民教育のそれぞれの理論研究・実践事例や、諸外国の理論研究・実践事例を参考に総合的理解を図ります。

### 社会系授業実践における評価と授業分析

社会系教科教育で育成すべき資質・能力について評価・授業分析の視座から探究します。前半では関連理論を理解し、後半では実際の授業実践事例を検討し、評価・分析に関する理論と実践の融合的理解を図ります。

### 社会系教育総合演習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）

社会系教科内容学や社会科教育学をはじめとした学修をもとに教科教育実践に関わる課題を各自が設定し主体的な研究を遂行することを通して、社会科教育分野におけるプロフェッショナル性を総合的に高めます。



## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等



【教授】  
畔上 直樹  
(あぜがみ なおき)  
naoki@juen.ac.jp

社会系教科内容学（歴史）を担当。歴史学（日本近現代史・地域社会史）。20世紀前半を中心に、近代と現代をつなぐ時代について、世界的視野のもと日本史像の捉え直しを試みている。著書：『「村の鎮守」と戦前日本』（単著 有志舎）、『明治神宮以前・以後』（共編著 鹿島出版会）『日本宗教史3 宗教の融合と分離・衝突』（共著 吉川弘文館）等。



【教授】  
茨木 智志  
(いばらき さとし)  
ibaraki@juen.ac.jp

社会科教育学を担当。特に歴史教育の理論的・実践的研究。歴史教育の歴史研究、歴史教育の国際比較研究、世界史教育などを研究領域とする。『「世界史」成立史研究の課題』『歴史学研究』933、共著『歴史学者と読む高校世界史』（勁草書房）、共著『World History Teaching in Asia』（Berkshire）など。元公立高校教員。



【教授】  
小島 伸之  
(こじま のぶゆき)  
kojima@juen.ac.jp

社会系教科内容学（公民・法律学・政治学・社会学）を担当。憲法・日本近代法史・社会学を専攻。研究テーマは、人権論、国家論、政教関係、教育の中立性、アニメにおける戦争観など。著書として、共編著『近現代日本の宗教変動』（ハーベスト社）、共編著『巨大ロボットの社会学』（法律文化社）他。



【教授】  
志村 喬  
(しむら たかし)  
shimura@juen.ac.jp

社会科教育学を担当。特に地理教育領域におけるカリキュラム・授業開発、教授・学習過程、教員養成について研究。主要編著書：『社会科教育へのケイパビリティ・アプローチ』（風間書房）、『持続可能な社会に向けての教育カリキュラム』（古今書院）、『社会科 中学生の地理』（帝国書院）。元公立高校教員・元附属中学校長。



【教授】  
下里 俊行  
(しもさと としゆき)  
simosato@juen.ac.jp

社会系教科内容学（歴史・倫理）を担当。ロシア文化史を専攻。ユーラシア地域を中心に農業思想、循環型社会の歴史と思想を研究。共著に『教科内容学に基づく教員養成のための教科内容構成開発』（あいり出版）、『社会科教科内容学の探求』（風間書房）、『角川世界史辞典』、『ロシア文化事典』（丸善）など。



【教授】  
山縣 耕太郎  
(やまがた こうたろう)  
kotaro@juen.ac.jp

社会系教科内容学（地理）を担当。自然地理、環境変遷史、人と自然との関わり、災害、地生態、防災教育などについて、地理学的な見地から研究を行っている。主要著書：『アフリカ自然学』、『百名山の自然学』、『地域と地理教育』、『アンデス自然学』、『アフリカ学事典』他（いずれも共著）。元附属中学校長。



【准教授】  
塚田 穂高  
(つかだ ほたか)  
hotaka@juen.ac.jp

社会系教科内容学（公民・宗教学・社会学）を担当。宗教社会学・日本研究を専攻。近現代日本の宗教思想・運動、宗教と政治の関係史、宗教教育等の研究に取り組む。著書に、『宗教と政治の転軸点』（単著、花伝社）、『徹底検証 日本の右傾化』（編著、筑摩書房）、『近現代日本の民間精神療法』（共編著、国書刊行会）等。



【准教授】  
中平 一義  
(なかだいら かずよし)  
kazuyosi@juen.ac.jp

社会科教育学を担当。公民教育の理論的・実践的研究。公民教育の中でも、特に法教育や主権者教育、熟議民主主義教育の基礎理論及び実践開発が主な研究領域。主要著書：編著『初等社会科教育研究』（風間書房）、編著『法教育の理論と実践』（現代人文社）、編著『中等社会系教科教育研究』（風間書房）。元公立中学校教員。



【准教授】  
橋本 暁子  
(はしもと あきこ)  
akiko@juen.ac.jp

社会系教科内容学（地理）を担当。専門分野は地誌学。ある地域の特徴とそこに住む人びとの生活とのかかわりを研究する。主な論文：『釜山市における在来市場の特徴』『茨城地理』14、『韓国地方都市における商業地域の調査方法とデータベース化』『地理空間』10など。



【准教授】  
吉田 昌幸  
(よしだ まさゆき)  
yoshida@juen.ac.jp

社会系教科内容学（公民：経済学）を担当。経済学を専攻。経済思想や地域通貨、ゲーミング・シミュレーションを通じて、地域経済や経済進化の研究。経済教育の手法開発を行う。著書として『現代の経済思想』（勁草書房）『地域通貨によるコミュニティドック』（専修大学出版会）（いずれも共著）などがある。研究室 HP：http://yoshidam.com



# 自然科学／数学

## 自然科学領域の目的

理数教育の充実等の学校現場における現在の喫緊の教育課題を理論的・実践的に探究する活動を通して、算数・数学科教育、理科教育、情報科教育に関する高度な専門的知識と実践的指導力を備えた教員、学校における算数・数学科・理科・情報科教育のエキスパート、さらに教育改革をエビデンス・ベースで推進するリーダーとなる教員を養成します。



## 数学分野の目的

算数・数学科の授業改善に直結する理論的・実践的研究活動を通して、理論に基づいて実践を開発・改善できる教育実践力と算数・数学科の基盤にある数学の視点と考察力を備えた教員、さらに、各学校の算数・数学教育に対して指導的役割を果たすことができる教員を養成します。

## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

**キーワード①「算数・数学科の授業研究・校内研修への参画，研究主任の支援」**

連携協力校の実践研究課題の理解を大切にしながら、多様な教育研究の知見・理論に基づく分析を通して研究主任を支援し、校内研修で推進している授業研究を中心に、授業改善や学力向上等の取組に参画します。

**キーワード②「算数・数学教材の深化，算数・数学教材開発，算数・数学を中心とした教科横断教材の開発，学力向上のための教材」**

算数・数学授業、放課後学習、教科横断的授業で扱う教材、及び学力向上と豊かな人間性の育成のための教材など今日の実践課題に対応した実践に直接的に有用な教材を深化、開発します。

**キーワード③「数学的活動，自己評価，態度，数学的見方・考え方，主体的学習，学力向上，放課後学習」**

数学的活動を支援します。各々の適正を評価し、フィードバックすることにより、態度と数学的見方・考え方という方向とから主体的学習の充実、学力の向上、人間力の構築を目指します。

**キーワード④「ICT 利用，算数・数学教材開発，アクティブラーニング，授業デザイン」**

GIGA スクール構想の中で期待される ICT を利用した算数・数学の教材やそれを用いた主体的な学習、対話的な授業のデザインと一緒に開発するとともに、授業の実施の支援を行います。

## 開設授業科目例

### 小中連携算数・数学科の教材づくりの理論と実践

附属小学校の掲示板「ポブラ算額道場」に掲示する問題を開発する実践として、現職院生と学部卒院生が協働で、子どもを惹きつけ、数学の本質的な見方・考え方に迫りながら、その面白さを体験できる問題を探究します。

### 中高連携数学科の理論と実践

中学校数学科と高等学校数学科との連携に焦点を当て、中学校数学と高校数学とを関連させた教材の数学的背景を深化するとともに、それらの数学的背景をもとに教材研究をし、授業実践を行うための力量を高めます。

### 算数・数学科の授業づくりの理論と実践

算数・数学の授業実践を評価し、自律的に改善するのに必要な「授業の見方」をより豊かにするために、異なる立場から実践を意味づける考え方を学ぶとともに、各自の授業づくりに向けた課題等の探究活動を行います。

### 算数科・数学科における ICT 活用

算数・数学の授業での ICT 活用を数学的視点と数学教育的視点の双方から考えます。そのためにまず受講者自身が ICT を利用した数学的活動を経験し、次にそうした経験をふまえて ICT を通して学習者の理解を促す教材のあり方を考えます。

### 教科内容構成「数学」の理論と実践

算数、中学校数学、高等学校数学の教材に、代数学、幾何学、解析学、及び数学の境界領域に係る数学から接近し、更なる教材研究と指導法の検討を行います。アクティブラーニングによって授業を進めます。

## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等

**【教授】**  
**岩崎 浩**  
(いわさき ひろし)  
iwasaki@juen.ac.jp

元附属小学校長。算数・数学科の授業改善に直結する理論的・実践的研究。学校現場の実践的課題を理解することを何よりも大切にしながら、授業等で起こっている隠れた事実とそれが教師の教授行為や子どもの学習に及ぼす影響、その仕組み（メカニズム）の質的解明に取り組んでいる。全国数学教育学会理事（研究部副部長）。

**【教授】**  
**斎藤 敏夫**  
(さいとう としお)  
toshio@juen.ac.jp

幾何学を担当し、位相幾何学に属する3次元多様体論を研究する。また、当該理論を応用して、結び目の位相的及び幾何的性質についての研究も行っている。

**【教授】**  
**高橋 等**  
(たかはし ひとし)  
hitoshit@juen.ac.jp

数学教育学を担当。元高校教諭。元全国学力調査問題作成委員。知識論や科学哲学を背景とし、教授学習における子どもの数学的知識の様態や価値観、授業における教師の役割を研究する。論文に、「或る小学生のもつ算数に関するアイデンティティ」、「数学的知識の社会的構成主義に基づく授業における教師の役割」など。

**【教授】**  
**布川 和彦**  
(ぬのかわ かずひこ)  
nunokawa@juen.ac.jp

専門分野：算数・数学を中心とした学習過程の臨床的研究、特に学習者の思考過程に関心を持ち取り組んでいる。著書：共著「Explanation and Proof in Mathematics: Philosophical and Educational Perspectives」(Springer Verlag)。

**【教授】**  
**松本 健吾**  
(まつもと けんご)  
kengo@juen.ac.jp

解析学を担当し、特に関数解析学的作用素環論を研究する。また作用素環論を応用し、記号力学系の研究も行っている。

**【准教授】**  
**林田 秀一**  
(はやしだ しゅういち)  
hayasida@juen.ac.jp

代数学を担当し、保型形式論を研究する。特に保型形式のなす環や加群の構造や、保型関数について研究を行っている。



# 自然科学／理科

## 自然科学領域の目的

理数教育の充実等の学校現場における現在の喫緊の教育課題を理論的・実践的に探究する活動を通して、算数・数学科教育、理科教育、情報科教育に関する高度な専門的知識と実践的指導力を備えた教員、学校における算数・数学科・理科・情報科教育のエキスパート、さらに教育改革をエビデンス・ベースで推進するリーダーとなる教員を養成します。



## 理科分野の目的

理科教育学、物理学、化学、生物学、地学に関わる広い視野と深い素養を持ち、観察・実験や自然体験を通じた実践的研究を基盤として、理科の教育の発展に指導的役割を果たすことのできる教員を養成します。

## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

### 目標

主体的、対話的で深い学びのお手伝いを通して、子ども達の資質・能力の育成を目指します。主として理科の授業に関わります。連携協力校と連携し、学校現場の諸課題に応えることを目標として、理科を主とした学生の課題の解決や実践力の向上を目指します。

### キーワード①「理科の授業支援」

観察実験の実施や、話し合い活動の充実などを、チーム・ティーチングによる指導補助として支援します。児童生徒の授業提出物（ノート、ワークシートなど）を確認し、授業担当教員に伝えます。学校の要望に応じて授業実践に取り組むこともあります。

### キーワード②「理科の教材開発の支援」

物理、化学、生物、地学、理科教育学の専門の学修を生かし、自然の事物・現象を質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなど科学的な探究活動を促す理科の教材開発を支援します。

### キーワード③「科学研究、科学工作等の支援」

理科に関わるクラブ活動、課外活動での科学研究や科学工作などにおける児童生徒の科学的な学びの支援を行います。身近な自然現象への興味喚起と課題発見、見直しをもった解決の工夫、振り返りによる探究過程の深化、まとめ・表現などを支援します。

## 開設授業科目例

### 教科内容構成（理科）の理論と実践 A

理科のエネルギー、物理分野の理解を深めるとともに、教材の開発や改良の考え方、情報機器の活用方法について議論します。また、児童・生徒に授業を行う際の留意点や指導法などについて学びます。

### 教科内容構成（理科）の理論と実践 B

化学及び関連分野において、小学校から高等学校で扱われている内容を中心に題材を選びます。それらの題材を検討することで教育内容の理解を深め、受講者の教材研究力と授業の質を向上させる能力を養います。

### 教科内容構成（理科）の理論と実践 C

小・中学校理科「生命領域」の内容から「生物の体のつくりと働き」、「植物の成長と養分」等のテーマを取り上げ、講義や教材研究、模擬授業等を通して、巧妙で精緻な生命現象について自ら考え、子どもたちに伝える力を養成します。

### 教科内容構成（理科）の理論と実践 D

小・中・高校理科の地球と宇宙に関わる分野について、教科内容の基礎となる学術研究の成果やその背景にある自然法則、それらが判明した過程に着目します。講義、演習・実習、観察などを通してその内容と実践に関する理解を深めます。

### 科学的リテラシーのための授業設計論

主に到達度評価に関する特徴を学び、評価時に必要な複数の技能を習得し、学習意欲との関わりを検討します。また、批判的思考とメタ認知に基づく検証計画立案に関する講義（演習・討論を含む）を行います。

### 理科教育課程の理論と実践

学習指導要領（平成29年3月）を基に、資質・能力を育む理科の授業の教育課程や学習指導案を作成します。また、理科のカリキュラム論と学習論に関する知識及び技能を習得するための講義（演習・討論を含む）を行います。

### 自然環境学習の理論と実践

上越地域の里山、川、海岸を対象に自然環境学習の授業案作成と検討を行う演習です。授業案作成前に、実際に各対象地における素材理解を深める野外演習を行い、実感を伴った授業構想ができるように支援します。

### 理科授業の理論と実践（野外観察）

動物生態学の理論を基礎とし、上越教育大学を野外観察の場所とします。小・中学校の理科の単元で野外観察が必要な内容をテーマとし、講義と野外での演習を通して、野外観察に秀でた教師を養成します。



## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等



【教授】  
**五百川 裕**  
(いおかわ ゆう)  
iokawa@juen.ac.jp

専門は生物学、自然環境教育（総合学習）。主に共通性・多様性、時間的・空間的な視点から自然現象を捉え、地域の自然環境の実態を明らかにする研究を行っている。自然観察、特に生物観察の体験を探究的な学習として実践するための教材研究、及び地域素材を生かした地区理科教育センター支援にも取り組む。元高等学校教員。



【教授】  
**小川 佳宏**  
(おがわ よしひろ)  
ogawa@juen.ac.jp

専門は物理学。固体の光学的な性質やその動的な特性について研究を行っている。これらの研究をもとに、物理学に関する教材の研究を行う。



【教授】  
**濤崎 智佳**  
(とさき ともか)  
tosaki@juen.ac.jp

専門は地学。観測天文学を基礎として、星の材料となる物質や星が形成されるメカニズムなどの研究を行っている。これらの研究をもとに、地球と宇宙を題材とした教材や教育プログラムの開発などの研究を行う。



【教授】  
**中村 雅彦**  
(なかむら まさひこ)  
masahiko@juen.ac.jp

専門は生物学。動物生態学、動物行動学を基礎に、動物の行動や進化などに関する野外研究を行っている。これらの研究をもとに、野外を調査地とし、動物を材料に、野外観察に適した材料、素材の研究を行う。



【教授】  
**古屋 光一**  
(ふるや こういち)  
furyu@juen.ac.jp

専門は理科教育学および理科教師教育学。前者、理科教育学については科学的概念の形成、問題解決と探究学習、教科の本質、資質・能力の育成、学力評価などを研究している。後者、理科教師教育学については、長期の教育実習の方法、教育課程の作成および授業設計の指導、海外の科学教育を研究している。元中学校教員。



【准教授】  
**下村 博志**  
(しもむら ひろし)  
simomura@juen.ac.jp

専門は化学。分析化学と錯体化学を基礎に、新しい分析法などに関する実践的研究を行っている。これらの研究をもとに、教育現場で活用可能な簡易分析法の開発とその応用、化学系実験教材の研究を行う。



【准教授】  
**谷 友和**  
(たに ともかず)  
tani@juen.ac.jp

専門は生物学。植物生態学、植物生理学を基礎として、野生植物が環境中で“どう生きるのか”、“なぜそう生きるのか”に焦点を当てた研究を行っている。また、主に植物を材料として、細胞から生態系まで、土いじりからAIプログラミングまで、幅広く教材研究を行っている。



【准教授】  
**山田 貴之**  
(やまだ たかゆき)  
tyamada@juen.ac.jp

専門は理科教育学。児童生徒の主体的な学びを促進したり、問題解決の力や科学的に探究する力を育成したりするための教材開発と指導法考案に関する研究を行っている。学習指導要領の趣旨を踏まえた教材・授業研究、科学的リテラシーを育成するカリキュラム開発に重点を置いた実践的研究を指導する。元小・中学校教員。



# 自然科学／情報

## 自然科学領域の目的

理数教育の充実等の学校現場における現在の喫緊の教育課題を理論的・実践的に探究する活動を通して、算数・数学科教育、理科教育、情報科教育に関する高度な専門的知識と実践的指導力を備えた教員、学校における算数・数学科・理科・情報科教育のエキスパート、さらに教育改革をエビデンス・ベースで推進するリーダーとなる教員を養成します。



## 情報分野の目的

教育の情報化等の学校現場における現在の喫緊の教育課題を理論的・実践的に探究する活動を通して、情報教育、ICTを活用した教育、情報科教育に関する高度な専門的知識と実践的指導力を備えた教員、学校における情報教育、ICTを活用した教育、情報科教育のエキスパート、さらに教育改革をエビデンス・ベースで推進するリーダーとなる教員を養成します。

## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

### キーワード①「情報学（Infomatics）」

最新の情報技術や情報社会が及ぼす人々や生活への影響などについて、「情報」を多角的に捉え、深く洞察・俯瞰し、「情報科」の提案を行います。

### キーワード②「データサイエンス」

統計処理、数値解析、モデリング、シミュレーション、データマイニング、AI（人工知能）技術、等、学校実習で記録したさまざまなデータから評価を行うための数理的手段を提供します。

### キーワード③「情報コミュニケーション」

Society5.0時代を見据え、これまでにない形態での多様な「情報」のコミュニケーションの特徴を理解し、教育・学習場面に活かす手立てを検討し学校現場へ導入します。

### キーワード④「プログラミング教育」

プログラミング的思考（小学校プログラミング教育において育成すべき資質・能力のひとつ）の育成、高等学校情報科「情報I」プログラミング必修化へ対応します。

### キーワード⑤「ICTを活用した教育」

ICT（Information and Communication Technology）活用（教育の情報化における取り組みのひとつで、効果的で効率的な授業実践のための手段である）を充実させます。

### キーワード⑥「情報教育」

21世紀型のリテラシー教育として、情報活用能力の育成を考えます。小中高等学校への連続性や横断的学習を考慮に入れたカリキュラムマネジメントを提案します。

## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等

**【教授】**  
**井上 久祥**  
(いのうえ ひさよし)  
inoue@juen.ac.jp

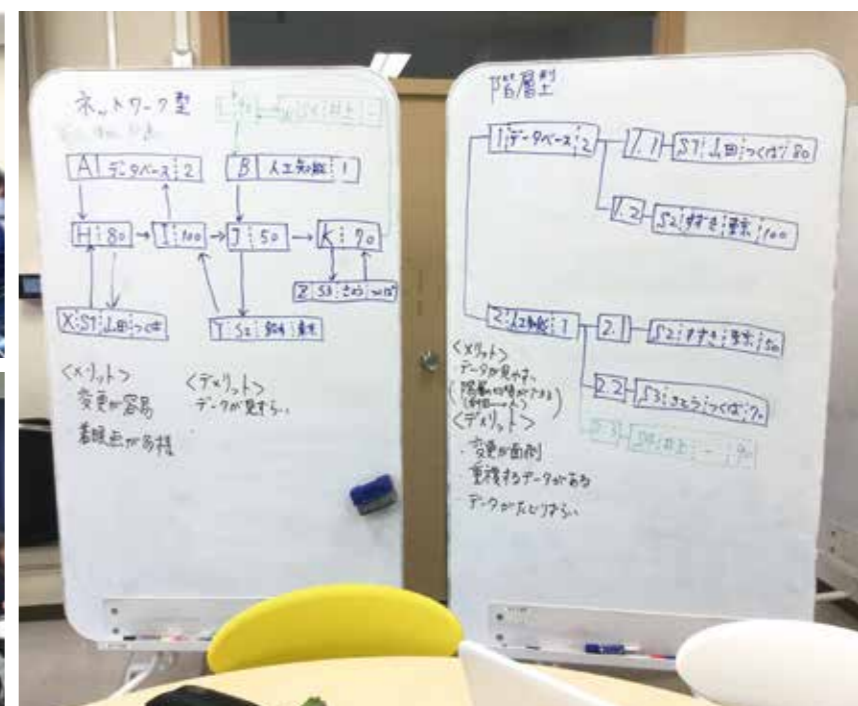
専門分野：教育工学、情報教育、知識処理。情報教育の内容・制度・形態、情報教育の授業の教授方法と学習過程、学校情報化のための組織マネジメント及び教育システムについて研究している。著書：共著「人工知能と教育工学—知識創産指向の新しい教育システム」（オーム社）。

**【准教授】**  
**石川 真**  
(いしかわ まこと)  
ishikawa@juen.ac.jp

専門分野：社会心理学、教育工学。これからの情報社会に求められる資質能力を育成する授業実現に向けて、「協調的な批判的思考」に対人関係スキルが及ぼす影響の検討を行っている。著書：共著「研究と実践をつなぐ教育研究」（株式会社ERP）

**【准教授】**  
**高野 浩志**  
(たかの ひろし)  
takano@juen.ac.jp

専門分野：情報教育、数理物理（特に剛体の力学）、人工生命（特に生命の創発シミュレーション）。論文：単著「Spin Reversal of a Rattleback with Viscous Friction」Regular Chaotic Dyn. 2014、共著「Continuous Rolling Motion of a Disk on a Vibrating Plate」Nonlinear Dynamics 2020.



## 開設授業科目例

### 教科内容構成「情報」の理論と実践

情報学の様々な見方・考え方（情報解析学、情報システム学、人間工学、メディア学、社会情報学、等）による問題解決の方策を知り、高等学校専門教科情報科及び共通教科情報科の教育課程編成のあり方を情報教育との接続も含めて考えます。

### プログラミング教育におけるICT活用

プログラミング的思考や情報活用能力の概念を理解し、小学校プログラミング教育で利用されるアプリのスクラッチやビスケットの利用方法やその他のICT活用について学びます。

### 情報・コミュニケーションの理論と実践

情報教育や教育の情報化に関して理解を深め、教師として情報通信ネットワークを活用した授業実践を計画・実施できるようになること、および関連するICT活用指導力を高めることをめざします。

### 教育工学の理論と実践

教育工学及び情報学の立場から、教授・学習過程における「設計」「実施」「評価」の実践について、アクティブラーニングを通して学びます。客観的・理論的側面だけでなく、主観的・経験的側面からも課題を考え、実践に適用可能なものとします。

### ICTを活用した教育・情報教育デザイン

ICTを活用した教育・情報教育のデザインについて、次の3つのテーマで学修を深めます：①教育の情報化推進についてのデザイン；②情報教育のカリキュラム・授業についてのデザイン；③ICT活用による教授・学習についてのデザイン。

# 芸術創造／音楽

## 芸術創造領域の目的

芸術の総合的・専門的な教育・研究領域を基盤とし、教育実践、演奏や作品の発表、理論・歴史研究、講演会や地域貢献等、音楽・美術に関わる多様な活動を通して、豊かな感性と想像力、高度な教科の指導力を備えた教員を養成します。



## 音楽分野の目的

音楽の表現や鑑賞等に関する科目、音楽科教育、その他音楽に関する専門科目等について総合的・専門的な教育・研究を行い、教育実践力を養います。声楽、器楽、作曲等に関する専門的な知識・技能を持つとともに、音楽文化の歴史や現代的状況について深い見識を有し、音楽教育の成り立ちと未来の可能性について、幅広い見地から考えることのできる教員を養成します。

## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

**キーワード①**「授業中の音楽的課題の発見と解決、創意と表現との関わりの洞察」

創作場面、合唱、合奏などの各場面（音取り、部分練習、パート練習など）、文化祭、合唱祭などのイベントの支援を行います。

**キーワード②**「音楽科における歌唱、合唱、ピアノ伴奏に係る学習支援全般」

音楽科の授業、部活動での歌唱、合唱活動を円滑に進めるための実技面からの支援を行います。

**キーワード③**「三つの柱、21世紀を生き抜く力+α、知覚と感受、音楽的な見方・考え方」

音楽科における「三つの柱」の充実に向けた授業方法の開発を目指して、授業の方法や教材等について企画、運営・実施等の実践研究を行います。

**キーワード④**「和楽器、伝統音楽、諸外国の音楽、器楽、教材開発、授業開発、授業研究、授業分析」

器楽授業の充実と質の向上を目指して、支援や補助を行うとともに、授業研究や教材の開発を行います。

## 開設授業科目例

### 声楽の理論と実践I（独唱）

音楽科の重要な領域である歌唱について、学習指導要領の分析・考察を通して求められる指導内容について明らかにするとともに、個人レッスンを通して、指導者としての資質・能力を養います。授業は、主として個人レッスンの形態で行います。

### ピアノの理論と実践I（独奏）

音楽科の教員に求められるピアノの技能を、受講者のレベルに合った楽曲に取り組む中で高めていきます。ピアノ独奏だけでなく、教材や声楽・器楽の伴奏も視野に入れ、アンサンブル力の向上も目指します。

### 管楽器初期教育の理論と実践

未経験または経験の少ない管楽器を取り上げ、楽器の取り扱いや特徴といった基本的知識、基礎的能力を身に付けることを通して、特に初期教育に必要な教材や指導のあり方について深く学びます。

### 指揮の理論と実践

音楽の教員としての指揮法について、いくつかの題材を実践し、合奏や合唱の現場における諸問題を検討しながら考察します。基本的にピアノに向かって指揮する形式で進めますが、受講者も演奏に参加し、自分以外の指揮で演奏することも行います。

### 伝統音楽教育の現状と課題

伝統文化教育の現状を踏まえ、これからの学校音楽教育が目指すべき日本の伝統文化（音楽）教育の方向性を考えるとともに、実際の伝統音楽授業の実施に向けて必要な知識と技能の習得を、講義・実習その他様々な活動を交えて行います。

### 教科内容構成「音楽」の理論と実践

音楽科という教科の内容とはどのような（べき）か、その原理と体系を捉え直し、あるべき音楽（科）教育のあり方について、分野所属の全教員・学生がそれぞれの知見を持ち寄り、討議します。

### 音楽教育実践演習

「音楽教育研究法」で修得した理論をもとに、音楽教育における今日の課題を踏まえ「教える」という具体的な実践の場面を分析します。その分析結果から授業仮説を生成し、模擬授業の実践を通して省察する資質・能力を養います。

### 作曲の理論と実践

作曲の基礎的な技法を学びながら、編曲や作曲を試みます。クラス授業ですが、受講者の技術レベルに合わせて個別に行います。また作った作品の作曲はもちろん、小品、童謡、伴奏づけの他、実践場面の多様な希望にこたえられるつもりです。

## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等

**【教授】**  
**阿部 亮太郎**  
(あべ りょうたろう)  
aberyo@juen.ac.jp

作曲関係の授業を担当。ソルフェージュなどの授業を通して、学校での実践場面での見取りを重視した授業を展開。オーケストラ（《漆黒の網目》2018年東京交響楽団初演 他）、吹奏楽、室内楽などの作品、校歌や市民創作音楽劇の音楽、さらに日本の作曲家論や、批評家論、実践場面の見取りに関する論文を執筆。

**【教授】**  
**上野 正人**  
(うえの まさと)  
mueno@juen.ac.jp

声楽関連の授業を担当。言葉と音楽の結びつきからその演奏表現法を導きだす実践的な演奏表現方法の研究や、「楽しみの中からその本質を学ぶ」をモットーに、小学校、中学校で講座や一般の合唱団の指導を通して実践的な指導法開発に取り組んでいる。

**【教授】**  
**時得 紀子**  
(ときえ のりこ)  
tokie@juen.ac.jp

音楽科教育を担当。音楽科と他教科が横断した、創作ミュージカルなどの総合表現活動の可能性を探る。また、音楽づくり・創作のカリキュラム開発に携わる。論文：“Incorporating Physical Expression into Junior High School Music Classes” ISME 2020 World Conference Helsinki publish. 等。

**【特任教授】**  
**平野 俊介**  
(ひらの しゅんすけ)  
hirano@juen.ac.jp

器楽（ピアノ）関連の授業を担当。鍵盤楽器に関する全ての領域を研究対象として、ピアノ独奏とピアノ・アンサンブルにおける演奏法、及び声楽・器楽・合唱における伴奏法に取り組んでいる。また作品研究や作曲家研究にも力を入れている。

**【准教授】**  
**尾崎 祐司**  
(おざき ゆうじ)  
ozaki@juen.ac.jp

音楽科教育を担当。最近の教育課題を背景に、音楽科の授業実践のあり方を探る。特に、インクルーシブ教育システムにおける、子どもの認知特性に応じた理論と実践との往還を目指した授業研究を行う。論文：「インクルーシブ教育における「適合の契機」の導出の必要性—イメージ形成に着目した音楽学習の成立過程—」（日本学校音楽教育実践学会）

**【准教授】**  
**玉村 恭**  
(たまむら きょう)  
tamamura@juen.ac.jp

音楽学を担当。専門は日本の古典音楽・音楽史および日本の美学思想史。授業では、和楽器、日本の伝統音楽とその歴史、諸外国の音楽のほか、美学・哲学、音楽社会史・文化論、伝承論・教材論なども扱う。地域の祭や行事など地域の活動に関わる取り組みも行っている。

**【准教授】**  
**長谷川 正規**  
(はせがわ まさのり)  
hasegawa@juen.ac.jp

管楽器、合奏、指揮関連の授業を担当。管楽器の奏法や表現法、合奏指導法等の研究を幅広く行っている。専門であるテューバで独奏・室内楽の領域で活動するほか、指揮でも定期的に演奏会へ出演し、地域における吹奏楽やオーケストラの活動が活発化することを目指している。



# 芸術創造／美術

## 芸術創造領域の目的

芸術の総合的・専門的な教育・研究領域を基盤とし、教育実践、演奏や作品の発表、理論・歴史研究、講演会や地域貢献等、音楽・美術に関わる多様な活動を通して、豊かな感性と想像力、高度な教科の指導力を備えた教員を養成します。



## 美術分野の目的

美術の教育実践を中心とした様々な活動を通して、これからの社会と文化を担う児童・生徒に、創造することの楽しさと自ら学び考え表現する創造活動の能力を育む、高度な指導力を備えた教員を養成します。

## 学校実習(学校支援プロジェクト)の取組テーマ例

### キーワード①「図画工作科, 美術科, 部活動」

図画工作・美術科の授業、部活動、地域社会と連携した活動などにおいて、造形表現に関する専門的な指導を受けることで、表現方法を習得するとともに、自由に表現する面白さを実感しながら、それぞれの表現を深めます。また、作品を展示したり、見たり、話し合ったりする活動を通じて鑑賞する楽しさや多様な表現について理解します。

体全体の感覚を働かせる造形活動(造形遊びや立体に表す活動)を通じて、子どもたちの主体的な想像力を育む手伝いをします。

### キーワード②「図画工作科, 体全体の感覚を働かせる造形活動, 材料・環境の整備, 教材開発, 授業実践, 分析, アクティブラーニング」

### キーワード③「図画工作・美術に係る連携支援全般, 教材・用具の支援, アクティブラーニング, 視覚デザイン」

プリンター、スキャナー、各デザイン系編集アプリケーション、または缶バッジ製作等の普段学校では使用の機会が少ない機器について、オペレーター役を兼ねる大学院生を派遣することにより、授業・クラス運営の補助や題材・教材の開発等を支援します。

## 開設授業科目例

### 鑑賞教育の理論と実践

鑑賞と表現を往還しながら、美術教育の特徴や本質を理解し、児童・生徒の発達段階を踏まえた鑑賞の指導法や、展開についての考察を深めます。さらに美術の歴史や社会的な繋がりを背景とした、豊かな美術教育の教材開発と美術の鑑賞方法を理解します。

### 図画工作・美術科教育教材の理論と実践

図画工作科・美術科教育の内容と目的についての理解を踏まえ、現在の課題とこれからの美術教育のあり方について探究します。また、グループ討議、具体的な指導案や教材の作成、諸機関との連携による造形活動などを通して実践力を身につけます。

### 絵画表現の理論と実践II(油彩画・版画)

絵画の生成原理を理解し、実制作と理論について検討します。「つくりながら知る」「つくったものから知る」ことを造形活動から考察し、理論と実践の有機的結合を体験します。多様な表現の理解を深め、個性を反映できる題材開発を学びます。

### 工芸表現の理論と実践(陶芸)

創造することの楽しさを手の感覚を働かせながら理解するとともに、陶芸の焼成による「土」の変化と原理を学びます。生活の中の工芸の働きや、伝統文化への関心、造形的な見方・考え方を理解し、工芸表現や鑑賞の指導方法を学びます。

### 人体表現の理論と実践

図画工作科・美術科における人体表現の理解を基に、題材を開発する能力を身に着けます。芸術表現の主題である「人間」を表現する際に働く思考様式「見方・考え方」について、絵画と彫刻の両面から理論的かつ具体的に検証を重ねます。

### 彫刻表現の理論と実践

図画工作科・美術科における彫刻表現に関する教科内容について、理論と実践を通じて学びます。彫刻表現固有の「見方・考え方」を中心に、具体的な題材に即して検証を重ね、表現や鑑賞の教材を開発する諸能力を体得していきます。

### 教科内容構成「図画工作・美術」の理論と実践

図画工作科・美術科の指導において児童・生徒に根ざした主体的な活動を保障・支援するために、必要な教科内容とその意義について理解します。各専門科目の既習内容の省察から整理・分類し自ら課題を見出し実証的な考察を重ね客観化していきます。

### デザイン学習の理論と実践

デザインすることの社会的影響について構造を把握し、成立させる媒体や構成要素を理解します。さらに教材や題材の開発と授業実践の観点から、実現するために必要な専門知識や技能について省察し、児童・生徒に対し適切な指導方法を身に付けます。

## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等



【教授】  
**五十嵐 史帆**  
(いからし しほ)  
shiho@juen.ac.jp

美術科教育を担当。「つくる行為」に注目し、従来の概念にとらわれない視点から美術教育を再考していくことをテーマにしている。授業実践や美術館ワークショップ等を通じて実践的研究を行っている。



【教授】  
**洞谷 亜里佐**  
(どうや ありさ)  
douya@juen.ac.jp

絵画(日本画)を担当。日本画制作研究を中心とした理論と実践を行っている。主に、伝統的な絵画・障壁画、さらにフレスコ壁画等外国の壁画表現の組成や技法を分析し、模写を通じた文化財教育を研究している。



【教授】  
**松尾 大介**  
(まつお だいすけ)  
matsuo@juen.ac.jp

彫刻を中心とした立体表現を担当。塑造、木彫、石彫、金属、テラコッタ等、様々な技法や素材を扱いながら彫刻表現の可能性を研究している。また、立体表現の教材に関する研究も行っている。



【准教授】  
**安部 泰**  
(あべ やすし)  
abeyasu@juen.ac.jp

視覚デザインを担当。グラフィックデザイン、イラストレーションを専門とする。デザインの社会的な意味や役割を意識した実践的研究を行っている。制作においてはアナログとデジタル双方の長所を活かしつつ、目的に合った完成度の高い表現を研究している。



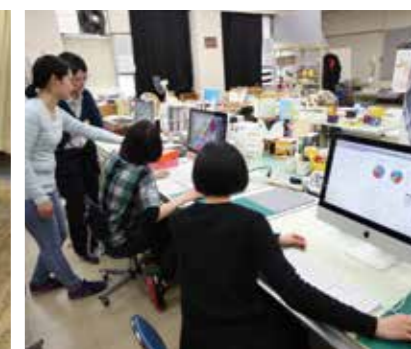
【准教授】  
**伊藤 将和**  
(いとう まさかず)  
imasa@juen.ac.jp

油彩画、現代芸術を担当。平面作品と立体作品の関連性を様々な技法や材料を用い、インスタレーションとして展開する。また、ワークショップ等を通じ、美術の社会還元を研究している。



【講師】  
**兪 期天**  
(ゆ きちよん)  
yoo@juen.ac.jp

陶芸(陶磁器)、工芸を担当。粘土から陶芸作品に至る行為を通じて「ものづくり」の本質について考察し、工芸における素材・プロセス・技術のあり方について研究している。工芸という専門性が学校教育の中で活かされることを目標としている。



# 生活・健康／保健体育

## 生活・健康領域の目的

人間が生涯にわたり健やかに生活を営む上で基盤となる生活や健康に関する保健体育、技術、家庭の各学問分野に関する学修を深めるとともに、これらの理論と実践の架橋・往還・融合を通して、教育や指導を創造的に推進し、持続可能な社会へと導く能力を備えた教員を養成します。



## 保健体育分野の目的

体育学、運動学、学校保健、保健体育科教育の各学領域の理論を学修し、学校教育をはじめとする様々な教育・指導現場における体育・スポーツ指導の実践との架橋・往還・融合を通して、実践研究を創造的に推進する体育科の高度な指導力を備えた教員を養成します。

## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

### キーワード①「体育授業の支援」

小学校や中学校の体育授業において、サブティーチャーとして指導補助したり、実技指導の主担当として指導したりします。また、単元を通して主担当する場合があります。

### キーワード②「運動部活動の支援」

中学校の運動部活動（陸上部、卓球部、バレーボール部、サッカー部等）において、指導補助を行います。専門種目については、実技指導を行います。

### キーワード③「学校行事運営の支援」

小学校や中学校の運動会や体育大会、スキー教室などの学校行事において、運営の支援や実技指導を行います。

### これまでのテーマ例（2020年度）

- 授業支援ならびに運動実技指導補助（上越市立A小学校）
- 体育授業支援および学校行事運営支援（上越市立B小学校）
- 運動部活動支援ならびに体育授業支援（上越市立C中学校）

## 開設授業科目例

### 保健体育科教育演習

保健体育科教育に関するこれまでの実践や理論について文献講読や実践などを通して概観し、教育の今日的課題に対応しうる保健体育科教育のあり方を演習的に探究します。保健体育学習の特性とアクティブラーニングの観点から、講義と実技・演習での理論と実践の往還的活動によって学修します。具体的には、マット運動、とび箱運動、鉄棒運動などの実践を通して講義を進め、適切な指導の実践力を涵養します。

### 運動学演習

児童・生徒一人一人の実態に合った指導をするため、スポーツ運動における動きの習得や指導に関する理論を理解し、身体知を実践的に身に付けます。また、運動指導、指導記録の純粋記述、メタ観察を通して実践結果を反省的に分析し、動きの指導力を養います。

### 運動方法学演習（武道）

現代武道の歴史的發展過程と運動構造の特殊性の理解を通して、武道とは何かをアクティブラーニング形式で演習・考察します。演習では、武道（剣道、柔道、空手道等）の実践的・理論的検討を通して、その特性を理解します。特に、対人運動としての技術の特殊性の観点から演習を行ない、学校体育における対人的危機管理能力を高めます。また、武道のみならず、各種スポーツにおける今日的課題を取り上げ、今後の学校体育におけるスポーツの指導方法や今日的教育意義について検討します。

### 保健体育科教育内容・指導論

近年提唱された「ボールゲームの構造論」に基づき、種目にとらわれないボールゲームの共通構造に着目した理論について概説し、社会的構築主義に基づき、「動き」や「ゲームパフォーマンス」に偏向しない新しいボールゲームの指導を提案します。

### 教材としての身体運動科学

身体運動に関する科学的知見を概説し、生物としての身体、表現手段としての身体、環境と相互作用する身体、社会生活の中での身体など、身体やその運動の様々な側面から身体運動科学の教材としての可能性について議論します。

### 疾病予防教育の理論と実践

感染症、熱中症、生活習慣病といった疾病の基礎的理解と、その予防法について学びます。また、これらの理論学習と学校現場に蓄積されたデータおよびオープンデータの分析を通して、疾病予防教育（がん教育を含む）について論考します。

### メンタルトレーニングを活用した学習支援

スポーツにおけるメンタルトレーニングの心理的技法が児童の心理的要因を改善し、学習への取り組みを向上させるのではないかと仮説を基に作成された、学習支援プログラムの理論的背景を、演習を交えながら概説します。

## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等

  
**【教授】直原 幹**  
 (しきはら かん)  
 jikihara@juen.ac.jp

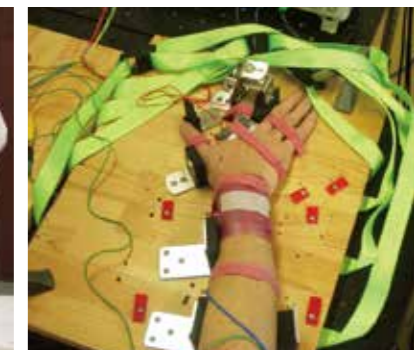
元附属中学校校長。運動方法を担当。運動学やスポーツ科学の知見を基に、運動技能の学習や身体のトレーニング方法について幅広く検討・指導している。

  
**【教授】周東 和好**  
 (しゅうとう かずよし)  
 shuto@juen.ac.jp

体育科教育学を担当。体育科教育に関わる実践的研究を行う。また、動きの学習段階や指導方法および用具の開発、体操・器械運動の学習指導、幼児の動きの学習指導、教師教育について特に体育授業の省察能力の向上に関する研究を行っている。

  
**【助教】長谷川 晃一**  
 (はせがわ こういち)  
 koichi@juen.ac.jp

運動学・体づくり運動を担当。学校教育において、個々の“動きの感じ”や運動の習熟プロセスを手がかりとした体育の指導に関する実践的研究を行う。また、12年間を見通した体づくり運動の進め方について、実践や授業観察を手がかりに検討する。





# 生活・健康／技術

## 生活・健康領域の目的

人間が生涯にわたり健やかに生活を営む上で基盤となる生活や健康に関する保健体育、技術、家庭の各学問分野に関する学修を深めるとともに、これらの理論と実践の架橋・往還・融合を通して、教育や指導を創造的に推進し、持続可能な社会へと導く能力を備えた教員を養成します。



## 技術分野の目的

「材料と加工の技術(木材加工,金属加工など)」、「生物育成の技術(栽培,飼育)」、「エネルギー変換(電気,機械)」、「情報(情報手段活用の素養,コンテンツ系と計測制御系プログラミングなど)」の各教科内容と、技術・工業科指導法とを相互に架橋して学ぶことにより、技術科に関わる先進的な実践的指導力を備えた教員を養成します。



## 学校実習(学校支援プロジェクト)の取組テーマ例

### キーワード①「小中学校におけるプログラミング教育に係る連携支援全般」

教科および部活動等における授業補助・教材製作などを通して、プログラミング教育に関する基礎力・思考力・実践力等の育成に関する学力向上等の支援を行います。

### キーワード②「小中学校におけるものづくり教育に係る連携支援全般」

小学校図画工作科、中学校技術・家庭科技術分野及び総合的な学習の時間における授業補助、教材製作などを通して、ものづくり教育に関する基礎力・思考力・実践力等の育成に関する学力向上等の支援を行います。

### キーワード③「エネルギー変換に係る連携支援全般」

小・中学校の教科およびクラブ活動等における授業補助・教材製作などを通して、エネルギー変換に関する基礎力・思考力・実践力等の育成に関する学力向上等の支援を行います。

### キーワード④「小中学校における栽培教育に係る連携支援全般」

小・中学校の社会科、理科、「総合的な学習の時間」、中学校技術・家庭科技術分野等における栽培に係る学習等の支援を行います。



## 開設授業科目例

### 教科内容構成「技術」の理論と実践Ⅰ

技術科の各専門科目で学習する教材研究と、技術科教育に関する科目で学習する指導方法を架橋させて、ものづくりを重視した技術科の題材(カリキュラム)づくりの計画・実践・評価・改善に必要な力を身につけます。

### 教科内容構成「技術」の理論と実践Ⅱ

中学校技術・家庭科技術分野の研究会の研究授業等を参観し、知識・技術・指導方略の分析を通して、ものづくりを重視した技術科の題材(カリキュラム)づくりの計画・実践・評価・改善に必要な力を身につけます。

### 材料加工の先端技術の教材開発と実践

教科の基盤学問である材料科学・材料力学をはじめとした諸科学の成果を踏まえながら、材料加工の先端技術に関する教材開発のための教材構成(教材開発の過程)に必要な理論と実践方法について修得します。

### 生物育成の先端技術の教材開発と実践

Society5.0の実現に必要な生物育成の先端技術の教材解釈と教材開発について、技術教育原理、学習者の心身の発達、技術教育カリキュラム・マネジメントと統合的に捉え、模擬授業等を通して実践的指導力に必要な資質・能力を身につけることで、技術教科内容と指導法とが連携した実践的指導力を修得します。

### エネルギー変換の先端技術の教材開発と実践

教科の基盤学問である電気をはじめとした諸科学の成果を踏まえながら、エネルギー変換の技術に関する技術教育の研究事例、教育実践例を示し、教材開発のための教材構成(教材開発の過程)に必要な理論と実践方法について修得します。

### 情報の先端技術の教材開発と実践

Society5.0の核となる先端技術の基礎技術と理論に基づいた教材開発を行い、それに基づく模擬授業等を通して実践的指導力に必要な資質・能力を身につけることで、技術教科内容と指導法とが連携した実践的指導力を修得します。



## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等



【教授】  
**大森 康正**  
(おおもり やすまざ)  
oomori@juen.ac.jp

情報関係の講義及び演習を担当。研究分野は情報工学、教育学、人工知能である。特に、小学校から高等学校までの体系的なプログラミング教育及びそれに関する教材開発、教育支援システム、問題解決過程に基づく教育支援などに関する応用・実践指向の研究を行っている。



【教授】  
**山崎 貞登**  
(やまざき さだと)  
yamazaki@juen.ac.jp

技術科・工業科教育、生物育成の技術を担当。1) STEAM(STEM+Arts), STREAM(STEAM+Robotics) 教育からの小から大学まで一貫した技術教育課程開発と、日米英等との国際比較、2) Society5.0実現のSTEAMカリキュラムと学習評価法の改善と協働実践研究を行っている。



【准教授】  
**東原 貴志**  
(ひがしはら たかし)  
htakashi@juen.ac.jp

技術科教育及び木材加工の講義・演習を担当。技術科教育に関する研究、木材の圧縮加工や曲げ加工に関する研究、技術教育を目的とした木質材料の簡易な製造方法に関する研究、地域の森林資源を活用した木工教材の開発や、森林・林業及び木材利用に関する教育実践研究に取り組んでいる。



【講師】  
**岡島 佑介**  
(おかじま ゆうすけ)  
okajima@juen.ac.jp

電気工学関係の講義及び実習を担当。電力ネットワークの物理的側面及び経済的側面に焦点をあてた研究に取り組んでおり、蓄電池の最適な運用に関する研究、周波数調整のための確率的モデル予測制御に関する研究、経済学やゲーム理論の分野で発展したメカニズムデザインを電力市場に取り入れた研究を行っている。



# 生活・健康／家庭

## 生活・健康領域の目的

人間が生涯にわたり健やかに生活を営む上で基盤となる生活や健康に関する保健体育、技術、家庭の各学問分野に関する学修を深めるとともに、これらの理論と実践の架橋・往還・融合を通して、教育や指導を創造的に推進し、持続可能な社会へと導く能力を備えた教員を養成します。



## 家庭分野の目的

SDGsの実現に向けた高い志を持ち、教科「家庭」を、学術的かつ教育的視点からEDSの中心に位置付け、現在及び将来において、家庭生活を中心とした人間の生活をよりよい方向に導くことのできる児童生徒を育成するための教育実践ができる教員を養成します。

## 学校実習(学校支援プロジェクト)の取組テーマ例

**キーワード①**「小学校『家庭科』／中学校『家庭科』／教材の検討・準備／地域資源の活用／科学的理解／授業実践記録／実習室整理補助／授業準備・片付け補助／授業研究会記録／資料収集」

小学校「家庭」及び中学校「技術・家庭(家庭分野)」(以下、家庭科)の授業実践並びに授業研究に係る支援に努めます。

その内容は「1. 授業実践に係る内容」と「2. 授業研究に係る内容」からなります。具体的な内容は以下の通りです。

### 1. 授業実践に係る内容

#### (1) 教材研究に関すること

- 例① 地域資源を活用した教材の検討・準備・作成
- 例② 科学的理解を深めることのできる教材の検討・準備・作成

#### (2) 授業時間中に関すること

- 例① グループワークなどの支援
- 例② 授業実践の記録の作成

#### (3) 学習環境に関すること

- 例① 実習室の整理等の補助
- 例② 授業の準備・片付け等の補助

### 2. 授業研究に係る内容

- 例① 授業記録の作成
- 例② 研究協議会記録の作成
- 例③ 授業研究に必要な資料の収集

## 開設授業科目例

### 教科内容構成「家庭」理論と実践

「家庭」教科書に掲載された教材や、「家庭」の授業実践例を取り上げ、教科内容の視点から分析を行います。これを通して「家庭」の学問体系(教科内容)の理解を深め、その内容を自らの教材や実践としてアウトプットする能力を身につけます。

### 21世紀を生き抜くための「家庭」

「家庭」教科書を基に、その内容を裏付ける理論を学び、授業構想を行います。背景知識の習得とそれに基づく授業実践の技術を磨くため、模擬授業を行い、21世紀を生き抜くための力を「家庭」でどのように身につけていくのか、考察します。

### 「家庭」における理論と実践(食物学)

「家庭」における食物領域の指導に求められる理論と実践を修得するために、教科内容の背景となっている食物学における学びを高め、教科の目標や指導内容についての理解を深めます。

### 「家庭」における理論と実践(被服学)

「家庭」における被服領域の指導に求められる理論と実践を修得するために、被服学の学びを高め、指導内容についての理解を深めます。最新の教育実践や学術論文を教材として、喫緊のニーズや課題を意識した授業を展開します。

### 「家庭」における理論と実践(住居学)

「家庭」における住居領域の指導に求められる理論と実践を修得するために、住居学の学びを高めるとともに、教科の目標や指導内容についての理解を深めます。最新の研究成果や課題を意識した授業を展開します。

### 「家庭」における理論と実践(児童学)

「家庭」における保育領域の理論と実践力を高めるために、「児童学」に焦点化して学びます。具体的には、子どもを取り巻く諸問題について理解を深め、多様な視点から検討・議論・考察するとともに、問題解決の実践的方法について考えます。

### 家庭科教育教材の理論と実践

家庭科教育の本質と現代の家庭科教育の実相との複眼的視点から、家庭科教育教材及び家庭科教育実践の検討・考察を行います。これを通して、「家庭」の学習の成立を図るための理論を修得し、家庭科教育の本質を踏まえた実践力を身につけます。

## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等

【教授】  
**佐藤 ゆかり**  
(さとう ゆかり)  
yukari@juen.ac.jp

研究・教育の分野は家庭科教育学・家庭科教育。家庭科教育に関する実践的研究、初等・中等教育における家庭科教師の養成に関する検討を行っている。学校教育における家庭科の位置づけ及び家政学を背景とする家庭科を学ぶことの教育的意義について関心を持っている。

【教授】  
**光永 伸一郎**  
(みつなが しんいちろう)  
mitunaga@juen.ac.jp

食物学に関する講義と実験を担当。発酵食品や植物性食品を用いた実験教材の開発を行っている。また、教科内容学に基づいた家庭科食物領域に関わる内容構成の検討なども行っている。

【准教授】  
**吉澤 千夏**  
(よしざわ ちなつ)  
chinatsu@juen.ac.jp

研究・教育分野は児童学・保育学。特に、幼児期の子どもの発達を「生活文化」の伝承・獲得・共有の視点から捉えるとともに、「生活」概念の形成過程について関心を持っている。子どものまごど遊び場面の分析や具体的生活場面の観察等を中心に研究を進めている。



# 教科横断・総合学習／教科横断・探究的学習

## 教科横断・総合学習領域の目的

持続可能な社会の創り手の育成に向け、学習過程の創造と教科横断的な学習、国際理解教育・ICTの利活用を踏まえた生活科・総合的な学習（探究）の時間を軸にしたカリキュラム・マネジメントの理論と実践を学びます。内容知と方法知を融合して創造的に課題解決する教科横断的な学習と、SDGs・ESDや国際理解教育・ICTの利活用を踏まえた生活科・総合的な学習（探究）の時間を編成、実施、評価、再編成（改善）できる教員を養成します。



## 教科横断・探究的学習分野の目的

予測が困難な変化の激しい世界を生き抜き、持続可能な社会を構築していく人間を育成していくために、複数教科等において共通する内容（コンテンツ）、あるいは、あらゆる教科等に通底する資質・能力（コンピテンシー）の両面からの横断的・探究的な視点で教育課程を再編し、現代的な諸課題や状況に応じた指導法の研究開発、学習過程の創造を行っていくための高度な専門性を備えた教員を養成します。

## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

**キーワード①「子どもの学びの過程、活動的で協働的で反省的な学び、保育・造形、図画工作（造形遊び）、美術、芸術、総合学習の授業デザイン・学習活動支援」**

学びの過程のデザイン、記録と分析による学校課題達成や解決への支援、幼小中特別支援各々が推進する授業研究・校内研修推進の支援を行います。

**キーワード②「国語学習デザイン、学習の基盤となる言語運用能力、ズレを問う対話過程、言語活動・読書活動の創造・支援」**

探究的・対話的な学びを実現する国語の学習過程を協働でデザイン・実践します。判断の拠り所となる言語による認識・思考の更新過程と要因を分析し、必要な要件を考察・共創します。

**キーワード③「メンタルトレーニング、学習支援、体育授業支援、クラブ活動支援」**

スポーツのメンタルトレーニングを活用した心理的な学習支援、および、スポーツ科学の知見を活用した体育授業支援、クラブ活動支援を提案します。

**キーワード④「身体、身体的疲労、精神的疲労、セルフコントロール、特別支援」**

特別な支援を必要としている児童・生徒の疲労感軽減を主とした体調管理のために、日常の身体的・精神的活動量の調整に関して提案します。

## 開設授業科目例

### 状況論からの教育実践研究

状況論的な学習観に依拠し、種目にとらわれない、ボールゲームの構造に着目した理論について概説し、言語活動を重視し技能に偏向しないインクルーシブなボールゲームの授業を概説します。

### 主体的学びの臨床過程

道具や記号に媒介された活動的で協働的で相互作用のな子どもの学びの過程と成り立ちを、状況論及び社会文化的アプローチの理論と研究手法から概説します。また、観察、記録、記述、分析、考察する過程とそのあり方を、講義とグループでの参与観察演習による事例収集の記述分析と映像分析により探究します。

### 言語と対話的学びのデザイン

言語による認識・思考の深層構造と対話の重層性に着目した理論を前提に、実践事例を検討し、対話的学びのデザインに資する要件を見出します。見出した諸要件を関連づけた学習過程をグループでデザイン・発表し、省察を共有します。

### メンタルトレーニングを活用した学習支援

スポーツにおけるメンタルトレーニングの心理的技法が児童の心理的な要因を改善し、学習への取り組みを向上させるのではないかと仮説を基に作成された、学習支援プログラムの理論的背景を、演習を交えながら概説します。

### 教材としての身体運動科学

身体運動に関する科学的知見を概説し、生物としての身体、表現手段としての身体、環境と相互作用する身体、社会生活の中での身体など、身体やその運動の様々な側面から身体運動科学の教材としての可能性について議論します。

### 教科等の横断と実践開発

複数教科等に共通する内容と資質・能力の両側面に着眼しながら深い学びを実現するカリキュラムマネジメントや実践開発の在り方等について、横断的・探究的な視点を踏まえて概説します。

## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等

**【教授】古閑 晶子**  
(こが あきこ)  
koga@juen.ac.jp

元小学校教員。国語の学習過程デザインに資する実践的・臨床的な研究をしている。言語による認識・思考を更新しながら、意味や知を創造していく探究的・対話的な学習過程をデザイン・実践し、その内実を学習者の学びの過程に着目して分析・考察することで、学習改善に資する要件を見出している。

**【教授】土田 了輔**  
(つちだ りょうすけ)  
tsuchida@juen.ac.jp

教育学、体育科教育学が専門。学校体育において、言語活動や役割、貢献をキーワードに、「深い理解」を実現したり、学習内容や評価面からの体育的合理的配慮に興味を持っている。

**【教授】松本 健義**  
(まつもと たけよし)  
takeyosi@juen.ac.jp

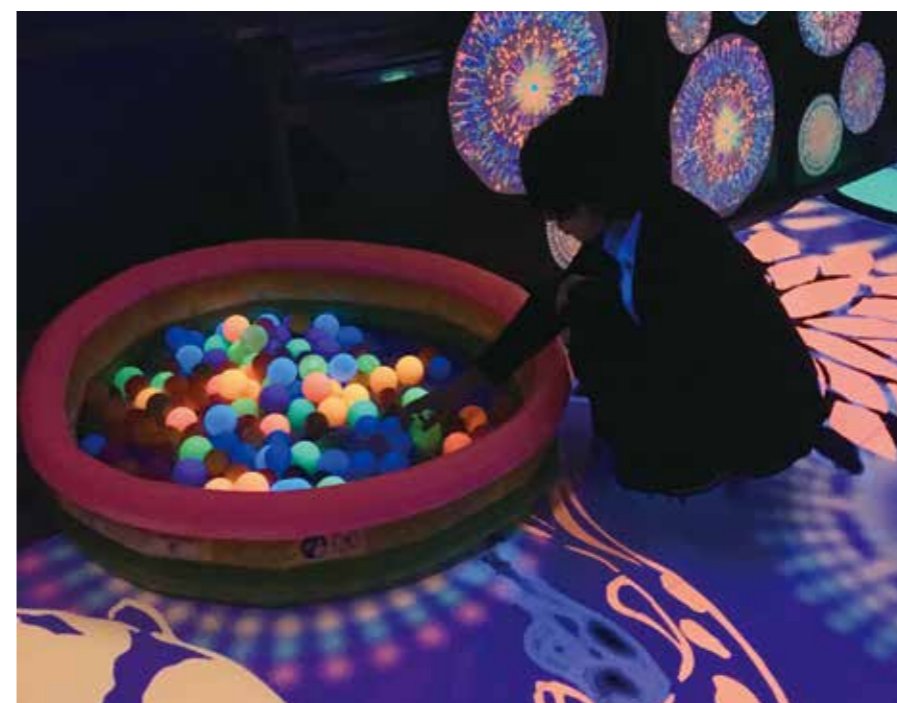
専門分野：学習臨床学、美術科教育学、幼児造形教育。著書：共著「表現芸術の世界」（南文書林）、共著「社会文化的アプローチの実際」（北大路書房）。もの・こと・人との相互作用による子どもの学びや遊びの生成過程について、表現行為の視点から研究を進めている。

**【准教授】竹野 欽昭**  
(たけの よしあき)  
takeno@juen.ac.jp

身体運動やスポーツ科学を活用した教科横断的な学習支援方法や教材の開発、また、教科横断的な課題として科学教育、環境教育に興味を持っている。

**【准教授】松浦 亮太**  
(まつうら りょうた)  
matsuura@juen.ac.jp

専門分野は運動生理学。筋力維持や二重課題といった身体の資源配分が必要とされる課題を用い、資源配分の意義および資源容量に影響を及ぼす要因について検討している。



# 教科横断・総合学習／グローバル・総合

## 教科横断・総合学習領域の目的

持続可能な社会の創り手の育成に向け、学習過程の創造と教科横断的な学習、国際理解教育・ICTの利活用を踏まえた生活科・総合的な学習（探究）の時間を軸としたカリキュラム・マネジメントの理論と実践を学びます。内容知と方法知を融合して創造的に課題解決する教科横断的な学習と、SDGs・ESDや国際理解教育・ICTの利活用を踏まえた生活科・総合的な学習（探究）の時間を編成、実施、評価、再編成（改善）できる教員を養成します。



## グローバル・総合分野の目的

グローバル化がもたらす学校や地域の課題解決と地域連携の在り方、Society5.0時代の人材育成に向けた学習指導法・教材の開発、総合学習を軸としたカリキュラム・マネジメントの理論と実践を学修します。これらの学修を通じて、SDGsやESD、国際理解教育、日本語教育の理論と実践、ICTの理論と実践を理解し、生活科や総合的な学習の時間等を軸としたカリキュラムをマネジメントできる教員を養成します。

## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

### キーワード①「国際理解教育 ESD・SDGs グローバル人材」

国際理解教育やグローバル人材育成、ESD・SDGsにかかわる教材開発や資料準備等の教育活動全般の支援を行います。

### キーワード②「多文化共生 異文化接触 年少者日本語教育」

多文化共生の視点で学級・学校経営、地域連携、外国人児童生徒等に対する理解・支援、制度設計の支援を行います。

### キーワード③「well-being 地域・家族の学習 ESD」

SDGs時代の新しい学習を柱にウェルビーイングの視点で暮らしを探究する授業づくりの支援を行います。

### キーワード④「生活科 総合学習 カリキュラム・マネジメント」

生活科・総合学習のカリキュラムや授業づくり、評価、校内研修など、学校の教育活動全般の支援を行います。

### キーワード⑤「STEAM教育 プログラミング ICT」

ICTを活用した授業にかかわる教材研究や教材開発、授業案の作成と実践、評価について支援を行います。

### キーワード⑥「総合学習 情報教育 ICT 遠隔教育」

総合学習における情報教育を主としながら、学校教育全般におけるICT活用、遠隔教育等の支援を行います。

## 開設授業科目例

### 国際理解教育の理論と実際

国際理解教育の理論と歴史、教育実践を探究します。特に、身近な事象とグローバルな事象との関係やクラス内の異い、ESD・SDGsについて学びます。

### 日本語教育演習

外国語としての日本語教育の基礎的能力を身に付けることを目指します。授業においては、多様なニーズを持った学習者の存在を認めることができますようにします。

### 言語的文化的に多様な子どもたちの教育

外国につながる文化的言語的に多様な子どもたちの言語習得や教育支援の基礎事項を学び、教師としての自らの教育的活動についてビジョンを持ちます。

### 地域・家族の暮らしの探究学習の理論と実際

個人、家族、地域のウェルビーイングの改善を目指す家政学などの理論と実践を基に、暮らしの場から持続可能な社会を探究するカリキュラム・デザインを学びます。

### 総合的な学習を中核とした教育課程論

総合的な学習を中核とした教育課程の特徴を理解し、教育課程における総合的な学習の意義やカリキュラム・マネジメントの方法について探究します。

### 生活科・総合的な学習の時間における体験活動

体験的に学ぶことの今日的意義や必要性について考えと共に、実際に地域を訪ねて学習材を探し、どのようなカリキュラムが創造できるか探究します。

### 学校教育と統計・評価

学校における事例から統計的手法を用いて批判的・発見的に知見を引き出す力を形成します。統計分析ソフトウェアを用いて統計分析の知識と技能を身につけます。

### 総合学習におけるICT活用

総合的な学習の時間で活用されているICTの実際、課題、情報活用能力、情報モラル等について探究するとともに、カリキュラム作成を体験的に取り組みます。

## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等

**【教授】**  
**釜田 聡**  
(かまだ さとし)  
kamada@juen.ac.jp

元中学校教員。国際理解教育、総合学習、社会科教育。国際理解教育は東アジアの相互理解やクラスの中の多様性の尊重について、教室を磁場にした国際協働型の研究を行う。総合学習は持続可能な社会の創り手の育成に向け、ESDやSDGsを射程に入れたカリキュラム開発を行う。共著『グローバル時代の国際理解教育』（明石書店）

**【教授】**  
**小高 さほみ**  
(こたか さほみ)  
sahomi@juen.ac.jp

元高校教員。家政学、家庭科教育、地域・家族の学習、教師教育。地球上のウェルビーイングとジェンダー平等の視点から、人の一生を見直し暮らしをつくるカリキュラム開発と授業研究のアクションリサーチを行う。共著『SDGsと家庭科カリキュラム・デザイン』（教育図書）、共訳『質的研究のための理論入門』（ナカニシヤ出版）

**【教授】**  
**清水 雅之**  
(しみず まさゆき)  
masayuki@juen.ac.jp

元小学校教員。情報教育、ICT活用、総合学習を専門とする。小学校教員の時代に情報教育、総合的に力を入れて実践を行ってきた。こうした背景から総合学習におけるICT活用や情報活用能力の育成に関する研究を行う。令和2年度より文部科学省「ICT活用教育アドバイザー」として現場や教育委員会への助言を行っている。

**【教授】**  
**中野 博幸**  
(なかの ひろゆき)  
hiroyuki@juen.ac.jp

元中学校教員、小学校教頭、市教委指導主事。数学教育、情報教育、統計教育。開発したソフトウェアを授業で活用し、その効果の検証を行う。統計分析ソフトウェアjs-STARは多くの大学や研究機関で使われ、データサイエンスの視点から教育実践や研究を行っている。共著『フリーソフトjs-STARでかんたん統計データ分析』（技術評論社）

**【教授】**  
**松井 千鶴子**  
(まつい ちづこ)  
matsui@juen.ac.jp

元小学校教員、教育委員会指導主事。総合的な学習、カリキュラム・マネジメント、教員の力量形成。総合的な学習の時間を探究的にするためのカリキュラム編成や教科等との関連、地域との連携、教員の力量形成について研究している。共著『総合的な学習の時間における教師の力量形成』（臨床教育学会）

**【准教授】**  
**田島 弘司**  
(たじま こうじ)  
tajima@juen.ac.jp

日本語教師歴37年。日本語教育、国際理解教育。1984年国際協力のNGOで日本語教師を始め、その後世界各国のビジネスパーソン、就学生、留学生等の外国人に日本語を教える。2014年5～9月、世界6大陸26か国の調査旅行で国際理解教育用教材の収集等を実施。共著『国際理解教育実践事例集』（教育出版）

**【准教授】**  
**原 瑞穂**  
(はら みずほ)  
mizuho@juen.ac.jp

専門は多文化共生に基づく日本語教育及び国際理解教育。私たちが多様な背景を持つ人々とともにどのような社会を創り、生きていくのかを考え、その際にこばを十全に用いて考えることを大事にしている。令和2年度より文部科学省「外国人児童生徒等教育アドバイザー」を務め、文化的言語的に多様な子供の教育保障に取り組む。

**【准教授】**  
**渡辺 径子**  
(わたなべ みちこ)  
michiko@juen.ac.jp

元小学校教員。生活科、総合学習、環境教育、理科教育。体験的、協働的な学びを重視した学習活動や地域活動についての研究を行う。生活科や総合学習では、地域の自然や歴史、人、もの、ことを学習材にしたカリキュラム開発を行う。共著『環境教育指導プラン 低学年 小学校で活かせる環境教育の指導実践例』（文溪堂）



# 特別支援教育

## 特別支援教育領域の目的

障害による特別な教育的ニーズのある子どもの教育、心理・生理、教育課程・指導法などに関する総合的、専門的な研究・教育を行います。また、特別支援学校教諭（5領域）一種・専修免許状の取得に対応したカリキュラムを設定して、特別支援教育の理論に基づいた高度な実践的指導力を備えた教員を養成します。



## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

**キーワード①**「特別支援教育、法制度、教育形態、学校運営・経営、教育課程、個別の指導計画、交流及び共同学習、キャリア教育」

特別支援教育の意義、法的位置づけ、教育形態（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導）、教育課程編成、個別の指導計画作成等に関する理解を深め、学校運営・経営、個に応じた教育課程の編成と指導、交流及び共同学習やキャリア教育の推進等について支援します。

**キーワード②**「障害のある子ども、心理・行動特性、アセスメント、指導法、配慮事項、教材・教具、評価、授業づくり」

視覚障害児、聴覚障害児、知的障害児、肢体不自由児、病弱児、

発達障害児、情緒障害児、言語障害児、重複障害児の心理・行動特性等の理解を深め、各障害種の子どもに対するアセスメントに基づく個別目標やさまざまな指導法を生かした学習活動、配慮事項の設定、教材・教具の活用、評価等 PDCA サイクルによる授業づくりについて支援します。

**キーワード③**「インクルーシブ教育、通常の学級、授業、合理的配慮、ユニバーサルデザイン、学級経営」

インクルーシブ教育の理解を深め、通常の学級の授業における支援が必要な子への合理的配慮やユニバーサルデザイン、学級経営、通級による指導との連携等について支援します。



## 開設授業科目例

### 特別支援教育原論

我が国における明治期から現在までの障害児教育の変遷過程を、関係法令をもとに講述し、特殊教育から特別支援教育への転換の背景、意義、課題について考察します。欧米諸国の障害児教育についても分析を加えます。

### 視覚障害教育課程・指導法

視覚障害の心理・生理・病理の理解を基盤とし、インクルーシブ時代における視覚障害児（者）のニーズに対応した教育・支援を進めるための基本的理念及び知識、視覚・重複障害児（者）への教育・支援について学修します。

### 聴覚障害心理・生理学論

聴覚器官の構造と機能、聴覚障害の原因となる疾患と特徴、聴力評価、補聴器・人工内耳などについて学修します。

### 知的障害心理・生理学論

知的障害のある児童生徒の理解と支援について、基本的な知識を講義します。知的障害の定義・分類・アセスメント、知的障害の発生に関わる生理・病理、脳の構造と機能等、心理学的特性に応じた教育的支援について理解します。

### 肢体不自由教育課程・指導法

肢体不自由児童生徒の特性を踏まえた教育課程の編成、自立活動を中心とした障害に基づく困難への対応、教科指導、学校卒業後の生活を見すえた移行支援（福祉等外部専門機関連携）等について学修します。

### 病弱心理・生理学論

病弱・身体虚弱の概念、現代の健康観について概説し、病弱教育の対象疾患の主徴、治療管理、心理特性に視点を置いて学修します。

### 発達障害・情緒障害教育総論

通常の学級、特別支援学級（自閉症・情緒障害学級）等に在籍する発達障害（限局性学習症、注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症）及び情緒障害（選択性／場面緘黙を含む）のある子どもの教育について学修します。

### 特別支援教育研究法論

特別支援教育に関する研究の倫理に関する理解、研究の全般的な進め方やケースレポートについて講義と演習を併用して行います。文献的、調査的、臨床的、実験的研究やケースレポートのまとめ方の理解を深めます。



## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等



【教授】  
**大庭 重治**  
(おおば しげじ)  
sohba@juen.ac.jp

視覚障害児の心理学及び指導法に関する臨床的研究を行う。また、学習障害児の学習支援方法に関する臨床的、実践的研究も行う。論文:点字とディスプレイ(特別支援教育実践研究センター紀要、第17巻、2011年)、小集団を活用した特別な教育的ニーズのある子どもの学習支援(同、第18巻、2012年)



【教授】  
**笠原 芳隆**  
(かさばら よしたか)  
kasahara@juen.ac.jp

肢体不自由児の特性に応じた教育課程・指導法や生活を見据えた支援のあり方等について、自立活動の実践、個別の指導計画作成・活用、個別の教育支援計画作成・活用等の視点から研究・教育を行う。論文:自立活動を中心とした個別の指導計画に関する研究動向(特殊教育学研究、第53巻第4号、2015年)



【教授】  
**河合 康**  
(かわい やすし)  
kawai@juen.ac.jp

障害児教育の行政、制度、歴史を研究領域とし、わが国と欧米諸国について比較教育的観点から教育・研究を行う。主な著書:日本障害児教育史(戦前編)2018年(共著)、(戦後編)2019年(共著)(明石書店)、特別支援教育一人一人の教育的ニーズに応じて(編著)(福村出版、2019年)



【教授】  
**藤井 和子**  
(ふじい かずこ)  
fkazuko@juen.ac.jp

言語・コミュニケーション障害のある幼児・児童・生徒の指導について、自立活動の視点から研究を行う。特に、「個別的教育支援計画」「自立活動の個別の指導計画」「各教科等の授業と自立活動の指導との関連」「協働」をキーワードに研究を進める。論文:言語障害通級担当教師の職務認識に関する調査研究(特殊教育学研究、55巻4号、2017年)



【教授】  
**村中 智彦**  
(むらなか ともひこ)  
muranaka@juen.ac.jp

知的障害児や自閉症スペクトラム障害児の教育、特に応用行動分析に基づく個別指導や小集団指導における指導法に関わる実験研究、授業づくりに関わる臨床研究を行う。著書:『困ったからわかる、できるかわる授業づくり』(明治図書、2015年)、『知的障害児の指導における課題遂行の促進』(溪水社、2015年)



【准教授】  
**池田 吉史**  
(いけだ よしふみ)  
yosifumi@juen.ac.jp

知的障害・発達障害児を対象に、認知発達のアセスメントと支援に関する研究を行う。特に、思考や行動をコントロールする能力(実行機能)について実験的研究を進める。論文:発達障害及び知的障害と実行機能(SNEジャーナル、第19巻、2013年)



【准教授】  
**小林 優子**  
(こばやし ゆうこ)  
yuuko@juen.ac.jp

聴覚障害者を対象とした環境音認知に関する実験的研究や講義場面における情報支援に関する研究、また認知・行動面に困難を有する聴覚障害児の指導法に関する研究を行っている。著書:聴覚情報処理検査[APT]マニュアル(学苑社、2020年)



【准教授】  
**佐藤 将朗**  
(さとう まさあき)  
smaasaki@juen.ac.jp

視覚障害児の読みに関する心理学的研究を中心に、視覚・知的重複障害児の触読技能と触覚的コミュニケーションの研究を行う。また健常児への障害理解教育についても構想している。論文:点字触読研究の展望—点字の読みやすさに関する研究知見の指導実践への応用—(特殊教育学研究、第55巻1号、2017年)



【准教授】  
**関原 真紀**  
(せきはら まき)  
maki@juen.ac.jp

元小学校教員・指導主事・特別支援学校教頭。通常の学級における発達障害等の児童生徒への指導や支援、学級づくりや授業づくり、校内体制、関係機関との連携等の実践研究。著書:はじめての学級担任もできる特別支援教育ガイド(明治図書、2021年)



【准教授】  
**八島 猛**  
(やしま たけし)  
yashima@juen.ac.jp

病弱・身体虚弱児における適応の評価と支援に関する研究を行う。特に健康行動と関連がある自己認知について実践的に研究する。論文:青年初期の病弱児における自己評価の発達特性に関する横断的研究(特殊教育学研究、第56巻5号、2019年)



【助教】  
**坂口 嘉菜**  
(さかくち かな)  
kana@juen.ac.jp

聴覚障害児教育・指導法を担当し、聴覚障害児の言語発達・読みの力に関する研究・教材開発を進めるほか、思考力に着目した授業分析を通して実践的研究・教育を行う。論文:教科の視点を忘れない聾教育—文学的文章の「読み」の実践を通して—(聴覚障害、第763巻、2015年)

## ● 特別支援教育実践研究センター

実践的・臨床的教育を通して、実践に役立つ高度な指導力をもつ特別支援教育の教員を養成するための施設として、特別支援教育実践研究センターが設置されています。このセンターでは、特別な教育的ニーズのある子どもの個別指導や小集団指導を通して臨床経験を積み重ね、より質の高い評価・指導方法の習得を目指し、研究・指導を行っています。



# 幼年教育

## 幼年教育領域の目的

就学後を視野に収めた幼児教育・保育の理論と実践、乳幼児期や就学前後の時期にある子どもの発達と学び、保育内容、児童福祉に関する総合的・専門的知識に基づいて、幼年期における発達支援をめぐる諸課題を的確に把握し、それに応じていくための高度な専門性を備えた教員・保育者を養成します。



## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

### キーワード①「保育、個別援助、遊びや活動の記録、遊具・保育用品等の製作、環境構成」

乳幼児の個別援助、追跡記録の担任との共有、保育室・遊戯室・園庭等の環境構成への協力、遊びや活動で使用する遊具・保育用品等の製作支援等を通して保育実践全般の支援を行います。

### キーワード②「行事、給食、一時預かり、保育補助」

遠足、運動会等の行事や給食時の補助、保育の合間や朝に実施する読み聞かせ等の保育補助、一時預かり等の利用者が特定されにくい保育の補助等、通常の1日の保育の流れを補完・確保するための支援を行います。

### キーワード③「自然保育、野外保育プログラム、リスクマネジメント、指導補助」

野外の自然を活用した保育・行事の実施場所・条件をめぐる情報共有、プログラムの作成、環境整備等の準備、指導補助、リスクマネジメントに関する支援を行います。

### キーワード④「第1学年児童、個別支援、学校生活への適応、生活指導、学習指導」

新たな環境への適応が必要な第1学年児童について、個別支援や授業における教材作成、指導補助など、就学後における生活指導・学習指導全般にわたる支援を行います。



## 開設授業科目例

### 幼年発達心理学

幼年期（幼児期・児童前期）の発達を中心とした発達心理学の知見について理解し、現代社会における保育・教育活動における課題に対して、発達心理学の知見をもとに思考を深めます。

### 子どもの発達研究法

子どもを対象とした研究を実施するうえでの基本的な知識と技能の理解を進め、研究活動や研究の成果を保育・教育の実践に活かすことのできる実践力を身につけることを目指します。

### 幼年教育・保育論

幼年期における公的な教育・保育の制度や組織、実践がどのように展開し現在に至っているかについて具体的に理解するとともに、共同検討を通して現代の幼年教育・保育を担う教員・保育者が取り組むべき実践的な諸課題を見出し、共有します。

### 幼年教育・保育研究

現在、直面している幼年期における教育・保育・子育ての諸問題と教員・保育者の役割について、社会変化の視点から総合的に理解するとともに、共同検討を通して履修者各自がそれぞれの立場から取り組むべき実践的な研究課題を見出します。

### 子どもの生活環境論

子どもが身近な自然や動物とのふれあいを通して、いのちや環境に対する関わり方を学ぶプロセスについて文献や事例を通して考察します。また、子どもが事柄の仕組みに興味を持ち、数量や記号に対する感覚を身につける過程を探究します。

### 子どもの遊び研究

「遊び」に関する理論や分類について検討することを通して、子どもにとっての遊びの教育的意義を理解します。また、屋外での自然を活用した遊びを実際に経験することを通して、保育現場における遊びの援助や安全管理の実際を理解します。

### 幼年期の子どもの教育と福祉

児童福祉に関する制度や歴史の変遷といった基礎的知識を概観することに加え、文献や事例をもとにグループ・ディスカッションを行います。各々の受講者が持つ教育に関する興味関心を福祉の視点からも多角的に深めていくことを目的とします。

### 教育福祉研究

児童虐待といった子どもに関する様々な問題について教育社会学、社会福祉学の観点から考察します。教育と福祉の両者のアプローチから子どもを包括的にケアすることができるような観点を獲得することを目標とします。



## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等



【教授】  
杉浦 英樹  
(すぎうら ひでき)  
sugiura@juen.ac.jp

幼年教育学を担当。幼年期に求められる総合的な指導をめぐる問題意識からわが国の幼年教育史を研究する。特に幼年期カリキュラムについてプロジェクト学習による幼小の連絡・連携の可能性に向けた問題史的な検討を行っている。



【准教授】  
白神 敬介  
(しらが けいすけ)  
shiraga@juen.ac.jp

発達心理学を担当。乳幼児期の発達ならびに保育者への支援について、生態学的アプローチの観点から研究している。さらに絵本や育児メディアを媒介とした養育者、保育者、子どものコミュニケーションの様態について検討している。



【准教授】  
山口 美和  
(やまぐち みわ)  
miwa@juen.ac.jp

保育内容論を担当。幼児期の遊びを通じた主体的な学びや、身近な自然との関わりを通じた直接体験の教育的意義について探究する。周囲の自然や、保育者・友だちといった物的・人的環境との相互作用を通して育まれる幼児期のシティンシップの芽生えについて、教育哲学的視点から検討している。



【助教】  
高田 俊輔  
(たかだ しゅんすけ)  
shunsuke@juen.ac.jp

児童福祉論を担当。保護者のない子どもや、特別な養育・保護の必要な子どもを公的に支援する社会的養護について、社会福祉学および教育社会学の観点から研究している。特に、児童養護施設や児童自立支援施設で生活をする子どもの教育保障の在り方についてフィールドワークを通して検討している。



# 学校ヘルスケア

## 学校ヘルスケア領域の目的

教育学及び健康・安全・食に関連する諸科学の専門性を基盤として、子どもの生存や発育発達、well-being にかかわる様々な現代的な事象を深く追究し、健康・安全・食にかかわる教育臨床的な実践を通して、現代的な諸課題の改善・解決の一翼を担うことのできる、高度な専門性を備えた教員を養成します。



## 学校実習（学校支援プロジェクト）の取組テーマ例

### キーワード①「地域連携、集団保健指導」

外部講師（助産師、歯科衛生士等）と連携した性教育や歯肉炎予防教室、保護者（PTA）と連携した学校保健委員会に参加し、地域連携の促進要因を探ります。また、性教育の事前指導（集団保健指導）を実施します。

### キーワード②「保健室、問診、見立て、プロセスレコード」

保健室に来室する生徒への問診に携わります。情報の構造化・可視化に有用な記録やシート類の活用を探ります。また、プロセス

レコードを通して、生徒とのコミュニケーションプロセスを分析し、対話的な健康相談・個別保健指導の方向性を探ります。

### キーワード③「児童保健委員会、歯肉炎予防週間」

児童保健委員が中心となって、クラスごとに取り組む歯肉炎予防週間に参加します。保健委員児童と一緒に、ブラッシング法・歯肉の観察法について説明するための紙芝居やチェックリストを作成します。また、保健委員児童がクラスでブラッシング法を実演できるよう、指導します。

## 開設授業科目例

### 保健室の機能と経営

学校保健活動を推進する拠点であり、保健情報センターとしての機能発揮が期待されている保健室を経営論的視点から学修します。理論と根拠に裏打ちされた「保健室経営」の実践力を身につけます。

### 現代的な健康課題の把握と養護実践の組織化

教育保健学を理論的な支柱とし、児童・生徒をとりまく現代的な健康課題の見方、考え方について理解を深めます。さらに、教育・支援課題へと精緻化し、実態に見合った特色ある教育・支援プログラムを開発し評価する実践の組織化プロセスを学修します。

### 健康相談活動の方法と技術

養護教諭の独自性を踏まえた観察・問診のあり方や、仮説検証過程としての「見立て」のプロセス、個別の保健指導及び健康相談の進め方を構造的に学修し、包括的な健康相談活動の実践力を身につけます。

### 疾病予防教育の理論と実践

感染症、熱中症、生活習慣病といった疾病の基礎的理解と、その予防法について学びます。また、これらの理論学習と学校現場に蓄積されたデータおよびオープンデータの分析を通して、疾病予防教育（がん教育を含む）について論考します。

### 食教育の理論と実践

教育や保育の現場における「食教育（食育）」の必要性や有効性に関する最新の情報を収集・分析し、今後の「食育」の展開のあり方や教育現場における具体的な食教育（食育）事例について議論・企画・提案できる知識や技術を修得します。

### 子どもの栄養管理

学校全体における食育の目標・年間計画の作成や、児童・生徒の実態把握から食に関する課題を解析し、食に関する指導の実践を身につけます。また、食に関する指導前後の評価のあり方について議論・企画・提案できる知識や技術を演習形式で修得します。

## 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等



【教授】  
**野口 孝則**  
(のぐち たかのり)  
noguchi@juen.ac.jp

栄養学を専門とし、人間の体や心の成長・発達段階に応じた最適な食教育（栄養・食事・食情報・食環境）に関する教育・研究・実践活動を行っている。得られた知見をもとに、教育・保育・医療・介護・福祉・行政における栄養専門職への教育や研修を行っている。



【准教授】  
**池川 茂樹**  
(いけがわ しげき)  
ikegawa@juen.ac.jp

保健領域を担当。「運動が健康の維持・改善の要である」という理念に基づき、運動処方を中心とした体力・健康科学の研究をすすめている。また、企業や学校現場と連携し、運動の健康増進効果を促す栄養処方の研究にも取り組んでいる。これらの研究活動を通して、科学的根拠に基づいた健康教育の醸成を目指している。



【准教授】  
**留目 宏美**  
(とどめ ひろみ)  
todome@juen.ac.jp

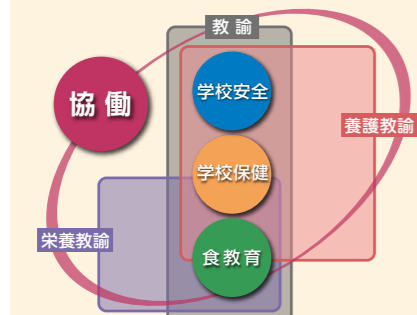
養護領域を担当。養護教諭の独自性を生かした健康教育や個別保健指導、健康相談に係る研究に取り組んでいる。また、養護教諭を取り巻く諸環境に着目した学校組織研究や、養護教諭の養成教育および学習、学校保健行政や学校保健マネジメントに関する研究なども行っている。



### ●「学校ヘルスケア」とは

学校では、複雑で多様化する児童生徒の心身の健康問題への適切な対応と解決、そして、生涯にわたる健康で豊かな活力ある生活につながる保健・安全・食の教育の実践が強く求められています。そのためにも、養護教諭・栄養教諭を中心として、学校全体での協働的な健康教育の推進のための高度な実践的指導力が不可欠であり、こうした学校及び地域社会を含めた健康の保持・増進の取り組みを「学校ヘルスケア」と定義しました。

本領域では、児童生徒の健康をめぐる現代的課題に関して、医科学、養護学、栄養学、体力科学などの専門的な学問基盤に立脚しつつ、学校ヘルスケアに関する教育の理論と実践を研究する能力を修得し、教育実践の推進者として指導的な役割を果たせる人材を養成することを目的としています。



# 心理臨床

## 心理臨床領域の目的

臨床心理学の知識と研究方法を習得するとともに、人の心の問題に幅広く対応できるカリキュラムを通して、臨床心理学に関する研究課題に対して理論と実践をともなって取り組むことができる力を養成します。また、心理臨床に関する実習プログラムによって、教育をはじめ、福祉、保健医療、司法・矯正、産業・労働などの分野で活躍できる心理臨床専門職としての、公認心理師及び臨床心理士を養成します。



### ● コースの特徴

#### 多様な分野における充実した研修と学校現場での実践力を高める教育

- 教育、保健医療、福祉分野などのさまざまな機関や施設での学外実習はもちろん、附属の心理教育相談センターにおいて、幅広い年代のさまざまな悩みを抱えるクライアントを担当することにより、公認心理師や臨床心理士が活動する多様な分野で専門家として活躍できる人材の育成を目指しています。
- 現職の小・中・高校の教員と一緒に学ぶことにより、教育現場における実践的な課題を理解し解決できるようになります。また附属学校園との連携により、学校現場に強い専門家の育成を目指しています。
- 心理教育相談センターを併設し、直接担当するケースについて、セミナー担当教員がスーパーバイザーとなってより丁寧にきめ

細やかな指導を行っています。セミナー担当教員による密度の高い指導の他、コース教員全員によるケース・カンファレンスも定期的に行い、幅広い視点からの指導を行っています。これらを通し、心理臨床家としての基礎から多様な見立てや支援法の習得を高めています。

- 臨床心理学と各種臨床心理面接についての専門科目を開講しています。
- 臨床心理学に関する研究方法の基礎から学び、次第に臨床的な応用研究の方法を習得できる教育課程を編成しています。
- 本コースの開講科目を履修することにより、専修免許状の取得が可能です（令和3年度より）。

### ● 最近の学位論文題目（修士）

- 児童養護施設入所児童における調理作業の心理的効果の検討
- 小学生の援助要請意図に影響を与える利益とコストの予期の検討
- 自閉スペクトラム症のある不登校生徒をもつ保護者に対するテレコンサルテーションの効果
- 頭痛を有する者に対する注意トレーニングの効果
- 中小規模事業場従業員における仕事の資源とコーピング方略が抑うつに及ぼす影響
- 青年期のセルフ・コントロールと親の養育態度の関係
- 挫折経験者の立ち直りが意味することの仮説生成
- 視点取得を促す教示が大学生の言語的攻撃に与える影響の検討—怒りへの対処方略の選択に着目して—
- 対人劣等事態において反芻と省察が認知的感情制御方略に及ぼす影響
- 中学生の問題のあるゲーム使用に対する多理論統合モデルの適用可能性の検討
- インターネットゲーム障害に対する行動分析による介入の一事例研究
- 対人恐怖心性とふれ合い恐怖心性の差異からみる現代青年の孤独感とひとりである能力

- 男性役割期待とそれに基づく行動および精神的健康との関連
- 小学校4・5・6年生が描く動的学校画の描画特徴と抑うつ感との関連
- 児童の対人行動と抑うつ症状に対するゲームリハーサルを取り入れた集団社会的スキル訓練の効果
- 通常の学級における相互依存型集団随伴性の集団単位による効果の検討
- システムズ・アプローチの視点を備えた教員による子どもの支援—教員を中核に捉えた支援の重要性に着目して—
- アサーションに関する権利と行動および文化的自己観の検討
- 小学生の対人関与の苦痛に対する社会的スキル訓練と対人関係ゲームの効果と作用機序の比較
- 援助要請スタイルと見捨てられ不安が及ぼす大学生活及び友人関係への影響

※過去の学位論文リストについては、本学ホームページ（附属図書館→探す・調べる→修士・博士論文題目一覧）でご覧いただけます。

### ● 2022年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等

**【教授】**  
**五十嵐 透子**  
(いがらし とうこ)  
igarashi@juen.ac.jp

“不安”に伴うこだわりやとらわれの強迫性とこれに伴う様々な状態の理解と臨床心理学的対応に加え、バイオ・サイコ・ソーシャル・モデルに基づく健康心理学、人の強さや回復力に焦点をあてたポジティブ心理学の視点、そして対人関係の力動に焦点をあてたシステム論から多角的かつ多面的な自他の理解を深める研究を進めている。

**【教授】**  
**宮下 敏恵**  
(みやした としえ)  
miyasa@juen.ac.jp

小・中・高校における教師のバーンアウトの対策や予防について研究を進め、教師のメンタルヘルス改善に関する研究を行っている。またクライアントの「～ない」という否定文の影響や、さらには臨床心理面接におけるクライアントの発言について語彙分析を用いて分析を行い、面接プロセスを実証的に検討している。

**【特任教授】**  
**加藤 哲文**  
(かとう てつぶん)  
tetubumi@juen.ac.jp

行動科学による心理面や行動面の援助・支援方法の開発や心理臨床実践を行っている。研究や実践の対象は、発達障害や行動・情緒障害のある児童生徒や成人の当事者及び家族、学校や福祉機関の関係者を対象としている。また、対象者への直接的アプローチを始め、親訓練、学校コンサルテーションの開発研究を行っている。

**【准教授】**  
**近藤 孝司**  
(こんどう たかし)  
kondo@juen.ac.jp

心理アセスメントの諸技法に関する実践的な研究、特に投射法の描画法を中心に、解釈や臨床への有効活用の研究を進めている。また臨床心理職や訓練課程における職業的発達や専門職アイデンティティ、メンタルヘルスに関する基礎的研究を通して、専門職の教育・訓練に関する知見や方法論の研究を進めている。

**【准教授】**  
**田中 圭介**  
(たなか けいすけ)  
keisuke@juen.ac.jp

心配をなぜやめられないのか、心配と上手く付き合っていくためにどうすればいいのかということに関心を持ち、研究を行っている。認知行動療法ならびに臨床心理学、感情心理学、認知心理学の観点から、心配の維持過程を多角的に理解するとともに、その予防と緩和に向けた支援方法を洗練することを目指して研究を進めている。

**【講師】**  
**飯塚 有紀**  
(いづか ゆき)  
yuki@juen.ac.jp

「親になるとはどういうことか」「家族になるとはどういうことか」について発達臨床心理学的な観点から主に質的研究法を用いて基礎的な研究を行っている。また、家族になる過程における危機介入としての心理的援助についても研究対象としている。これらの研究をとおして、保育・幼児教育分野への提言を行うことを目指している。

**【助教】**  
**大宮 宗一郎**  
(おおみや そういちろう)  
omiya@juen.ac.jp

薬物依存や自傷行為などのアディクション領域、および児童生徒、教員支援を中心とする学校メンタルヘルスの領域を専門とし、家族療法や認知行動療法を用いた臨床心理学的援助および研究を行っている。また、ストレスフルな現代を生き生きと生きるための Mindful Self-Compassion のワークショップを行っている。



### ● 取得可能な資格

#### 公認心理師

必要単位の取得により、国家資格である公認心理師の受験資格を得ることができます。本コースに入学する前に、出身学部において公認心理師に必要な科目の単位を取得している必要があります。

#### 臨床心理士

必要単位の取得により、財団法人日本臨床心理士資格認定協会による臨床心理士資格認定試験の受験資格を得ることができます。大学院指定制度における第一種指定校です。



## ● コースの取り組み

### 附属の相談センターにおける臨床実習

附属の心理教育相談センターを中心に豊富な実習を受けることができます。附属の相談センターには5つの個別面接室、3つのプレイルームをはじめ、充実した設備が整っています。箱庭療法を行うことが可能な面接室や相談者に応じた広さが異なるプレイルームなどがあります。大学キャンパスから独立した建物となっており、相談者に配慮した施設です。

上越市を中心に近隣の妙高市、糸魚川市から相談者が訪れており、年間の面接実施件数は約1,000件となっています。相談者は保育園・幼稚園から小・中・高校生を中心に青年期、成人期まで幅広い年代の方がいらっしゃいます。学校や職場での不応、対人関係の問題などさまざまな悩みを主訴として来談されています。この附属の相談センターにおいて、相談研修生となり、心理臨床に関わる相談を直接行います。担当している相談について毎週スーパーバイザーからきめ細やかに指導を受けたり、先輩や同級生の相談についても検討を行ったり、豊富なケースの指導を受けることができます。

### インテーク報告会

新規に相談センターに来談したケースについて、月に1回、インテーク報告会が開催され、ケースの見立てや方針の立て方を学びます。

### ケース・カンファレンス

定期的に行われるケース・カンファレンスにおいては、見立てや援助方法について指導教員以外の教員から助言を受けることができます。



## ● 多様な分野における学外の臨床実習

### 大学院1年次における実習

大学院1年次には、精神科病院、児童相談所、教育センターなどさまざまな分野の機関・施設への見学実習を行い、心理職が他の職種とともにどのように働いているのかを学びます。また、年間を通して、附属の幼稚園、小学校、中学校での実習を行い、園児、児童、生徒の活動に参加し、学校現場における実践的問題の理解を深め、支援を行います。

### 大学院2年次における実習

大学院2年次における実習は様々な分野における機関・施設で一定期間集中的に実習を行ったり、定期的に通い実習を行ったりと、大学院1年次で学んだことをより深め、実践的な力をつけるための実習を行います。

### 保健医療分野における実習

保健医療分野では、県内外の複数の医療機関で、精神疾患や他の健康障害に関する予防、治療、リハビリテーション、社会参加及びフォローアップまでの継続かつ一貫した医療・保健サービスのなかで公認心理師や臨床心理士の業務や役割を学びます。多様化する対象に対し、個人、親子関係や家族関係、職場での関係など様々なシステムに対する多職種連携によるチーム医療や地域精神保健活動の実際にメンバーの1人として参加します。入院型と通院型の治療及び支援の違いを理解するとともに、他職種の業務を理解し、心理職としての専門性と対人援助職としての共通性及び協働のあり方の実際を体験的に学習します。  
(主な実習先) 精神科病院児童・思春期病棟 精神科病院精神科病棟 精神科病院医療観察病棟 など

### 教育分野における実習

教育相談機関においては、適応教室での通級生とのかわりやソーシャルスキルトレーニング、電話相談、訪問相談、学校コンサルテーションへの陪席を通して、教育相談機関における公認心理師、臨床心理士の役割を学びます。加えて、学校や関連機関との連携を基盤としたサポート体制の整備を含めた包括的かつ個別の本人及び家族への支援について学びます。

(主な実習先) 教育センター 公立小・中学校及び高等学校 など

その他、福祉、司法・犯罪、労働・産業などの施設においても実習を行い、それぞれの機関における公認心理師、臨床心理士の役割を学びます。学外における臨床実習は、毎日の記録や実習プログラムごとのレポート、ケース理解のためのレポートなどの実習記録を用いて、学内及び実習先の双方で週1～2回の指導やカンファレンスを受け充実した教育体制で行っています。

## ● 修了生の進路先の一例

### 多くの修了生が資格を取得し、様々な領域で活躍しています。

- スクールカウンセラー  
(新潟、石川、富山、長野、群馬、宮城、岩手県など)
- 市町村教育センター
- 自治体等の発達センターや保健センター
- 都道府県の教員
- 都道府県の心理職・福祉職
- 市町村の心理職
- 都道府県警被害者支援の心理職
- 県立精神科病院
- 私立精神科病院
- 療育施設
- 大学院博士課程への進学 など



### 石川 美咲さん

平成29年度修了生  
社会福祉法人下伊那社会福祉会  
下伊那子ども家庭支援センターこっこ  
心理療法担当職員

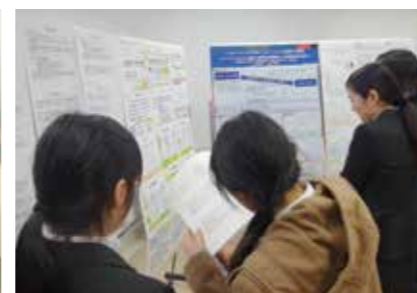
Voice!

修士課程では、講義や演習を通して心理臨床の様々な知識や技能を学びました。同期と一緒にたくさん悩み考え、充実した2年間でした。研究では、計画から実施、分析まで丁寧に指導いただきました。学外の実習先の選択先が多いのも魅力です。現在、私は児童家庭支援センターで心理職として相談業務を担っています。発達、愛着、虐待など様々なケースで子どもや親の面接を行ったり、関係機関へのコンサルテーションを行ったりと、多岐にわたる業務は大変ですが、とてもやりがいがあります。修士課程での学びには現場に必要な要素がたくさん詰まっていたと現場に出て改めて実感しています。



## ● 心理教育相談センター

本相談センターは、公認心理師養成及び日本臨床心理士資格認定協会による大学院一種指定校臨床実習のための施設として、学生の心理療法やカウンセリングの研修の場となっています。また、臨床心理学の研究活動の拠点となっており、いじめ、不登校、発達障害、非行、虐待、自殺、犯罪被害や震災被害など、児童生徒の様々な問題の解決を図る学校臨床をはじめ、保健医療、福祉、産業分野等におけるよりよい臨床サービスの提供、教育や福祉機関等への心理教育的サービスの提供など、コミュニティーとの充実した連携を構築しています。



## ● 学生宿舎

学生に勉学と生活に適した環境を提供し、自律的な共同生活を通じて自主性・協調性のある人間形成を図るため、山屋敷地区のキャンパス内の緑に囲まれた一画に学生宿舎を設置しています。

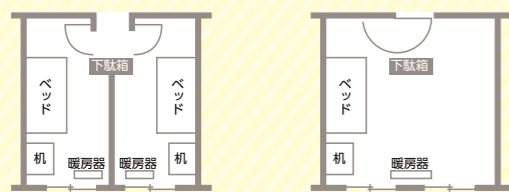
学生宿舎には次の3種類があります。

※寄宿料及び共益費の月額、今後改定される場合があります。

※入居の許可期間は、原則として、入居を許可された日から最短の修業年限終了の日までです。

名称	収容人員等	寄宿料(月額)	諸経費(月額)
単身用学生宿舎 (5階建12棟)	630人 (男子300人 女子330人)	I型 4,300円	○共益費 2,000円 ○私生活のために使用する光熱水料 夏期 約6,000円 冬期 約13,000円 ○窓用クーラー貸出料(希望者のみ) 1,000円
		II型(女子棟のみ) 7,700円	
世帯用学生宿舎 (5階建2棟)	80戸	III型 9,500円	○共益費 1,500円 ○電気、ガス、水道は、入居者が 直接電力会社等と契約
		IV型 11,900円	
国際学生宿舎 (5階建1棟)	38戸	単身用(外国人) 5,900円	
		夫婦用(外国人、日本人) 9,500円	
		家族用(日本人) 14,200円	

### 単身用学生宿舎(男子棟・女子棟)



I型(個室/約6畳)

II型(個室/約12畳)※女子棟のみ

各居室には、机、椅子、ベッド等が備えてあります。各階に、共同で利用する補食室(簡単な調理が可能)、洗面・洗濯室及びトイレがあり、浴室は男女各2室あります。暖房は各居室に設置されていますが冷房はないため、希望者は、窓用クーラーを大学から借りることができます。また、各自で窓用クーラーを購入し、設置することもできます。安全管理のため、学生証を各玄関のカードリーダーにかざして入館します。

### 世帯用学生宿舎

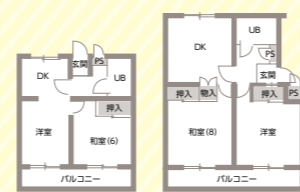


III型(2DK)

IV型(3K)

家族と同居する方のための宿舎です。現職教員の方は単身者でも入居が可能です。

### 国際学生宿舎

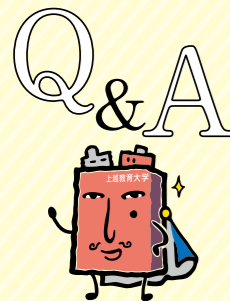


夫婦用(2DK)

家族用(2DK)

外国人留学生、外国人研究者及び家族と同居する方のための宿舎です。現職教員の方は単身者でも入居が可能です。

## 学生宿舎のこと もって教えて!



**Q** 子どもがいるのですが、近くに幼稚園や学校、病院はありますか?

**A** 世帯用学生宿舎の近くに本学の附属幼稚園があります。緑豊かな自然に囲まれ、幼児の主体的な遊びを大切にしている教育を推進しています。本学大学院生のお子さんも入園されています。預かり保育も実施しています。(詳細は附属幼稚園にお問い合わせください。)また、大学から約5km離れた場所に本学の附属小学校と中学校があり、2~4kmの範囲に公私立の幼稚園・保育園、公立の小・中学校、1~4kmの範囲に総合病院や各種専門病院、休日診療所があります。

**Q** 学生宿舎には希望者は全員入居できますか?途中で退去したり入居したりできますか?

**A** 募集枠がありますので、希望者が募集枠を超えた場合、入居できないことがあります。また、年度途中での退去は可能ですし、空室が生じた場合には、随時、入居募集しています。入居許可者は、各家庭の経済状況に基づき選考します。

## ● 大学会館

大学会館には、第一食堂(320席)、第二食堂(28席)、喫茶室(38席)、売店(書籍、文具、生活雑貨、食料品、クリーニング、コピー機等)、理容室、美容室、ATM(ゆうちょ銀行、第四北越銀行)、郵便ポスト等があり、冬に雪が降っても遠くへ行かず便利に過ごすことができます。

大学会館での買い物、食事などは、学生証を使いキャッシュレスで支払うことができます。

売店



喫茶室



第一食堂



第一食堂では、学生に朝食を食べてもらう取り組みとして、100円朝食(ご飯・味噌汁・納豆 or 卵)、200円朝食(ご飯・味噌汁・メインのおかず・ワンドリンク)を用意しています。

## 1 附属図書館

令和2年4月、特に2階をアクティブラーニングフロアとし、学修をサポートする空間を拡充し、リニューアルオープンしました。多彩な蔵書(約37万冊)を所蔵し、電子ジャーナルやデータベースなど、インターネットを利用した多様なサービスを展開しています。



## 2 プレイメントプラザ(Pプラ)

全国の教員採用試験に関する資料を収集しています。キャリアコーディネーター(公立学校の校長職経験者)が教員採用試験や公務員試験の対策について、個々の学生に寄り添った指導を行います。

▶ 詳しくは p.19へ



## 3 学校実習・ボランティア支援室

教育実習・学校実習に関する個々の学生の相談に、丁寧に対応するとともに実習校との調整を行います。また、上越市近郊の学校や教育施設等のボランティアをコーディネートし、活動を支援しています。



## 4 国際交流推進センター

海外の教育・文化に直接触れることができる授業の開設や海外留学及び海外交流協定校との学生交流を推進します。留学生の受入れ、留学生の日常生活・学修及び地域との交流を支援します。



## 5 学校教育実践研究センター

「良い先生を育て、良い教育を広めていくセンター」をコンセプトに教育実習及び臨床的・実践的・開発的研究を推進し、学校及び地域社会との連携・支援を行います。



## 6 情報メディア教育支援センター

大学全体の情報基盤の整備と情報セキュリティの確保を行うとともに情報教育を推進します。ヘルプデスクを設置し、学生からの学内情報システム等に関する相談に丁寧に対応します。



## 7 保健管理センター

学生・教職員の心身の健康に関する指導・助言を行います。健康診断をはじめ、専門の職員による健康相談・精神保健相談を実施したり、疾病や怪我の応急措置を行います。



## 8 附属学校(幼稚園・小学校・中学校)

学校教育に関する実践的な研究と学生の教育実習を行うため、附属幼稚園、附属小学校及び附属中学校が置かれています。各学校は先進的な教育プログラムの開発研究に取り組み、その成果を全国に発信しています。



## ● 大学院の学生募集人員

入学定員 210人を前期、中期、後期の3回に分けて募集します。

<b>専門職学位課程</b> (教職大学院) [190人]	<b>教育実践高度化専攻</b>	<b>学校教育実践研究コース</b>
		<b>教科教育・教科複合実践研究コース</b>
		<b>発達支援教育実践研究コース</b>
<b>修士課程</b> [20人]	<b>教育支援高度化専攻</b>	<b>心理臨床研究コース</b>

※詳細については、本学ホームページまたは学生募集要項をご覧ください。

## 筆記試験免除等の制度があります

### 機関長(学長又は学部長)の推薦を受け出願する者に対する筆記試験免除制度

大学等の新卒(卒業見込み)者について、大学院進学への強い熱意を有し、かつ、学業成績及び人物ともに優れていることを機関長(学長又は学部長)が認め推薦する受験者に対し、大学院入試における筆記試験を免除します。

出願できる課程・専攻・コース等は、学生募集要項でご確認ください。

### 教員採用試験合格者に対する筆記試験免除制度

出願時に、教育委員会が実施する教員採用試験(当該年度前に実施された試験を含む。)の合格者で、採用候補者名簿に登録された者又は公立学校の常勤教員として正規採用された経験のある者に対し、大学院入試における筆記試験を免除します。

対象となる課程・専攻・コース等は、学生募集要項でご確認ください。

### 派遣教員・教職経験者には筆記試験を課しません

派遣教員又は教職経験者には、大学院入試における筆記試験は課しません。

対象となる課程・専攻・コース等は、学生募集要項でご確認ください。

※派遣教員：都道府県教育委員会・政令指定都市教育委員会等から現職のまま「同意」を受け出願する者

※教職経験者：初等中等教育における3年以上の教職経験を有する者

## 現職教員が上越教育大学大学院で学ぶには

### 都道府県等教育委員会からの派遣

初等中等教育教員に高度の学習と研究の機会を与え、その理論的・実践的な能力の向上を図るため、都道府県等教育委員会の同意を受けた現職教員を受け入れています。

### 大学院修学休業制度・自己啓発等休業制度を利用

公立学校の教員(教諭、養護教諭、栄養教諭及び講師)で、一種免許状又は特別免許状を有する方は、任命権者の許可を受けて、専修免許状を取得するため1年を単位とする3年を超えない期間、休業して、大学院に在学することができます。また、「自己啓発等休業制度」を利用することもできます。

## ● 令和4年度入試日程

前期募集		中期募集		後期募集	
インターネット出願登録期間	令和3年 9月15日(水)~9月22日(水)	インターネット出願登録期間	令和3年 11月4日(木)~11月12日(金)	インターネット出願登録期間	令和4年 1月26日(水)~2月1日(火)
出願期間	令和3年 9月15日(水)~9月24日(金)	出願期間	令和3年 11月4日(木)~11月15日(月)	出願期間	令和4年 1月26日(水)~2月3日(木)
試験日	令和3年 <b>10月30日(土)</b>	試験日	令和3年 <b>12月11日(土)</b>	試験日	令和4年 <b>3月3日(木)</b>

※出願状況によっては、上記の試験日の翌日にも試験を行う場合があります。詳細については、本学ホームページをご覧ください。

## ● 大学院説明会・入学相談会

### 大学院説明会

#### ■実施内容

- 大学院の概要・入試関係の説明
- 現役大学院生等の体験談
- 個別相談
- 附属図書館及び学生宿舎の見学

【上越会場】  
上越教育大学 **5月22日(土) 13:00~16:00**

【上越会場】  
上越教育大学 **9月4日(土) 13:00~16:00**

### 大学院入学相談会

#### ■実施内容

【オンライン】○コース別個別相談(コース・領域・分野)

[Zoom]

<b>6月12日(土)</b> 9:00~16:00	<b>7月22日(木・祝)</b> 9:00~16:00	<b>8月21日(土)</b> 9:00~16:00	<b>9月11日(土)</b> 9:00~16:00
<b>10月2日(土)</b> 9:00~16:00	<b>10月9日(土)</b> 9:00~16:00	<b>11月20日(土)</b> 9:00~16:00	<b>12月18日(土)</b> 9:00~16:00

【対面式】○一般個別相談(入試、カリキュラム、免P制度、学生生活)

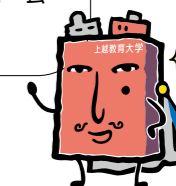
【東京会場】本学東京サテライトオフィス	【名古屋会場】Time Office名古屋
キャンパスイノベーションセンター東京 (東京都港区芝浦3-3-6 JR田町駅前)	アストラーレ名駅3F (愛知県名古屋市中村区名駅2-41-10)
<b>6月5日(土)</b> 12:00~15:30	<b>9月25日(土)</b> 13:00~16:00
<b>7月3日(土)</b> 12:00~15:30	
<b>9月26日(日)</b> 12:00~15:30	
令和4年 <b>1月8日(土)</b> 12:00~15:30	

### 参加方法

参加ご希望の方は、原則として各開催日の1週間前までに右記QRコードまたはホームページからお申込みください。



説明会・相談会についてのご案内や最新情報は、本学ホームページをご覧ください!



# 本学へのアクセス・キャンパスマップ

## ● 広域マップ



### 電車で の アクセス

約1時間50分	東京	北陸新幹線	上越妙高
約3時間50分	大阪	北陸本線 (特急サンダーバード)	上越妙高
約3時間50分	名古屋	東海道新幹線 北陸新幹線	上越妙高

### 車で の アクセス

約3時間50分	東京	関越自動車道	北陸自動車道	上越
約3時間20分	東京	関越自動車道	上信越自動車道	上越高田
約5時間30分	大阪	名神高速道路	北陸自動車道	上越

## キャンパス マップ



- 1 本部事務局
- 2 講堂
- 3 学生会館
- 4 附属図書館
- 5 講義棟
- 6 教職大学院棟
- 7 実験棟
- 8 自然棟
- 9 情報メディア教育支援センター
- 10 第2講義棟
- 11 人文(低層)棟
- 12 人文棟
- 13 音楽(研究)棟
- 14 音楽(個人練習室)棟
- 15 美術(研究)棟
- 16 美術(実習)棟
- 17 体育棟
- 18 小体育館
- 19 体育館
- 20 スポーツ科学実験棟
- 21 臨床研究棟
- 22 心理教育相談センター
- 23 特別支援教育実践研究センター

## ● キャンパス周辺マップ



### 上越妙高駅から……

- [タクシー] 上越妙高駅前から乗車(約20分)
- [バス] 上越妙高駅前から[36]山麓線乗車, 「教育大学東」下車(約20分, 平日のみ運行, 1日3便)
- [鉄道] えちごトキめき鉄道(妙高はなうまライン)の下り線に乗車(約10分), 「春日山駅」下車, 徒歩で約25分(2.2km)

### 高田駅から……

- [タクシー] 高田駅前から乗車(約10分)
- [バス] 高田駅近くの「本町六丁目」から[5]教育大学線乗車, 「教育大学」下車(約15分)

### 直江津駅から……

- [タクシー] 直江津駅前から乗車(約10分)
- [バス] 直江津駅前から[5]教育大学線乗車, 「教育大学」下車(約20分)
- [バス] 直江津駅前から[36]山麓線乗車, 「教育大学東」下車(約15分, 平日のみ運行, 1日3便)

## 学びの場は、多くの歴史と文化が薫るまち



高田公園の夜桜



上杉謙信公像(春日山)

上越市は、新潟県南西部の日本海に面して位置し、市の中央部には、関川、保倉川などが流れ、この流域に高田平野が広がっています。この広大な平野を取り囲むように、米山山地、東頸城丘陵、関田山脈、南葉山地、西頸城山地などの山々が連なっています。

海岸線には砂浜や天然の湖沼群が点在し、多様な自然を有する海・山・大地に恵まれた自然豊かな地域です。

古くから日本海側の交通の要衝として栄えましたが、現在も重要港湾である直江津港、北陸自動車道と上信越自動車道、JR 信越本線、ほくほく線に加え、2015年(平成27年)から北陸新幹線とえちごトキめき鉄道が開業するなど、陸・海の広域交通の結節点としての拠点性は一層高まっており、上越魚沼地域振興快速道路などのプロジェクトも進行しています。

